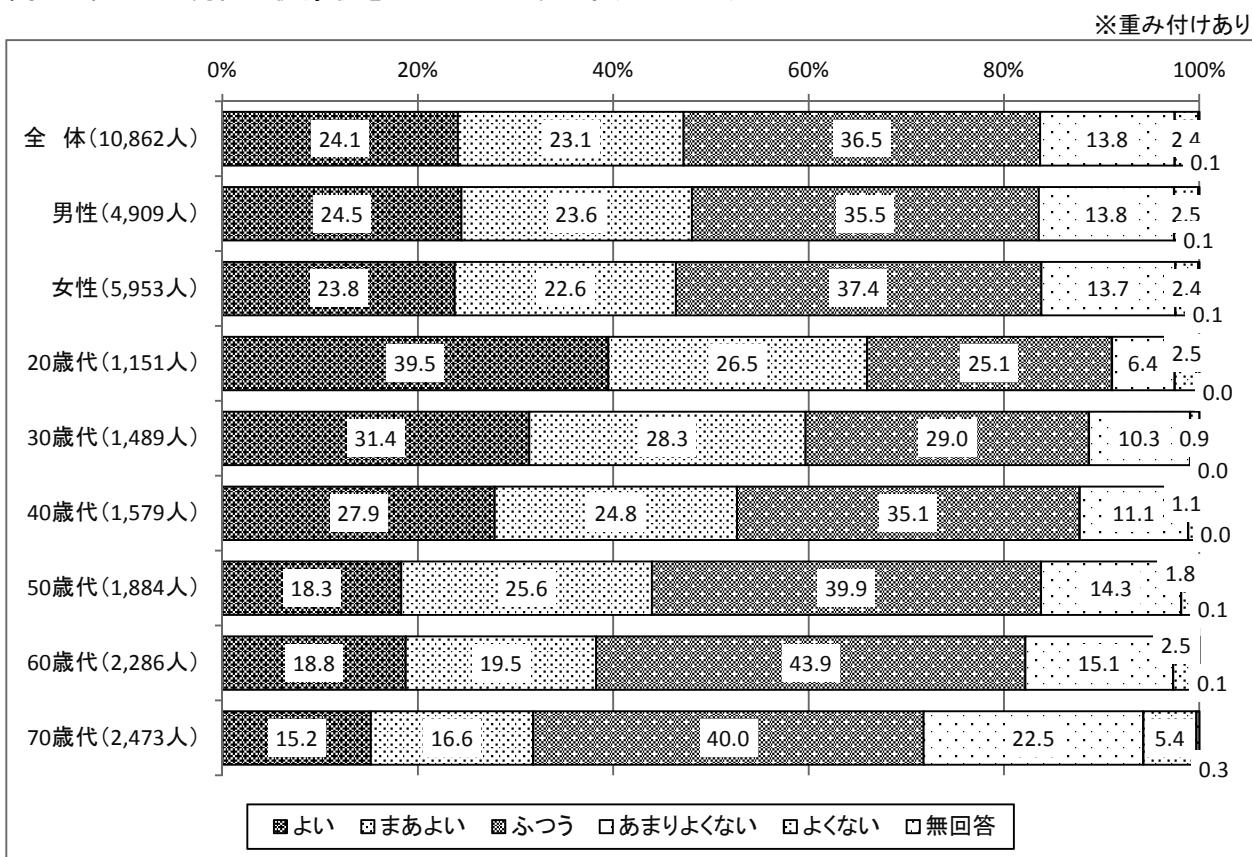


調査結果

健康状況について

問1 あなたの現在の健康状態はいかがですか。(○は1つ)



健康状態の調査では、全体の5割弱が比較的健康状態がよく（「よい」または「まあよい」と回答）、8割強が普通以上の状態（「よい」、「まあよい」、「ふつう」と回答）であった。

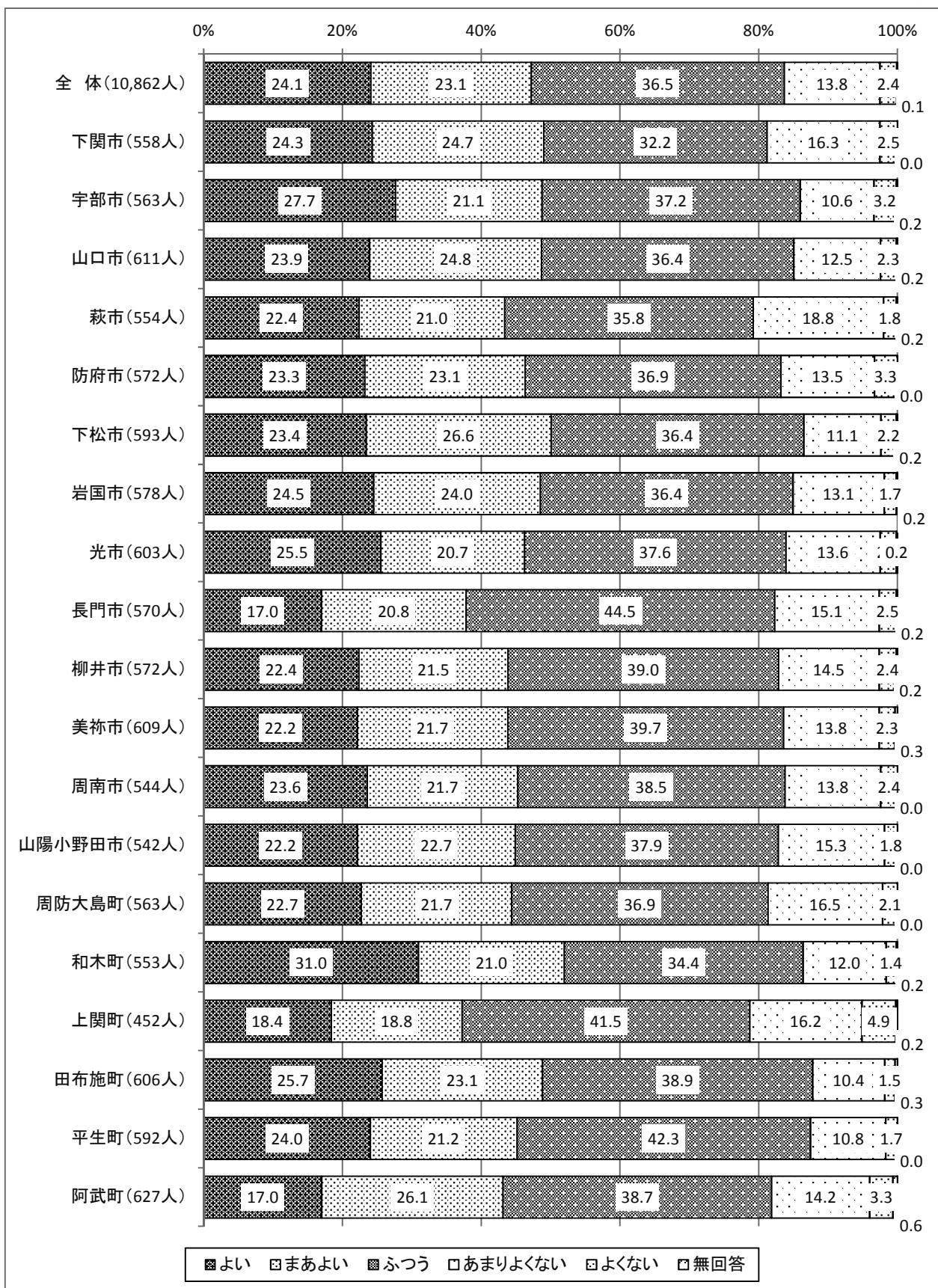
性別の集計では、男女間の回答に大きな差はなかった。

年代別の集計では、年を重ねるにつれて健康状態が「よい」と回答した割合は低下していた。

市町別の集計では、和木町は、健康状態が「よい」と回答した割合が最も高かった。長門市、上関町、阿武町において健康状態が「よい」と回答した割合が低かった。

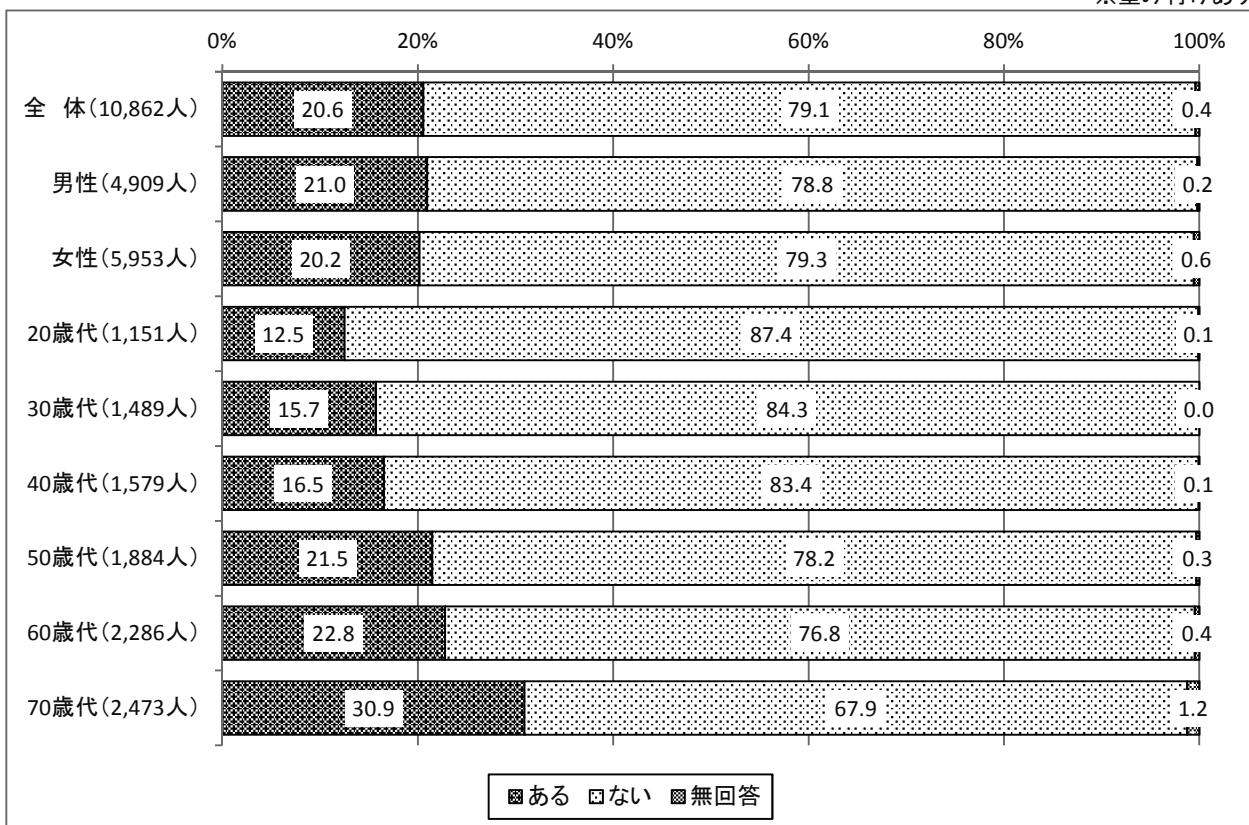
参考値 平成22年国民生活基礎調査 よいと思っている（「よい」と「まあよい」をあわせた者）38.5%（6歳以上）

※重み付けあり



問2 あなたは現在、健康上の問題で日常生活に何か影響がありますか。(○は1つ)

※重み付けあり



健康上の問題による日常生活への影響が「ある」と回答した割合は、全体の2割程度であった。

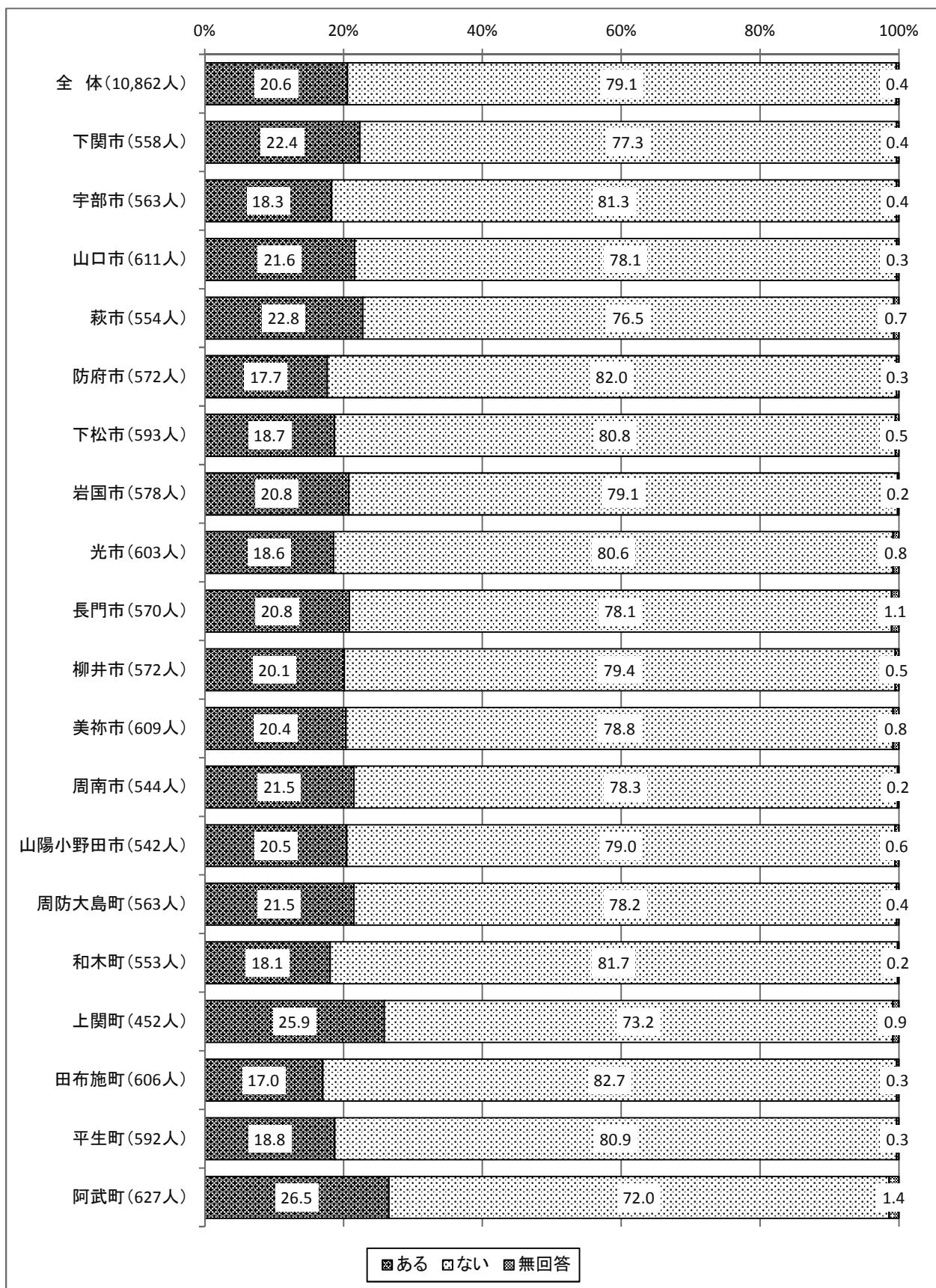
性別の集計では、男女間の回答に大きな差はなかった。

年代別の集計では、年を重ねるにつれて健康上の問題による日常生活への影響が「ある」と回答した割合は高くなった。この傾向は、50歳代、60歳代までは緩やかに増加し、70歳代では大きく増加していた。

市町別の調査結果では、上関町、阿武町において、健康上の問題による日常生活への影響が「ある」と回答した割合は高かった。

参考値 平成22年国民生活基礎調査 「日常生活に制限あり」 11.9% (20歳から79歳まで、不在者を除く)

※重み付けあり

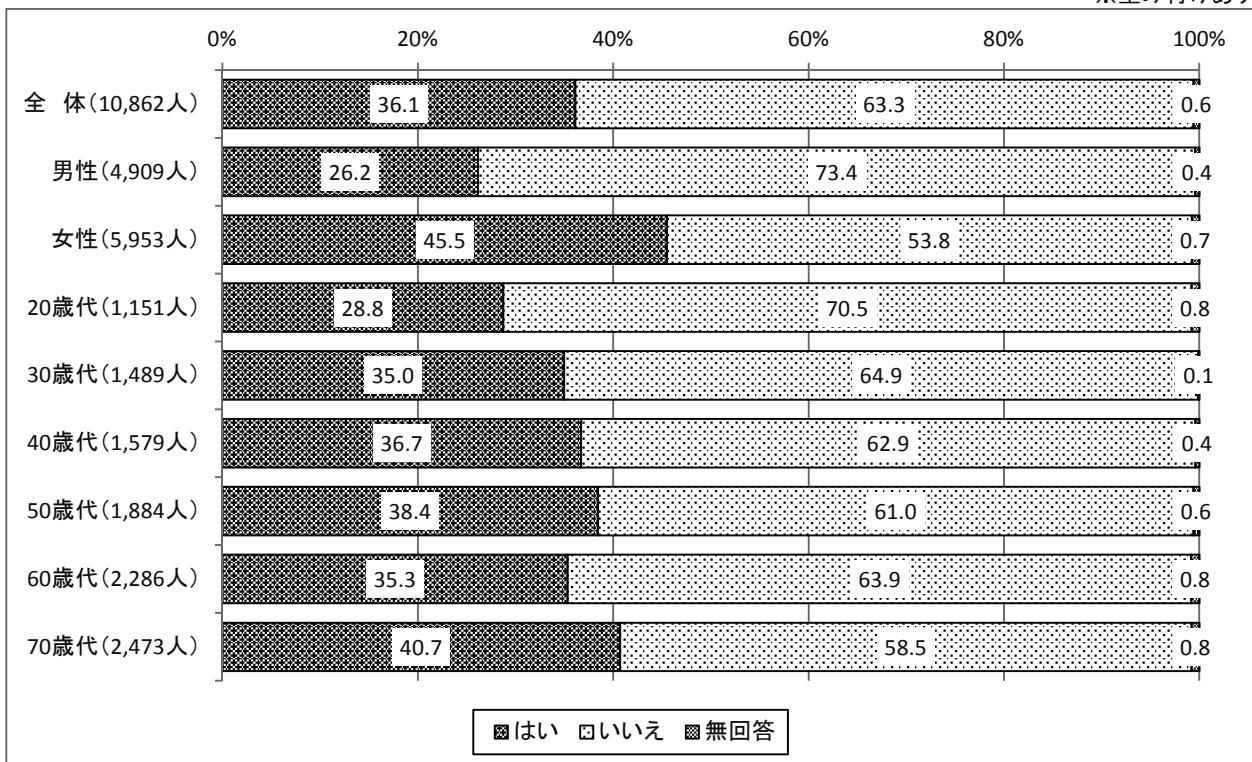


■ある □ない □無回答

栄養・食生活について

問3 あなたは、外食する時や食品を購入する時に、栄養成分表示を参考にしますか。(○は1つ)

※重み付けあり



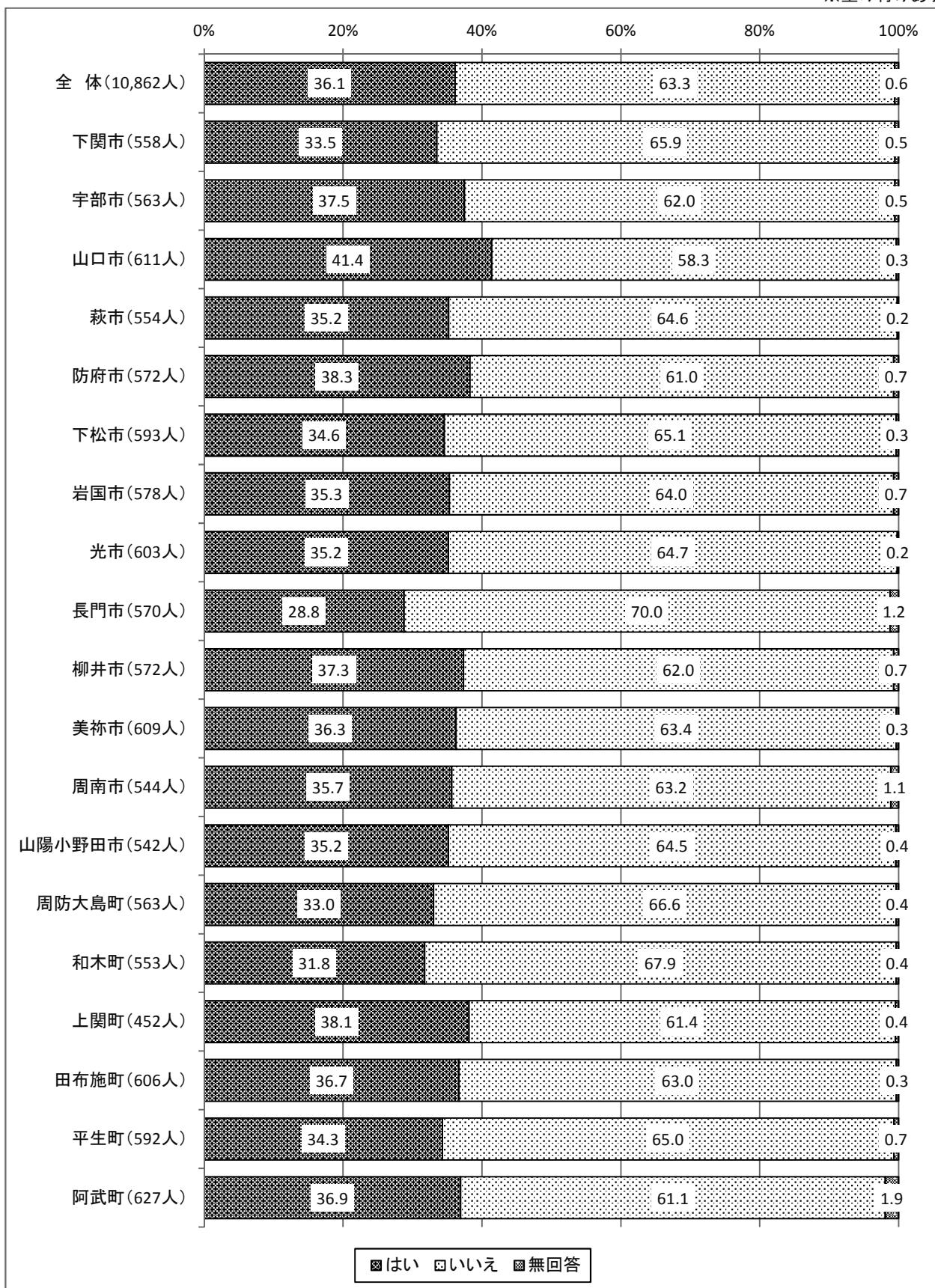
外食や食品購入時に栄養成分表示を参考にすると回答した割合は、全体の36.1%であった。性別の集計では、男性で26.2%、女性で45.5%が栄養成分表示を参考にすると回答し、女性のほうがより栄養成分表示を参考にする傾向があった。

年代別の集計では、年を重ねるにつれて栄養成分表示を参考にする割合が緩やかに高くなる傾向があった。

市町別の集計において、栄養成分表示を参考にする割合は、山口市で41.4%と最も高く、長門市で28.8%と最も低かった。

参考値 平成25年山口県健康づくりに関する意識調査 「栄養成分表示を参考にする」 36.5%

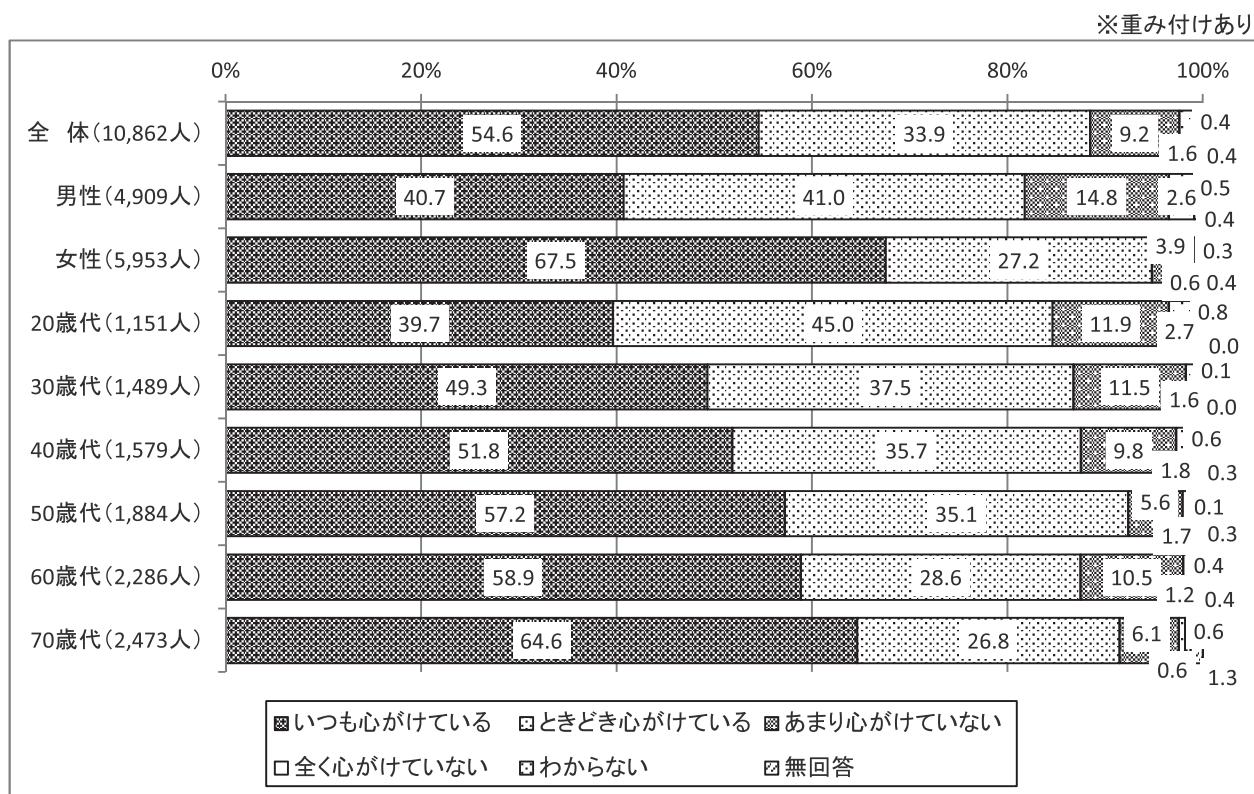
※重み付けあり



■はい □いいえ ▨無回答

問4 あなたは、次の項目について、どの程度心がけていますか。(各項目につき、○は1つ)

ア. 野菜を食べること



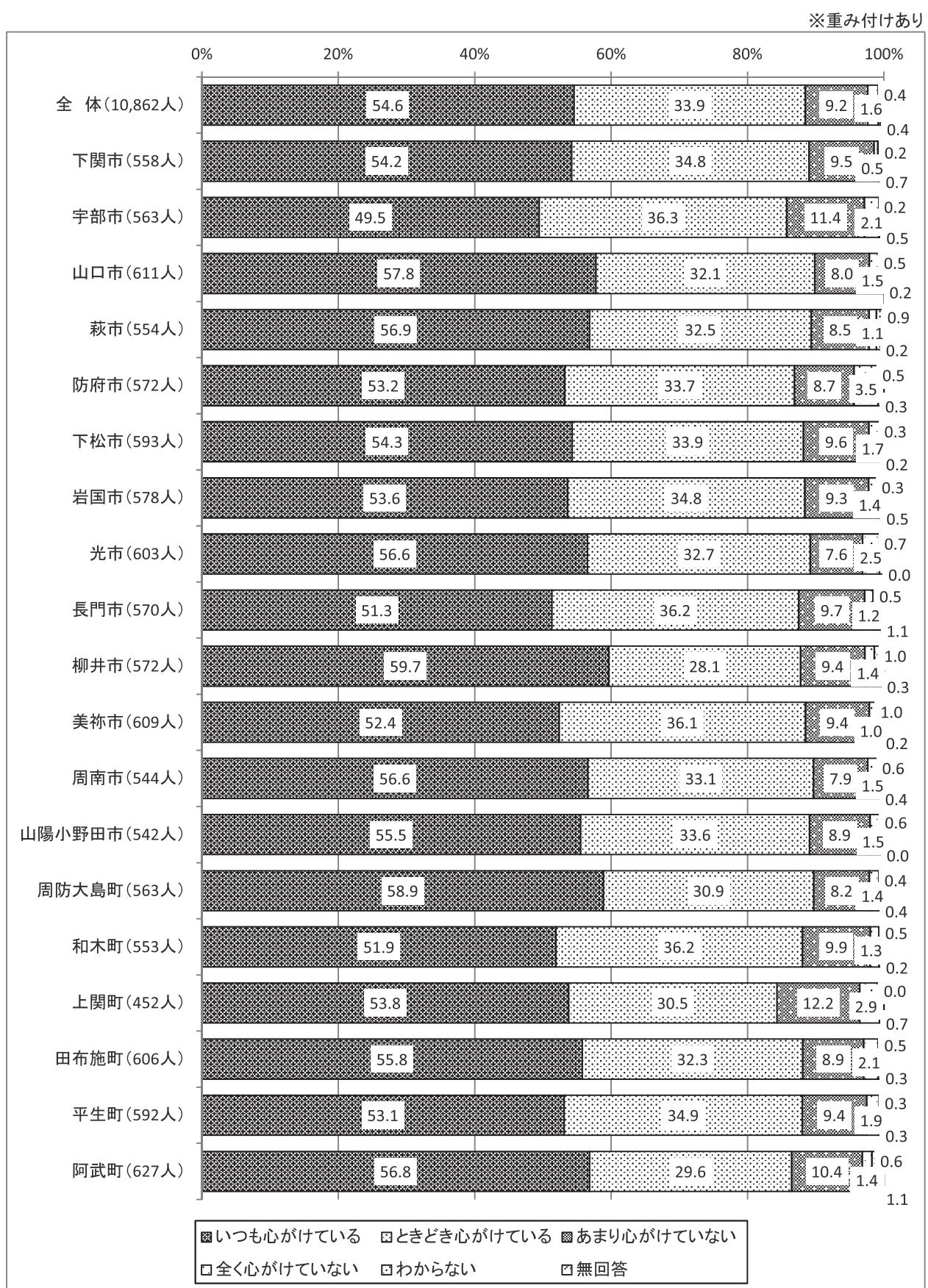
野菜を食べることを「いつも心がけている」と回答した割合は、全体の54.6%であった。

性別の集計では、男性で40.7%、女性で67.5%が野菜を食べることを「いつも心がけている」と回答し、女性のほうがより野菜を食べることを心がけているという傾向があった。

年代別の集計では、年を重ねるにつれて野菜を食べることを「いつも心がけている」と回答した割合が高くなる傾向があった。

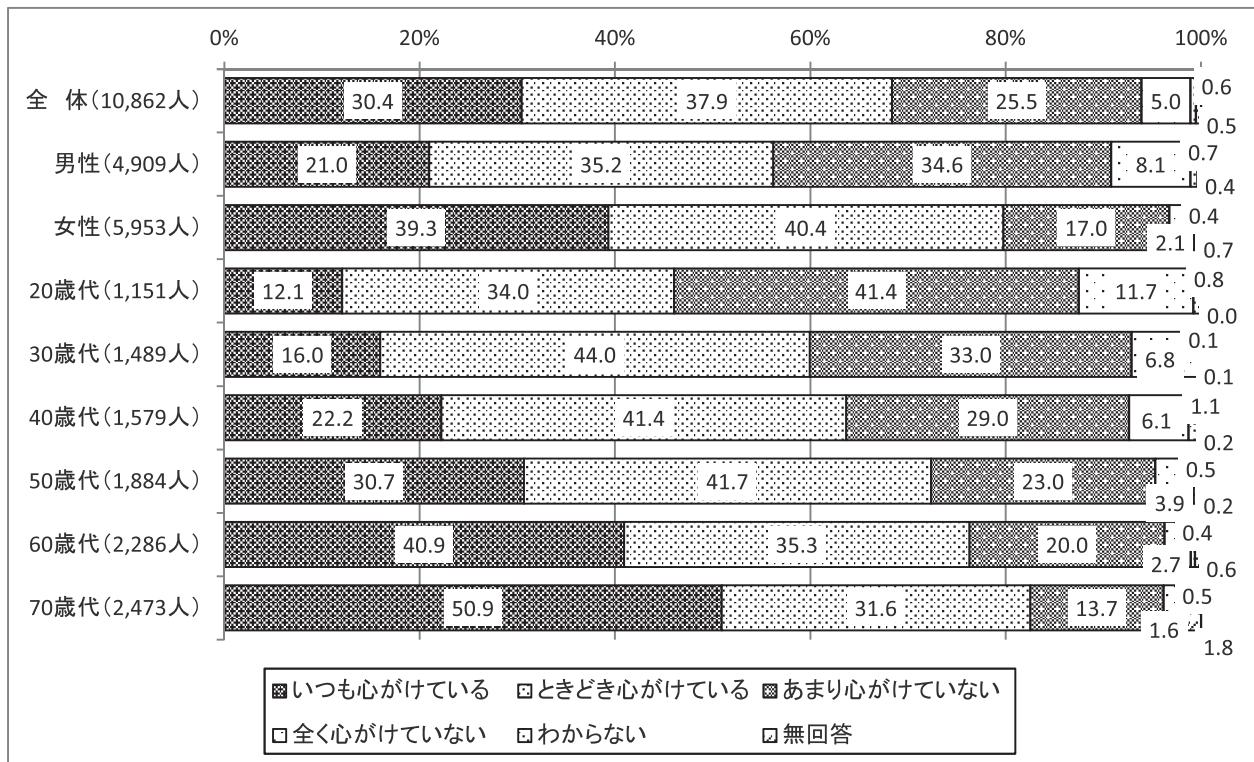
市町別の集計において、野菜を食べていることを「いつも心がけている」と回答した割合は、宇都市、長門市、和木町で低かった。

参考値 内閣府平成24年食育に関する意識調査 「いつも心がけている」 68.5%（個別面接聴取）



イ. 塩分の多い料理を控えること

※重み付けあり



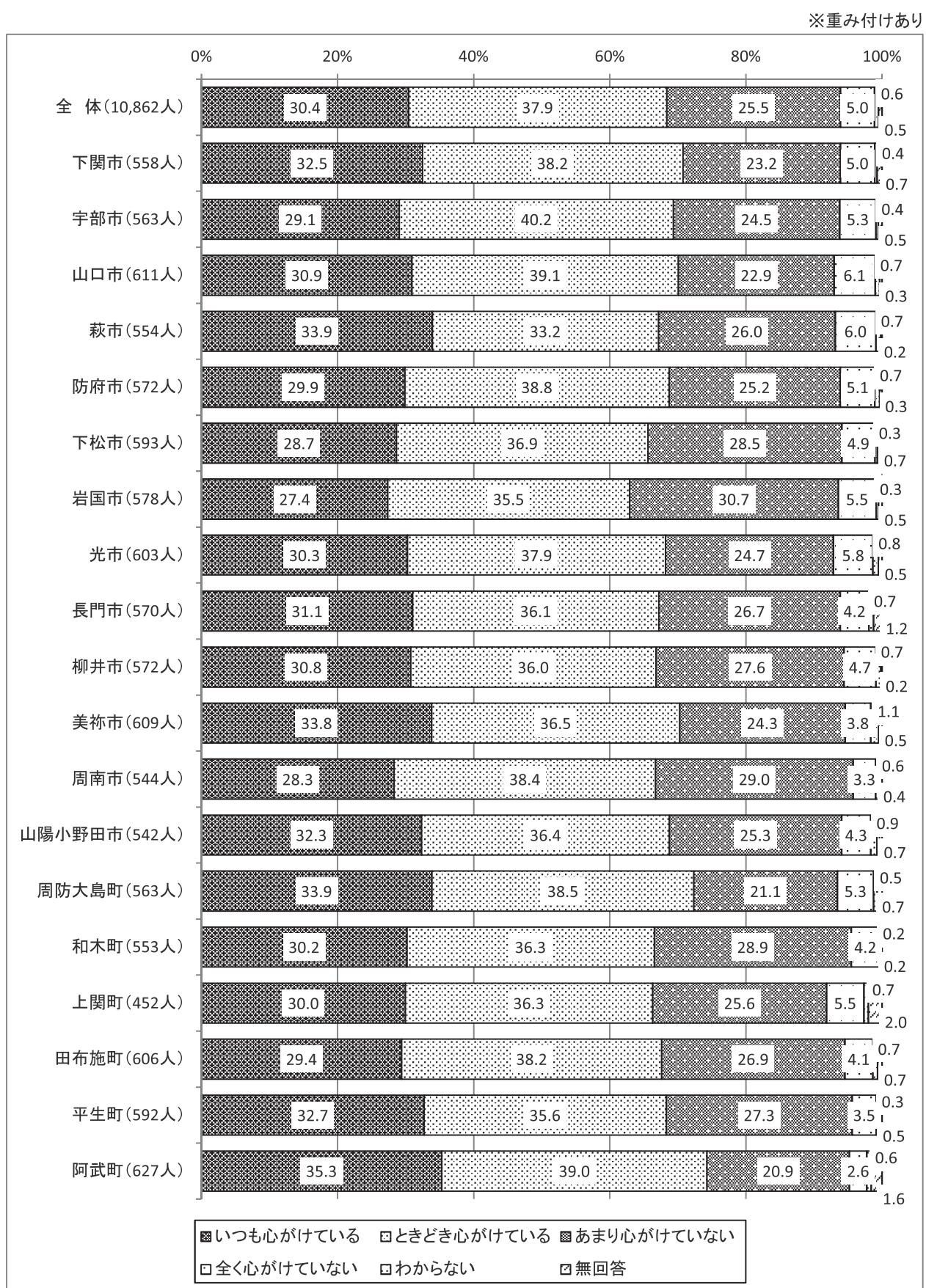
塩分の多い料理を控えることを「いつも心がけている」と回答した割合は、全体の30.4%であった。

性別の集計では、男性で21.0%、女性で39.3%が塩分の多い料理を控えることを「いつも心がけている」と回答し、女性のほうより塩分を控えることを心がけているという傾向があった。

年代別の集計では、年を重ねるにつれて塩分の多い料理を控えることを「いつも心がけている」と回答した割合は高くなる傾向があった。

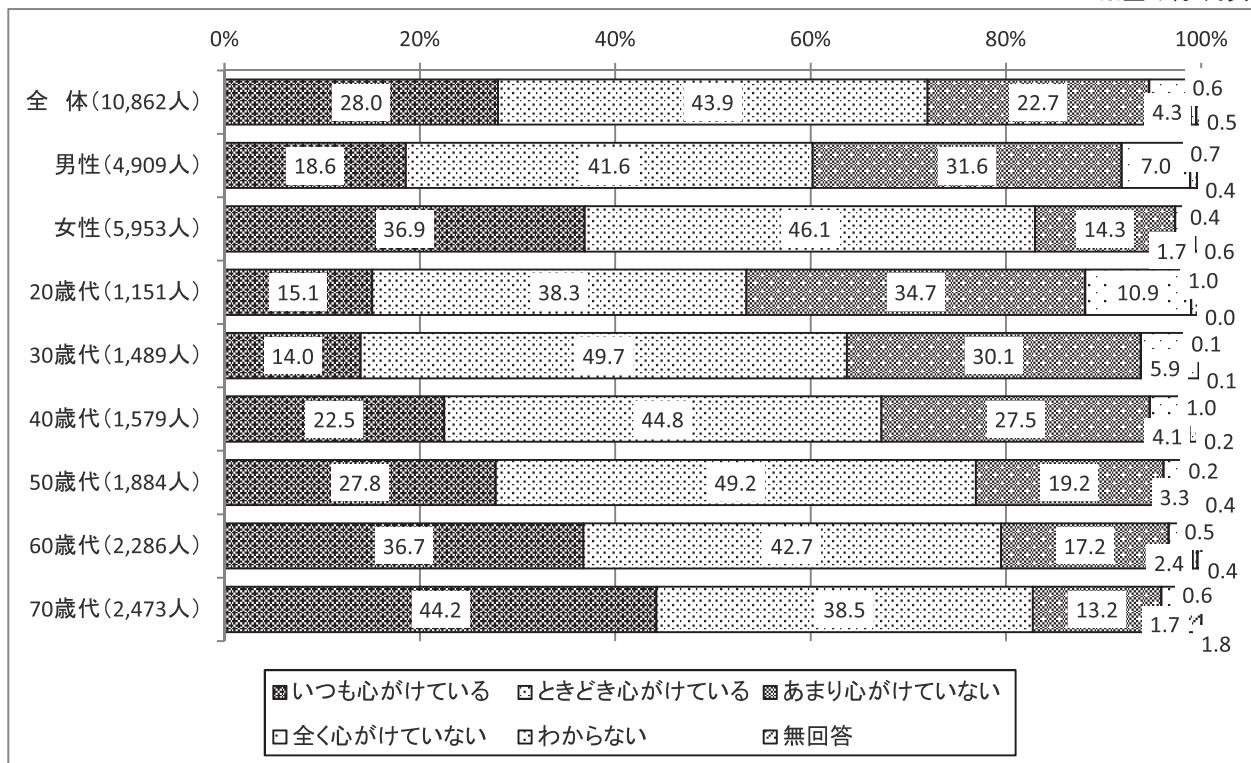
市町別の集計では、萩市、美祢市、周防大島町、阿武町において、塩分の多い料理を控えることを「いつも心がけている」と回答した割合が高かった。

参考値 平成24年内閣府平成24年食育に関する意識調査 「いつも心がけている」 44.2%（個別面接聴取）



ウ. 油の多い料理を控えること

※重み付けあり



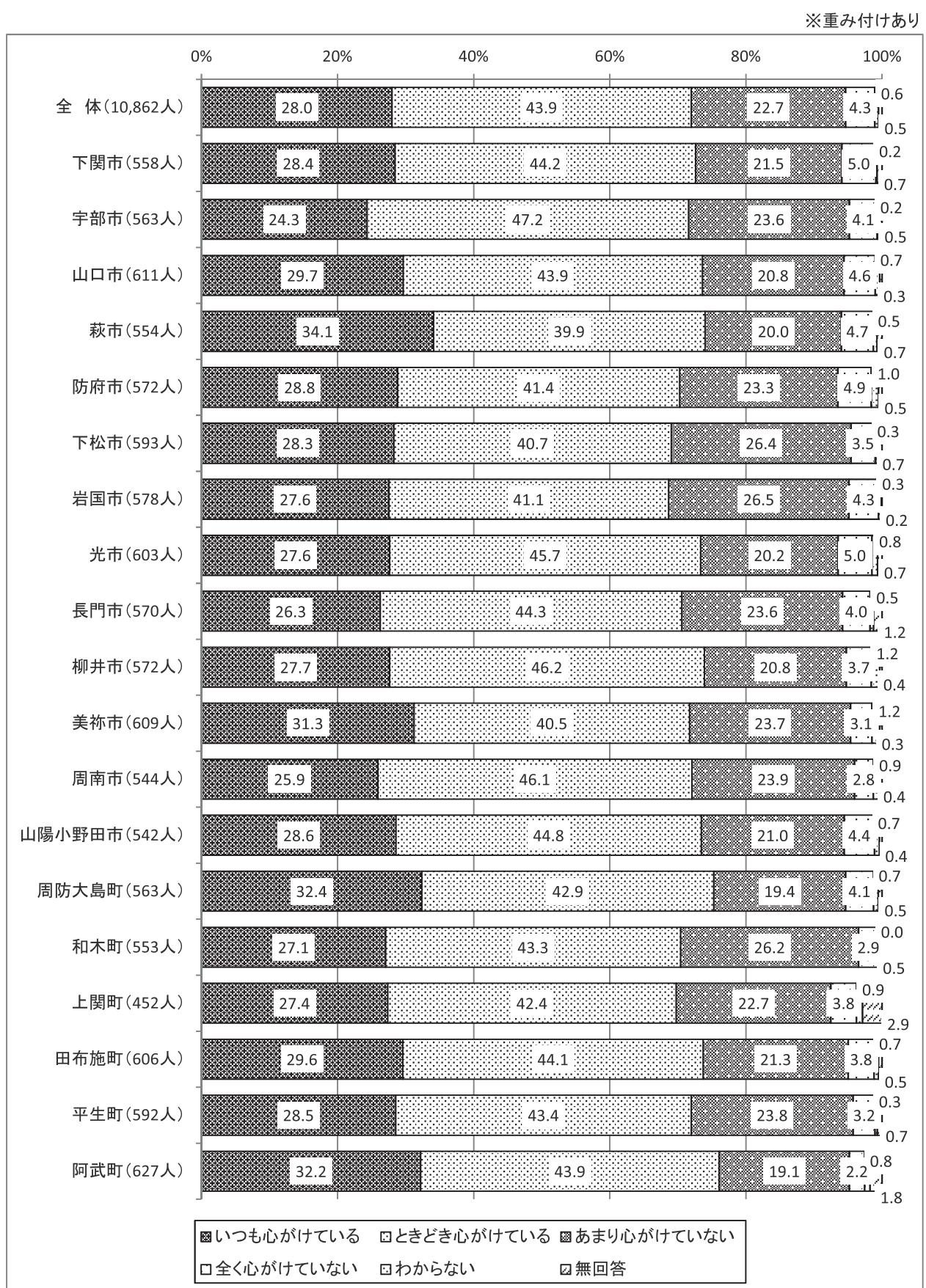
油の多い料理を控えることを「いつも心がけている」と回答した割合は、全体の28.0%であった。

性別別の集計では、男性で18.6%、女性で36.9%が油の多い料理を控えることを「いつも心がけている」と回答し、女性のほうがより油の多い料理を控えることを心がけているという傾向があった。

年代別の集計では、年を重ねるにつれて油の多い料理を控えることを「いつも心がけている」と回答した割合は高くなる傾向があった。

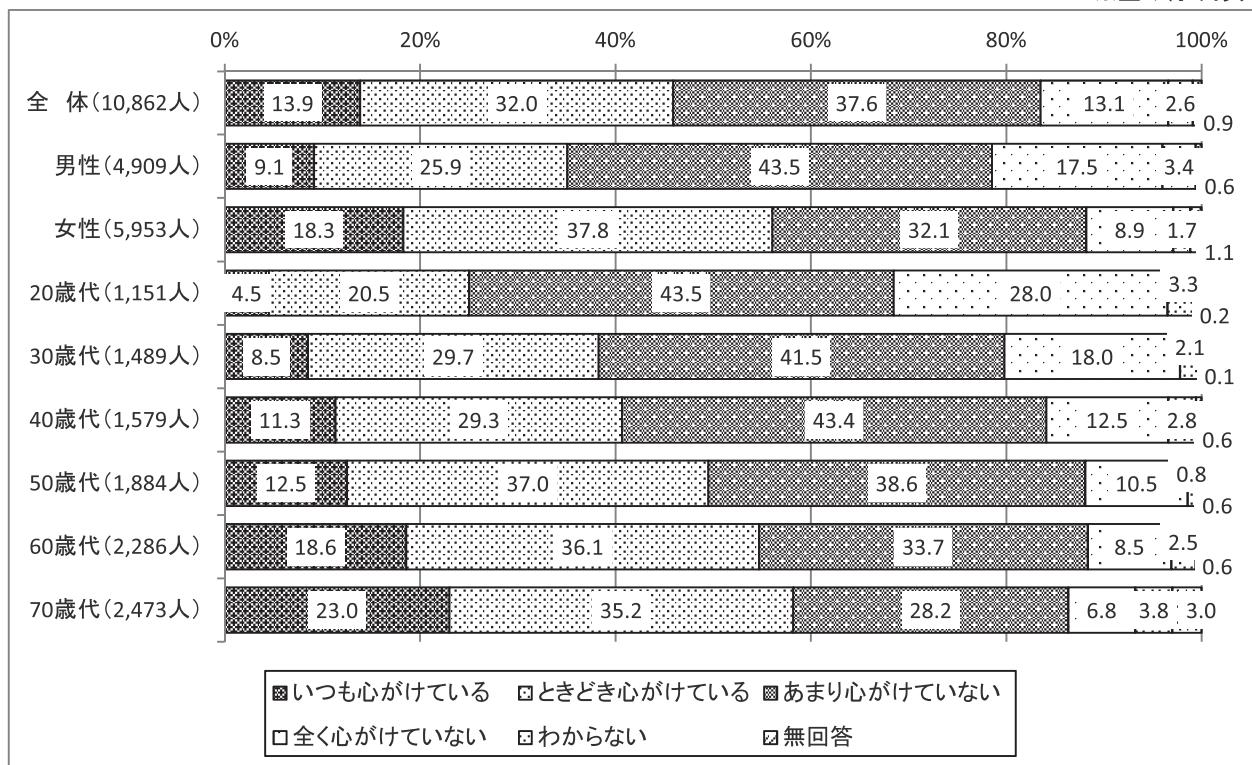
市町別の集計では、萩市、美祢市、周防大島町、阿武町において、油の多い料理を控えることを「いつも心がけている」と回答した割合が高かった。

参考値 内閣府平成24年食育に関する意識調査 「いつも心がけている」 43.4%（個別面接聴取）



工. 地域の郷土料理を食べたり地場産物を活用すること

※重み付けあり



「地域の郷土料理を食べたり地場産業を活用すること」を「いつも心がけている」または「ときどき心がけている」と回答した割合は、全体の45.9%であった。

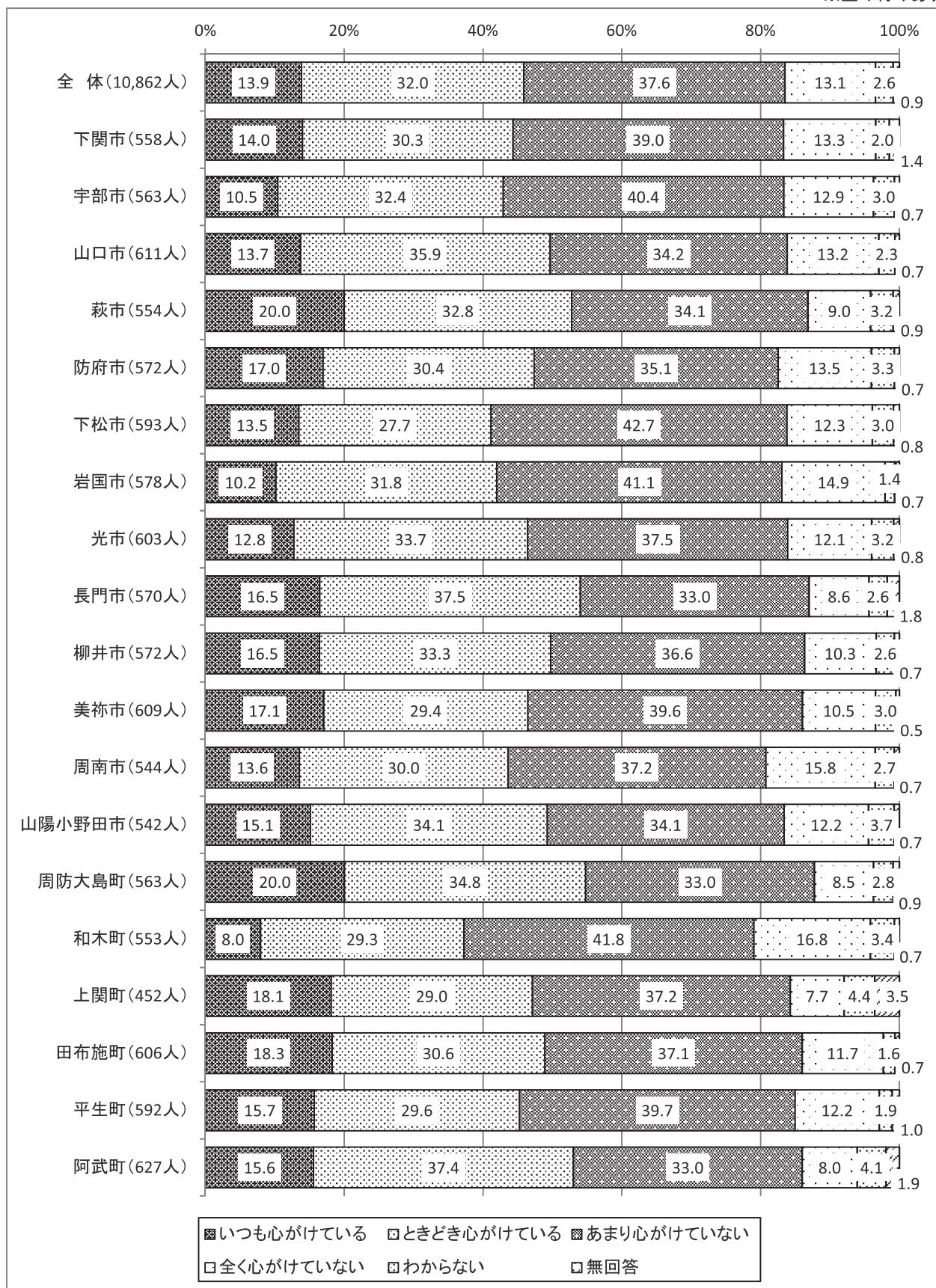
性別別の集計では、男性で35.0%、女性で56.1%が「いつも心がけている」または「ときどき心がけている」と回答し、女性の方がより郷土料理を食べたり、地場産物の活用を心がけているという傾向があった。

年代別の集計では、「いつも心がけている」または「ときどき心がけている」と回答した割合は、20歳代で25.0%と最低となり、それ以降の年代では、年を重ねるにつれて増加する傾向があった。

市町別の集計では、「いつも心がけている」または「ときどき心がけている」と回答した割合は、萩市、長門市、周防大島町、阿武町で高く、和木町で最も低かった。

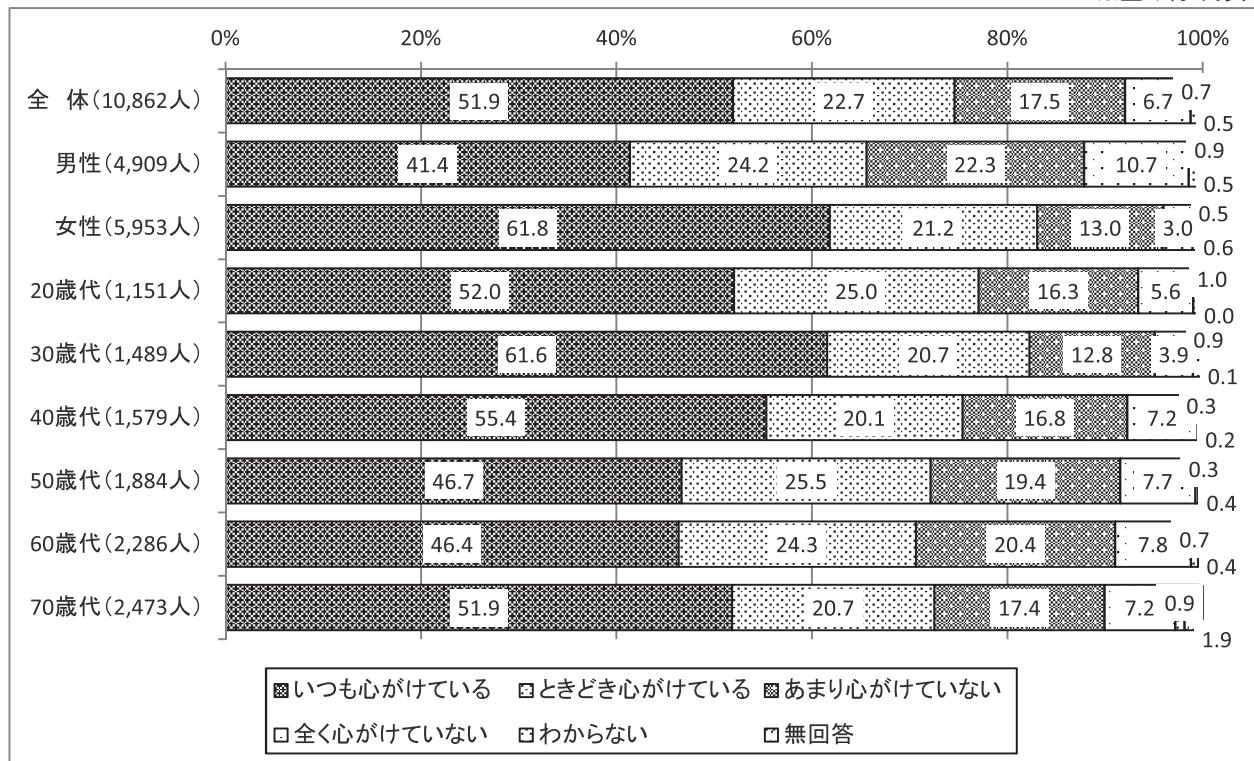
参考値 内閣府平成24年食育に関する意識調査 「いつも心がけている」 22.6%（個別面接聴取）

※重み付けあり



才. 「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをすること

※重み付けあり



「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつを「いつも心がけている」と回答した割合は、全体の51.9%であった。

性別の集計では、男性で41.4%、女性で61.8%が「いつも心がけている」と回答し、女性のほうがより食事の際のあいさつを心がけているという傾向があった。

年代別の集計では、「いつも心がけている」と回答した割合は、30歳代で最も高く61.6%であった。

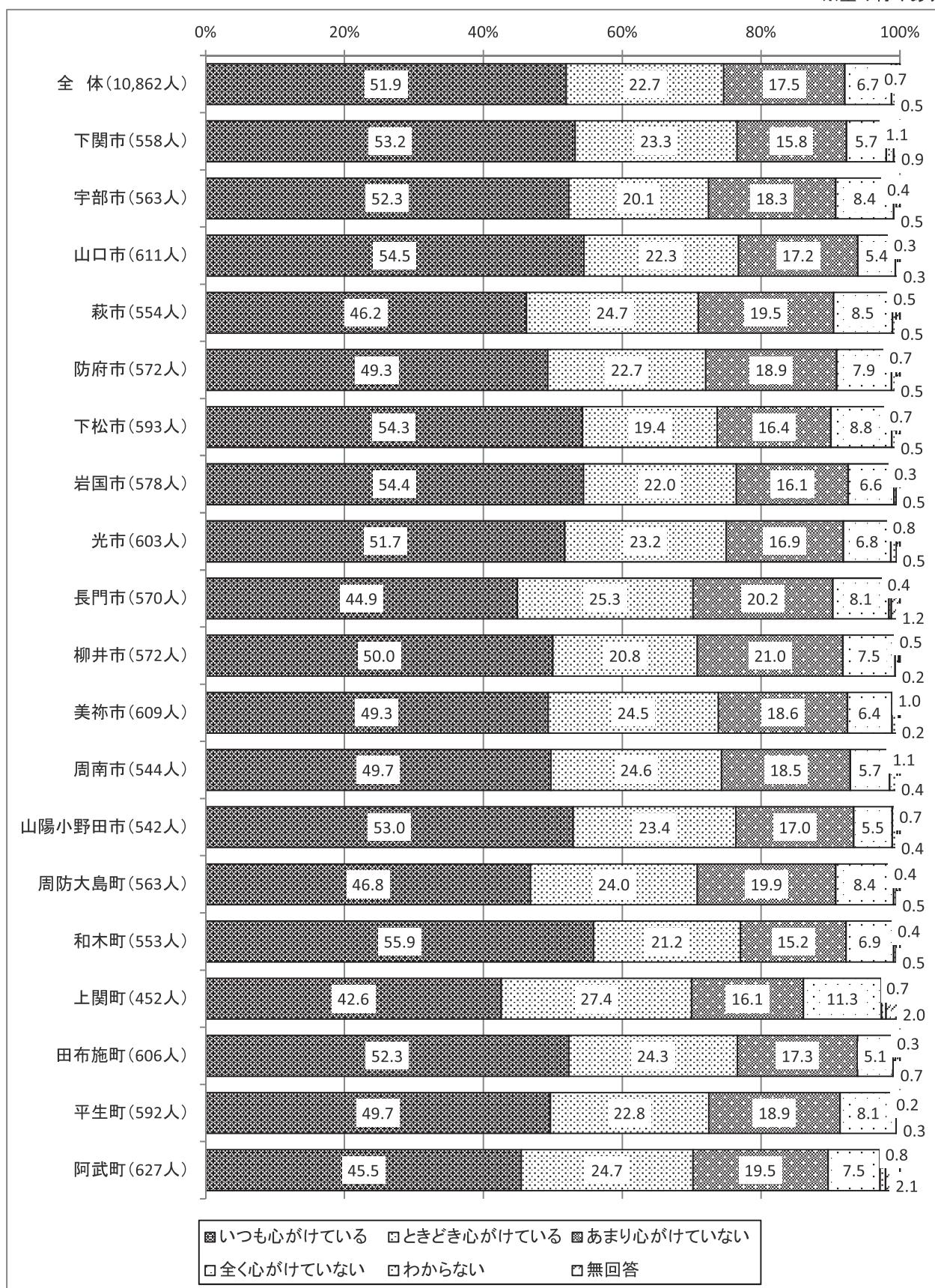
市町別の集計では、「いつも心がけている」と回答した割合は、和木町で最も高く55.9%、上関町で最も低く42.6%であった。

【問4総合コメント】

男性より女性のほうが、低年齢層より高年齢層のほうがより食事の内容に気をつけていた。

「野菜」「塩分」「油分」の摂取については、「野菜」の摂取を心がけている者の割合が最も高かった。

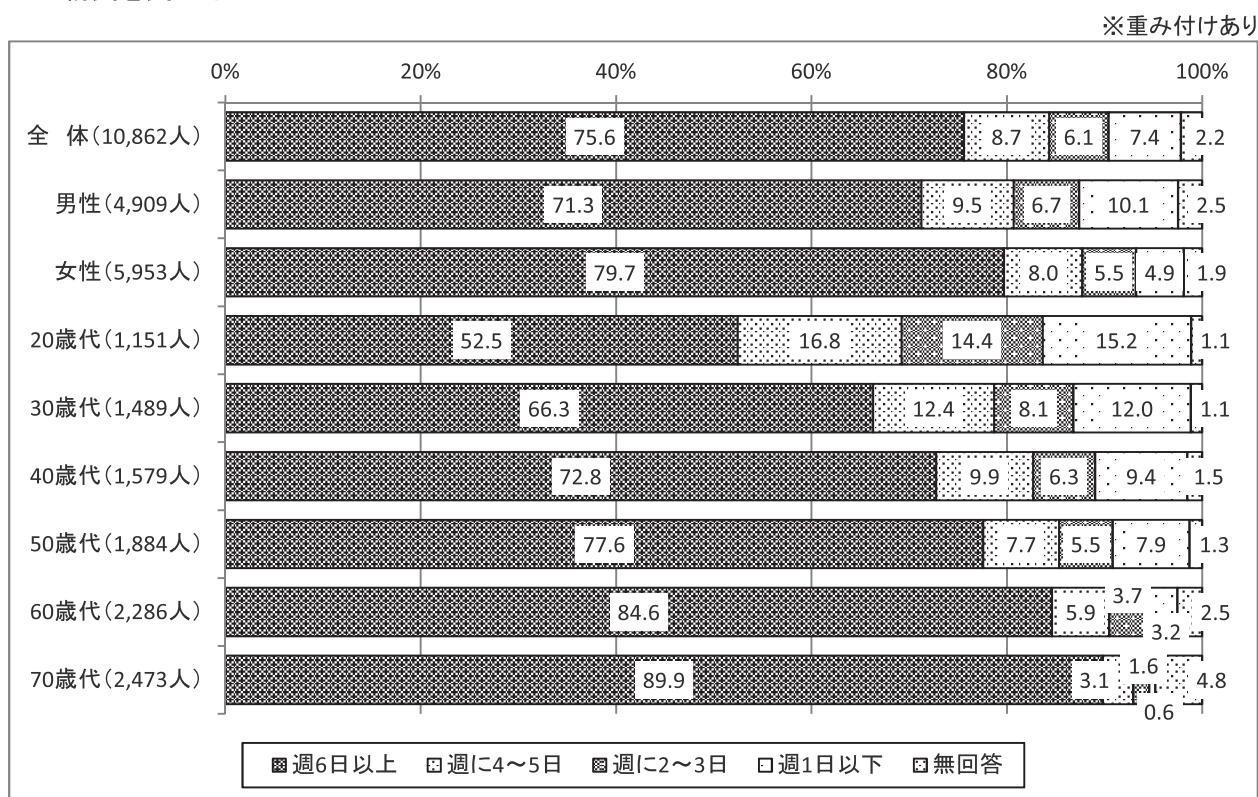
※重み付けあり



■いつも心がけている □ときどき心がけている ▨あまり心がけていない
□全く心がけていない □わからない □無回答

問5 あなたは、次の項目について、週に何日くらい実践していますか。(各項目につき、○は1つ)

ア. 朝食を食べること



「週6日以上」朝食を食べていると回答した割合は、全体の75.6%であった。

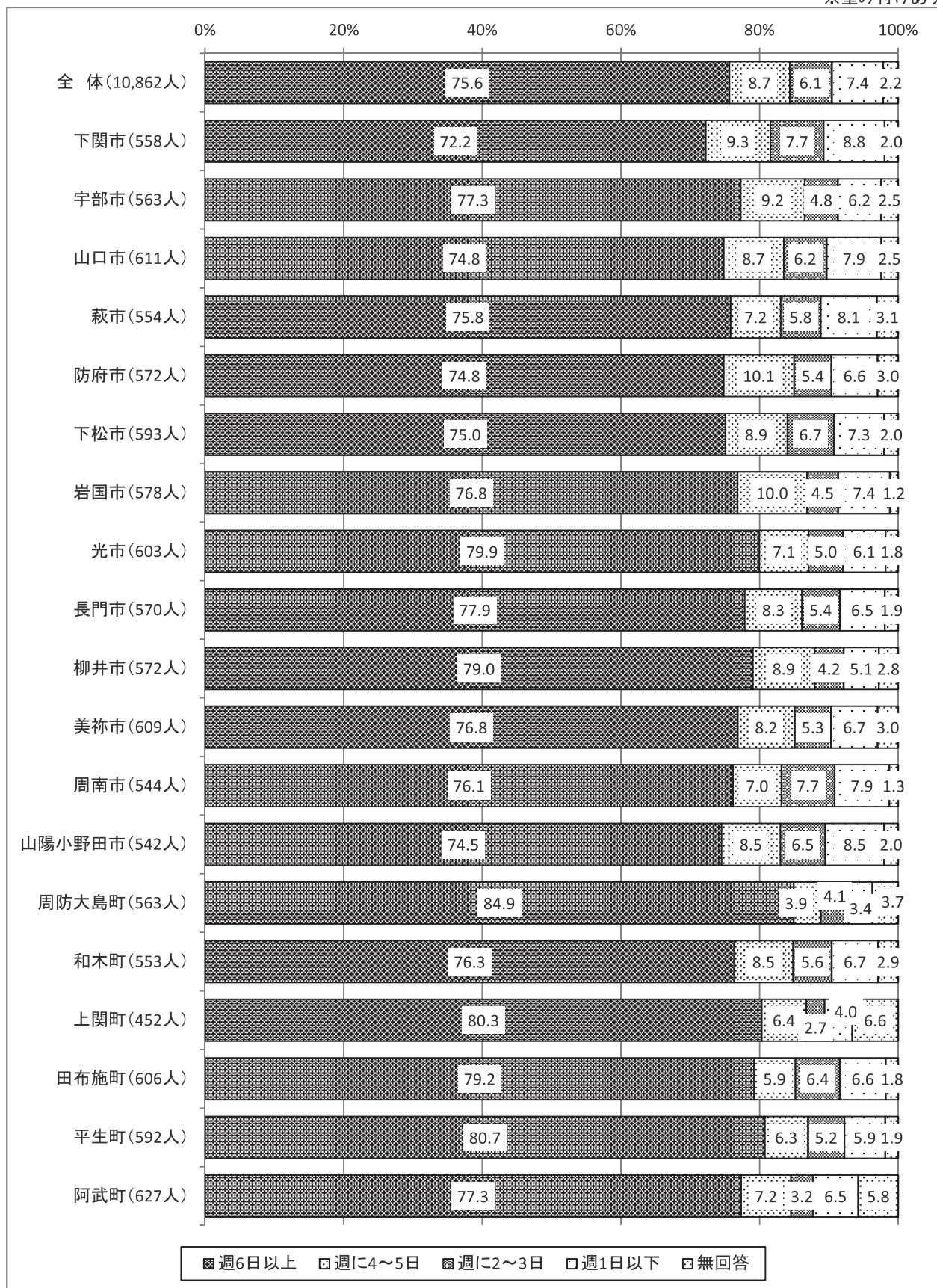
性別別では、男性で71.3%、女性で79.7%が「週6日以上」朝食を食べていると回答し、女性のほうがより朝食をとるように心がけているという傾向があった。

年代別では、年を重ねるにつれて「週6日以上」朝食を食べていると回答した割合は高くなる傾向があった。

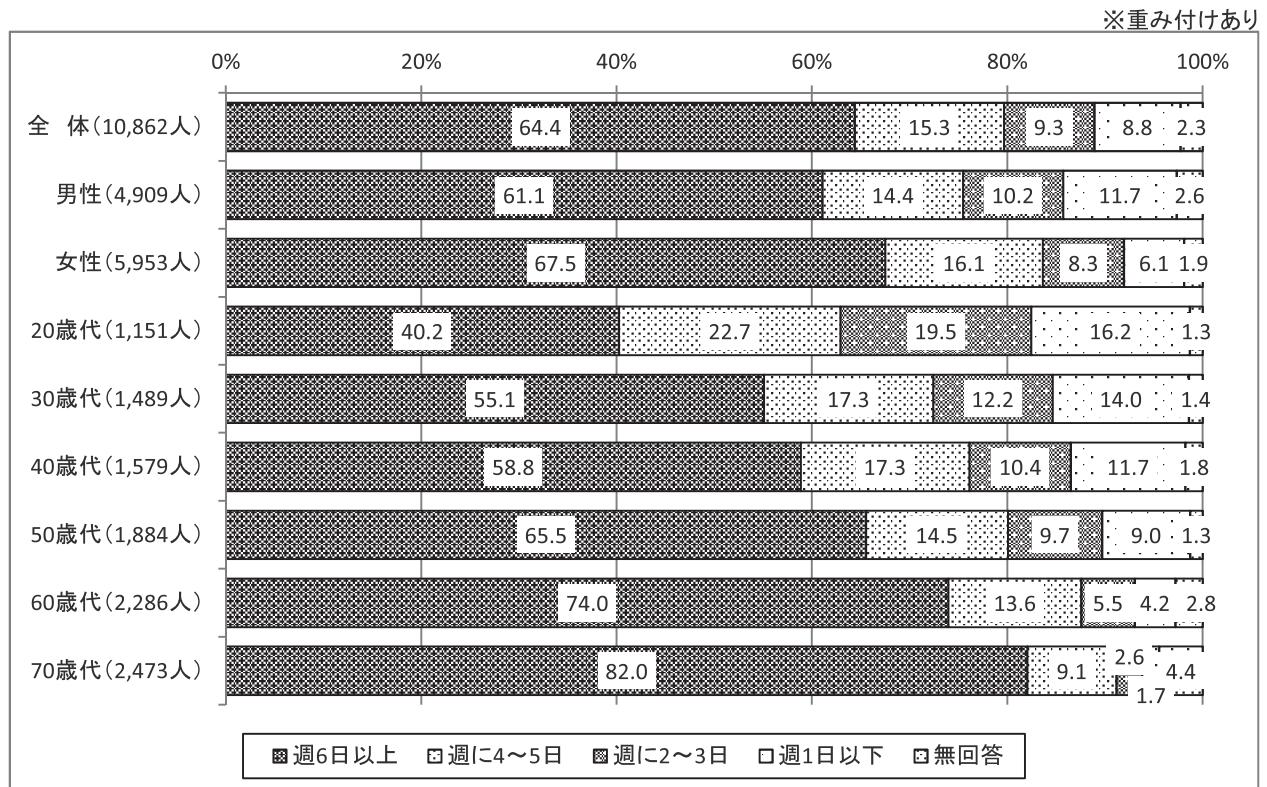
市町別の集計では、「週6日以上」朝食を食べていると回答した割合は、周防大島町で最も高く84.9%、下関市で最も低く72.2%となった。

参考値 内閣府平成24年食育に関する意識調査 「ほとんど毎日」 82.7%（個別面接聴取）

※重み付けあり



イ. 1日3食、規則正しく食べること



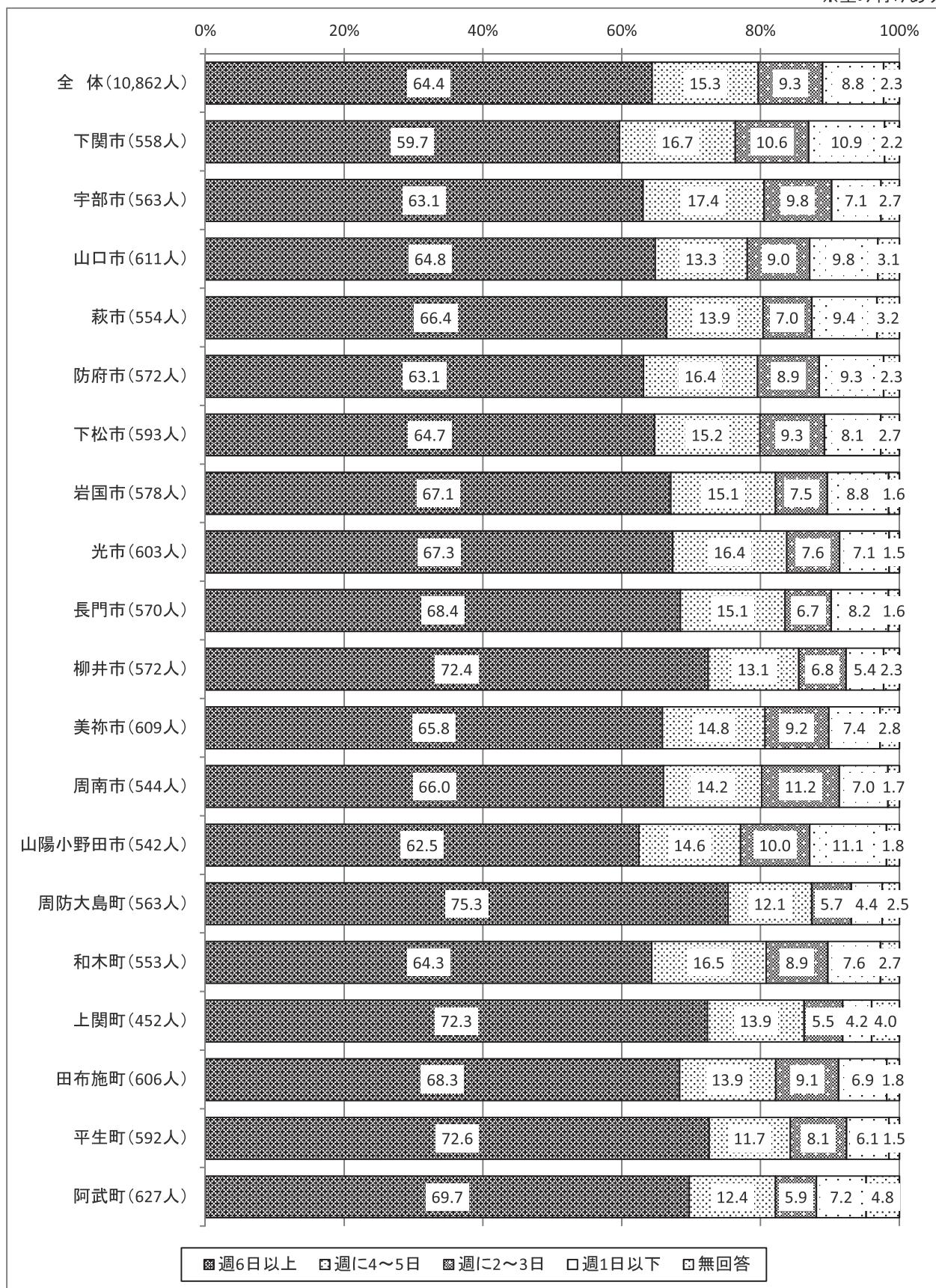
「週6日以上」1日3食をとっていると回答した割合は、全体の64.4%であった。

性別別の集計では、男性で61.1%、女性で67.5%が「週6日以上」1日3食をとっていると回答し、女性のほうがより1日3食を心がけているという傾向があった。

年代別の集計では、年を重ねるにつれて「週6日以上」1日3食をとっていると回答した割合は高くなる傾向があった。

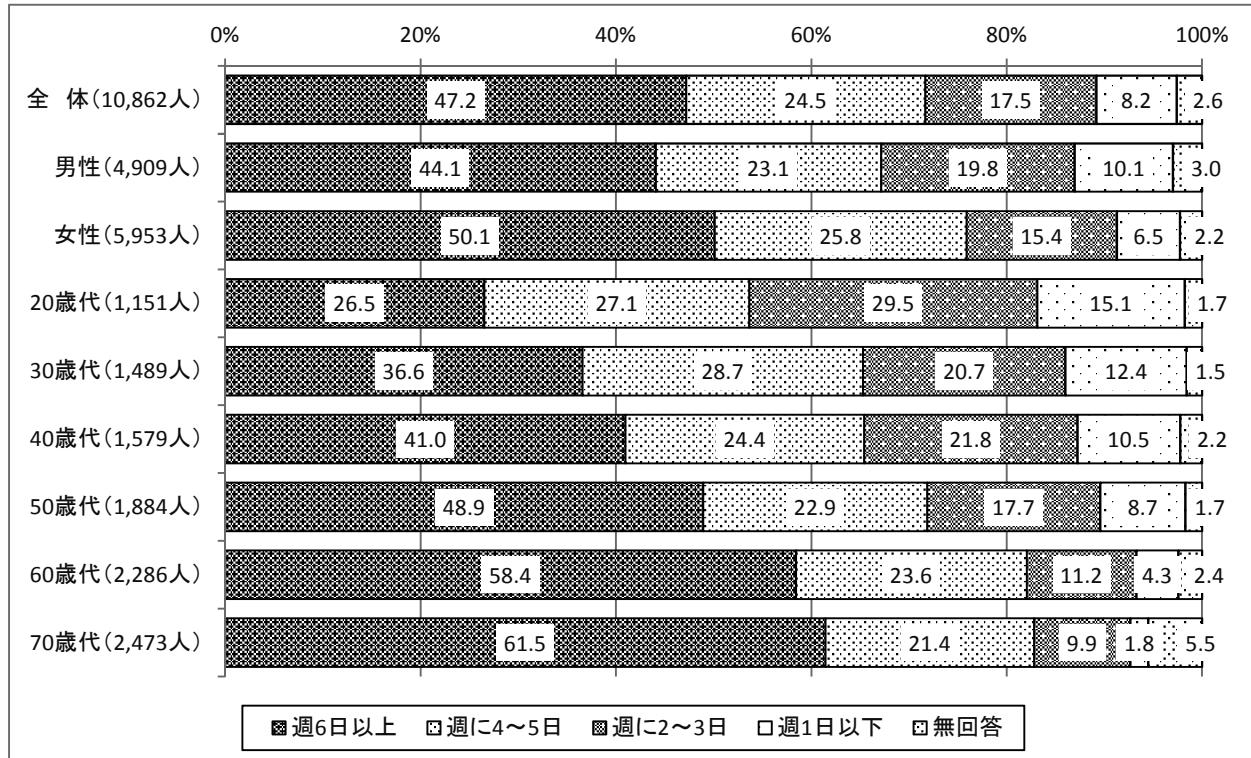
市町別の集計では、「週6日以上」1日3食をとっていると回答した割合は、周防大島町で最も高く75.3%、下関市で最も低く59.7%となった。

※重み付けあり



ウ. 主食、主菜、副菜のそろった食事を1日2回以上とること

※重み付けあり



「週6日以上」主食、主菜、副菜のそろった食事を1日2回以上とっていると回答した割合は、全体の47.2%であった。

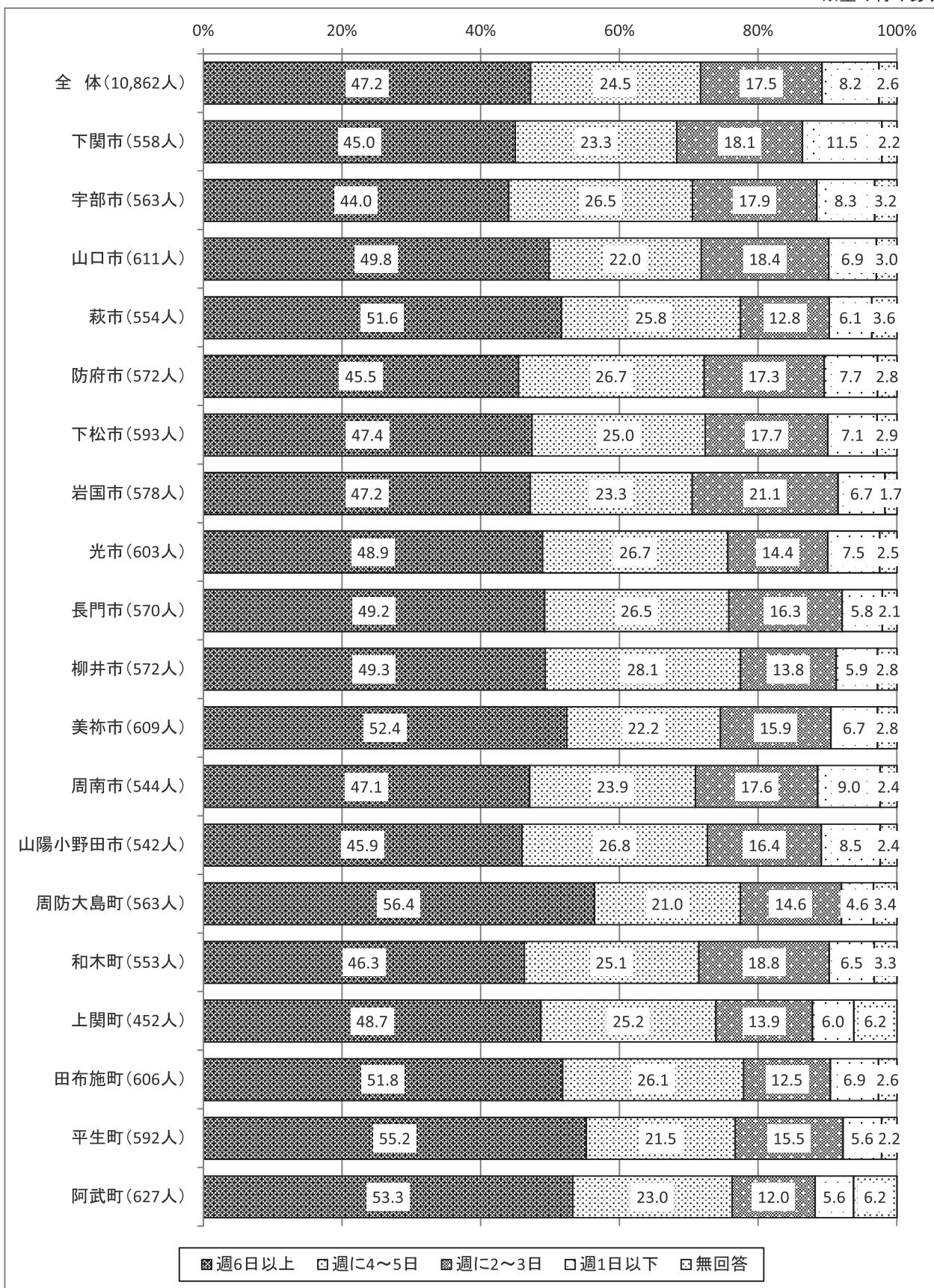
性別の集計では、男性で44.1%、女性で50.1%が「週6日以上」主食、主菜、副菜のそろった食事を1日2回以上とっていると回答し、女性のほうがより毎食ごとにバランスのとれた食事をとるよう心がけている傾向があった。

年代別の集計では、年を重ねるにつれて「週6日以上」主食、主菜、副菜のそろった食事を1日2回以上とっていると回答した割合は高くなる傾向があった。

市町別の調査では、「週6日以上」主食、主菜、副菜のそろった食事を1日2回以上とっていると回答した割合は、周防大島町で最も高く56.4%となった。一方、回答割合が低い市町は、宇部市44.0%、下関市45.0%、防府市45.5%となった。

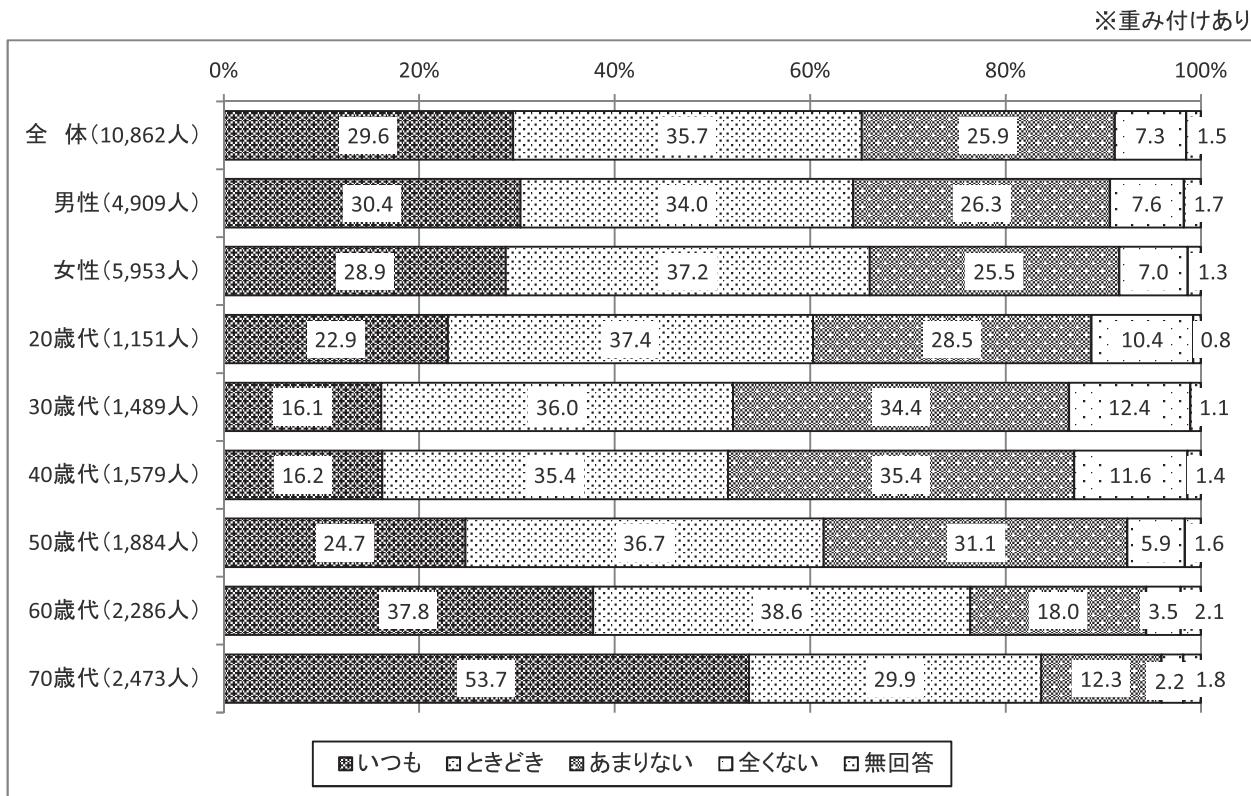
参考値 内閣府平成24年食育に関する意識調査 「ほとんど毎日」 63.3%（個別面接聴取）

※重み付けあり



身体活動・運動について

問6 あなたは、日常生活において、健康の維持・増進のために、意識的に体を動かすように心がけていますか。(○は1つ)



健康のために「いつも」体を動かすよう心がけていると回答した割合は、全体の29.6%であった。

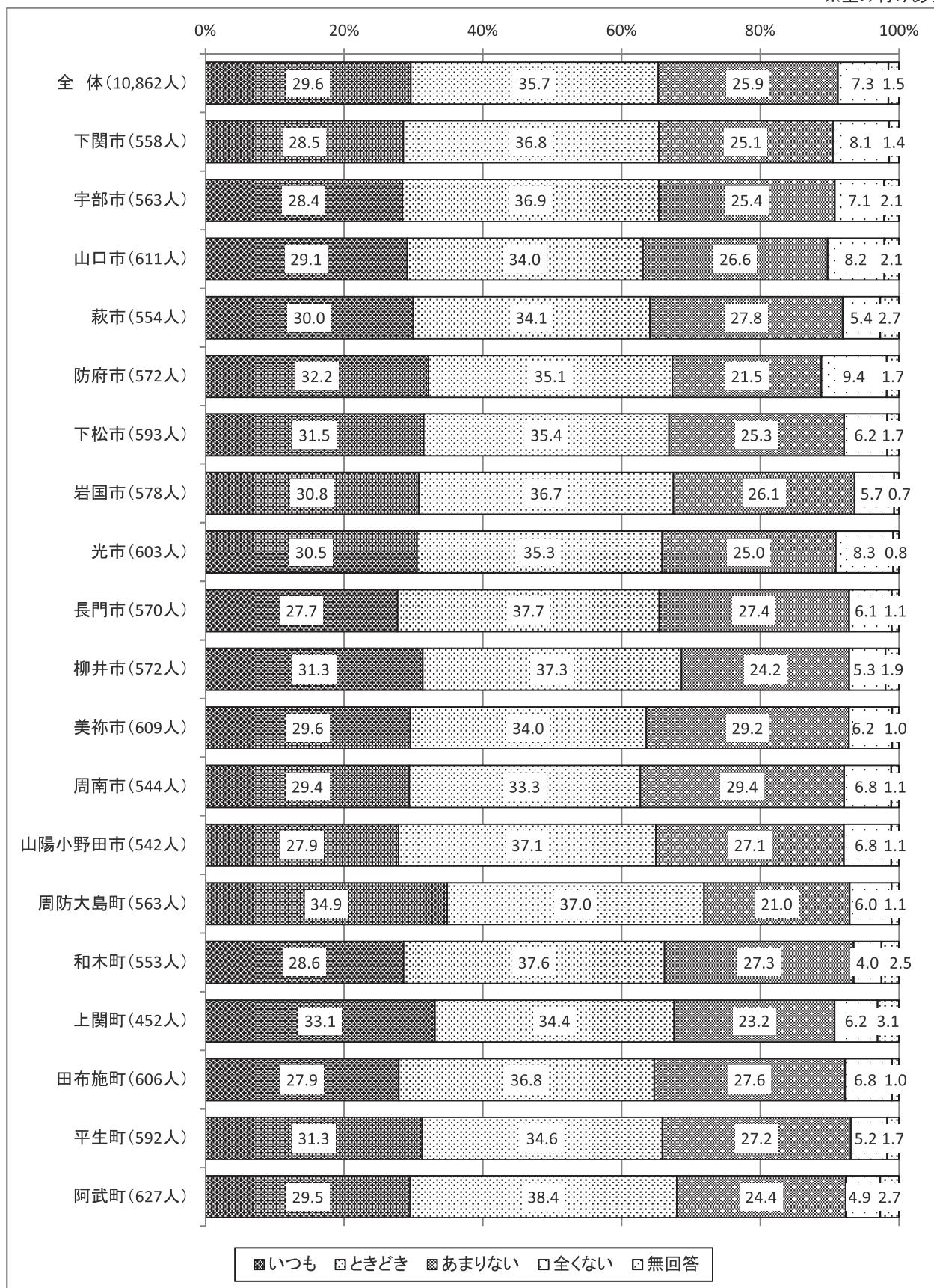
性別の集計では、男女間の回答に大きな差はなかった。

年代別の集計では、健康のために「いつも」体を動かすよう心がけていると回答した割合は、30歳代、40歳代にかけてやや減少するものの、それ以降は、年を重ねるにつれて増加する傾向があった。

市町別の集計において、健康のために「いつも」体を動かすよう心がけていると回答した割合は、周防大島町で最も高く34.9%、長門市で最も低く27.7%となった。

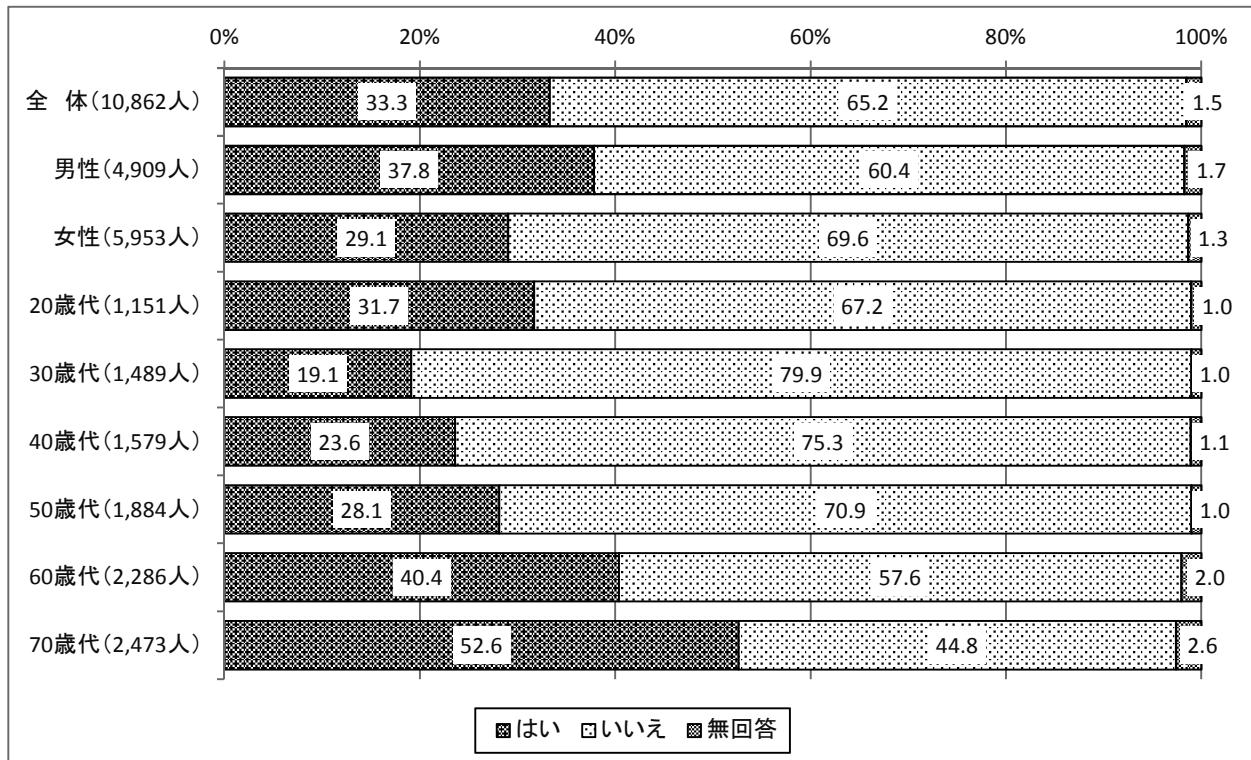
参考値 平成25年山口県健康づくりに関する意識調査 「はい」 70.0%

※重み付けあり



問7 あなたは、1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2回以上、1年以上実施していますか。(○は1つ)

※重み付けあり



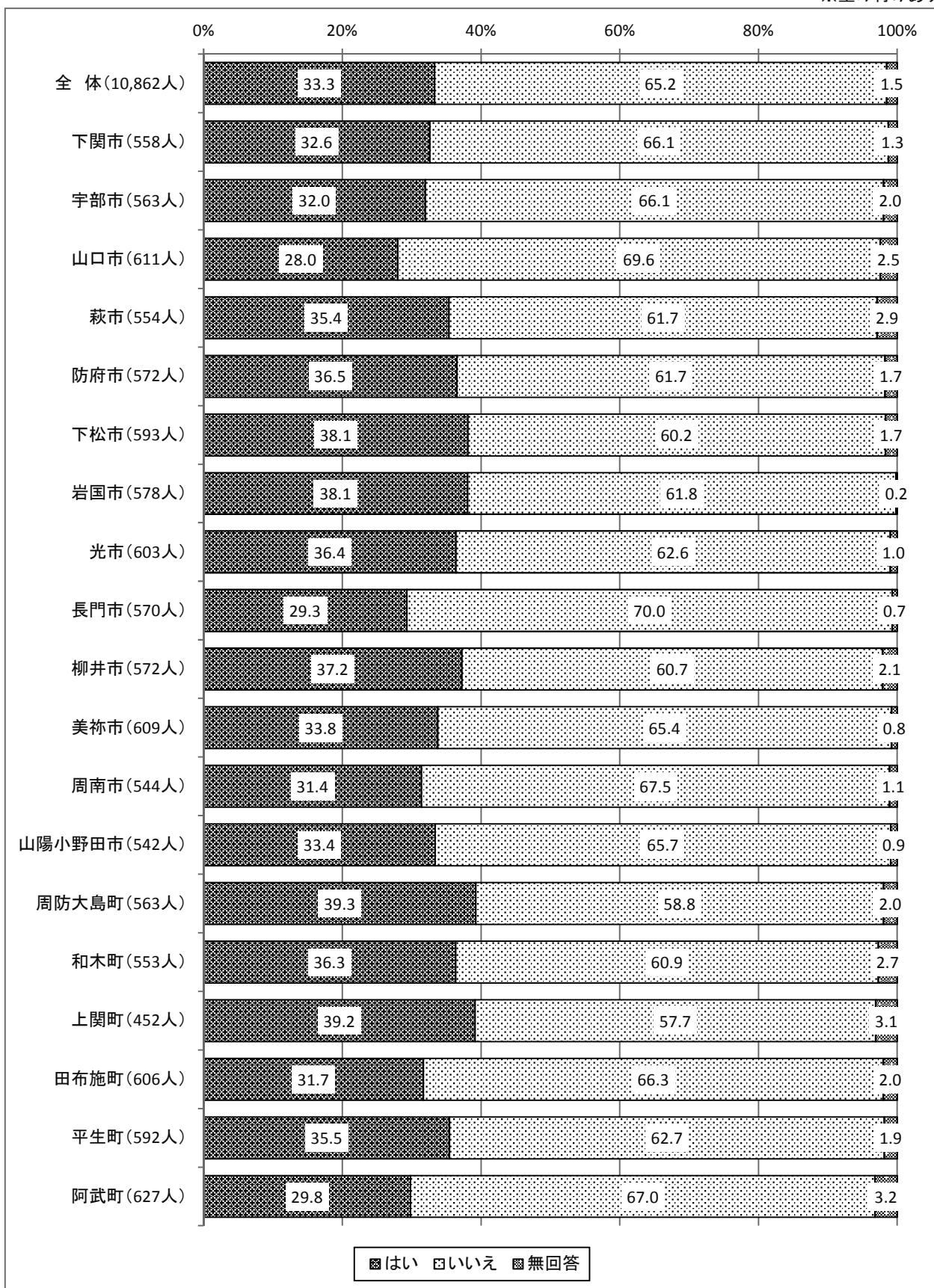
1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2回以上、1年以上「実施している」と回答した割合は、全体の33.3%であった。

性別の集計では、男性で37.8%、女性で29.1%が運動を「実施している」と回答し、男性のほうがより習慣的な運動を実施しているという傾向があった。

年代別の集計では、運動を「実施している」と回答した割合は、30歳代で減少するものの、それ以降は、年を重ねるにつれて増加する傾向があった。

市町別の集計において、習慣的な運動を「実施している」と回答した割合は、周防大島町で39.3%、上関町で39.2%と高くなっていた。一方、低い市町は、山口市の28.0%、長門市の29.3%、阿武町の29.8%となっている。

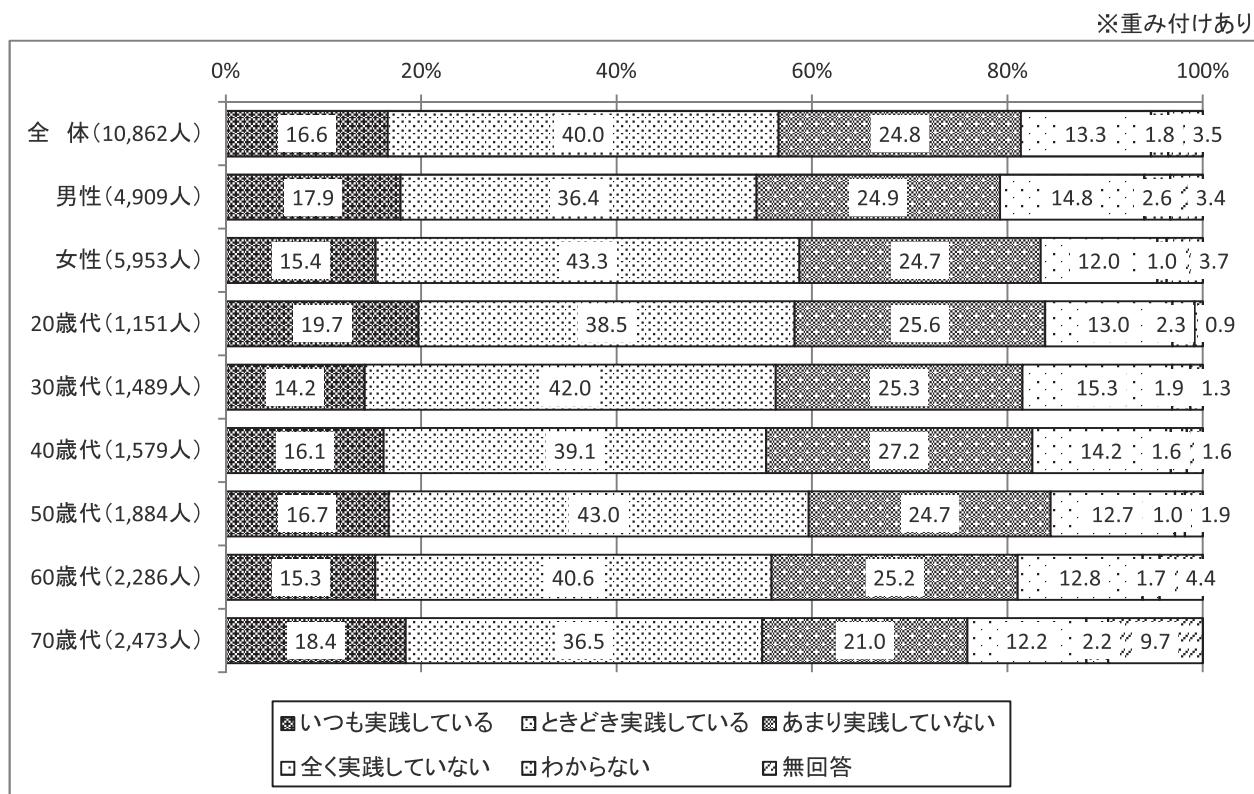
※重み付けあり



■はい □いいえ ▨無回答

問8 あなたは、普段の生活で、少しでも体を動かすために実践していることはありますか。
 (各項目につき、○は1つ)

ア. エレベータ等を使わず、階段を使うようにしている



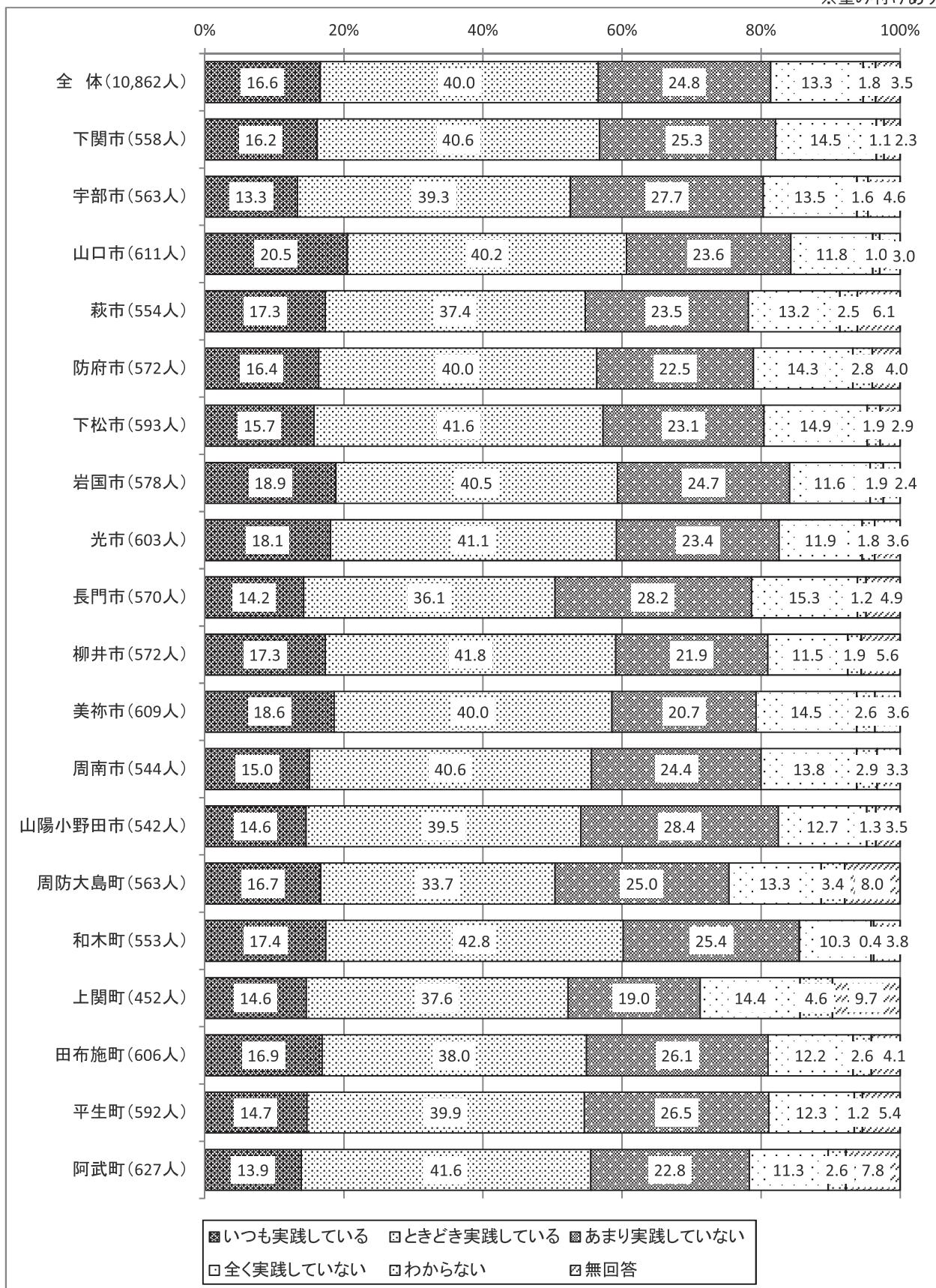
「いつもエレベータ等を使わずに階段を使うようにしている」と回答した割合は、全体の16.6%であった。

性別の集計でも、同様の結果が得られ、男女間の回答に大きな差はなかった。

年代別の集計でも、同様の結果が得られ、年代間の回答に大きな差はなかった。

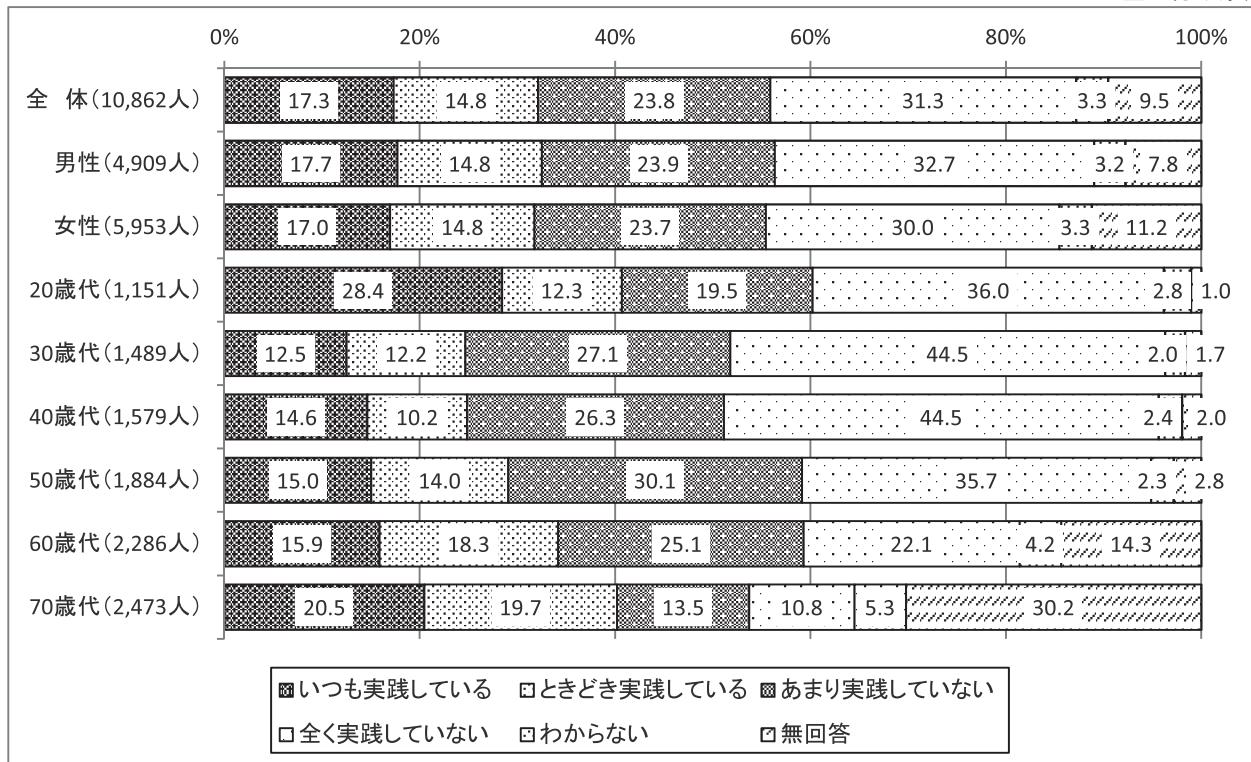
市町別の集計において、「いつも実践している」と回答した割合は、山口市が20.5%で最も高く、宇部市が13.3%で最も低かった。

※重み付けあり



イ. 通勤・通学等で体を動かすようにしている(自転車、徒歩等)

※重み付けあり



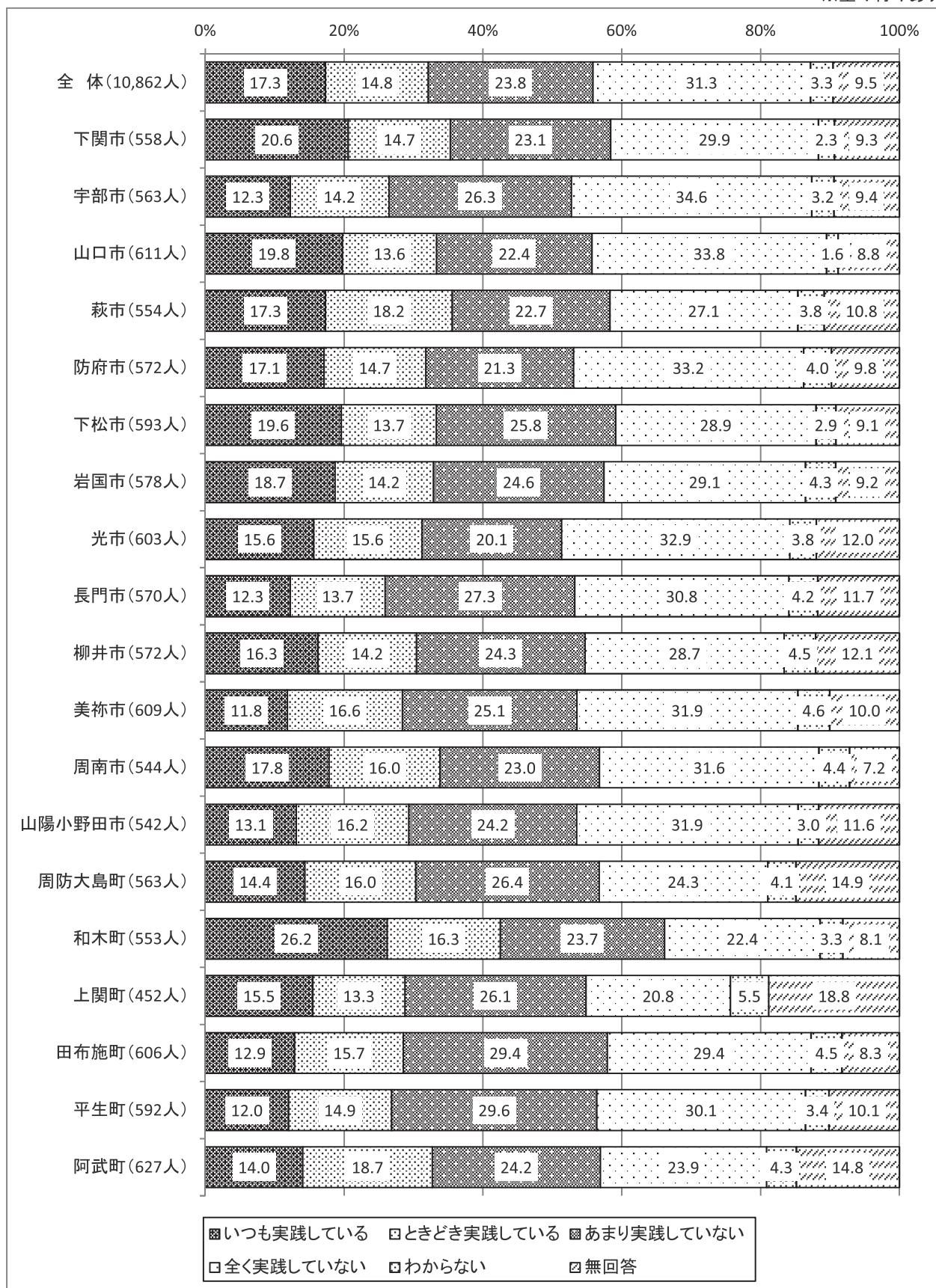
「いつも通勤・通学等(自転車、徒歩等)で体を動かすようにしている」と回答した割合は、全体の17.3%であった。

性別の集計でも、同様の結果が得られ、男女間の回答に大きな差はなかった。

年代別の集計では、「いつも通勤・通学等で体を動かすようにしている」と回答した割合は、20歳代で最も高く28.4%となり、30歳代では大幅に減少し12.5%となった。それ以降は、年を重ねるにつれて微増していた。

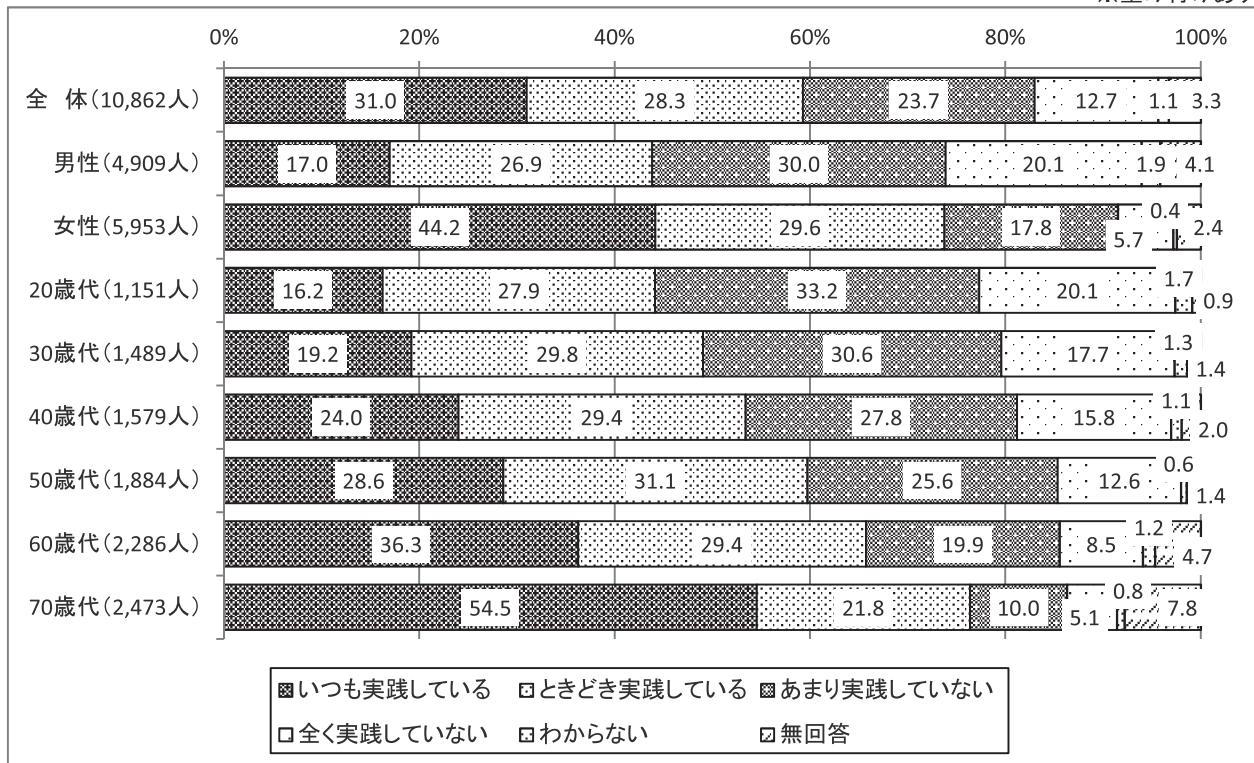
市町別の集計においては、「いつも通勤・通学等で体を動かすようにしている」と回答した割合が最も高いのは、和木町で26.2%となった。

※重み付けあり



ウ. 家事等で体を動かすようにしている

※重み付けあり

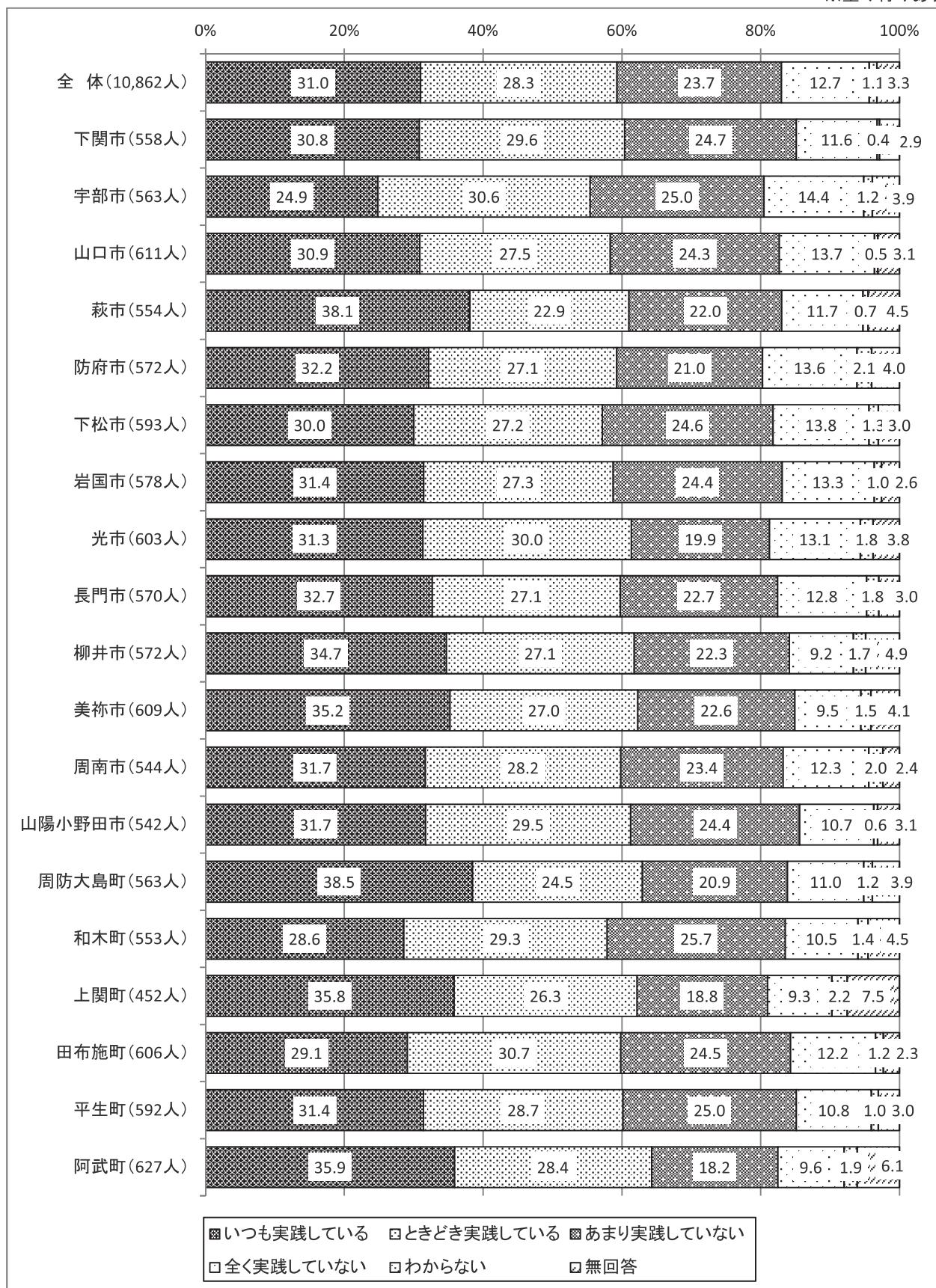


「いつも家事等で体を動かすようにしている」と回答した割合は、全体の31.0%であった。性別の集計では、男性で17.0%、女性で44.2%が「いつも家事等で体を動かすようにしている」と回答した。

年代別の集計では、年を重ねるにつれて「いつも家事等で体を動かすようにしている」と回答した割合は高くなった。

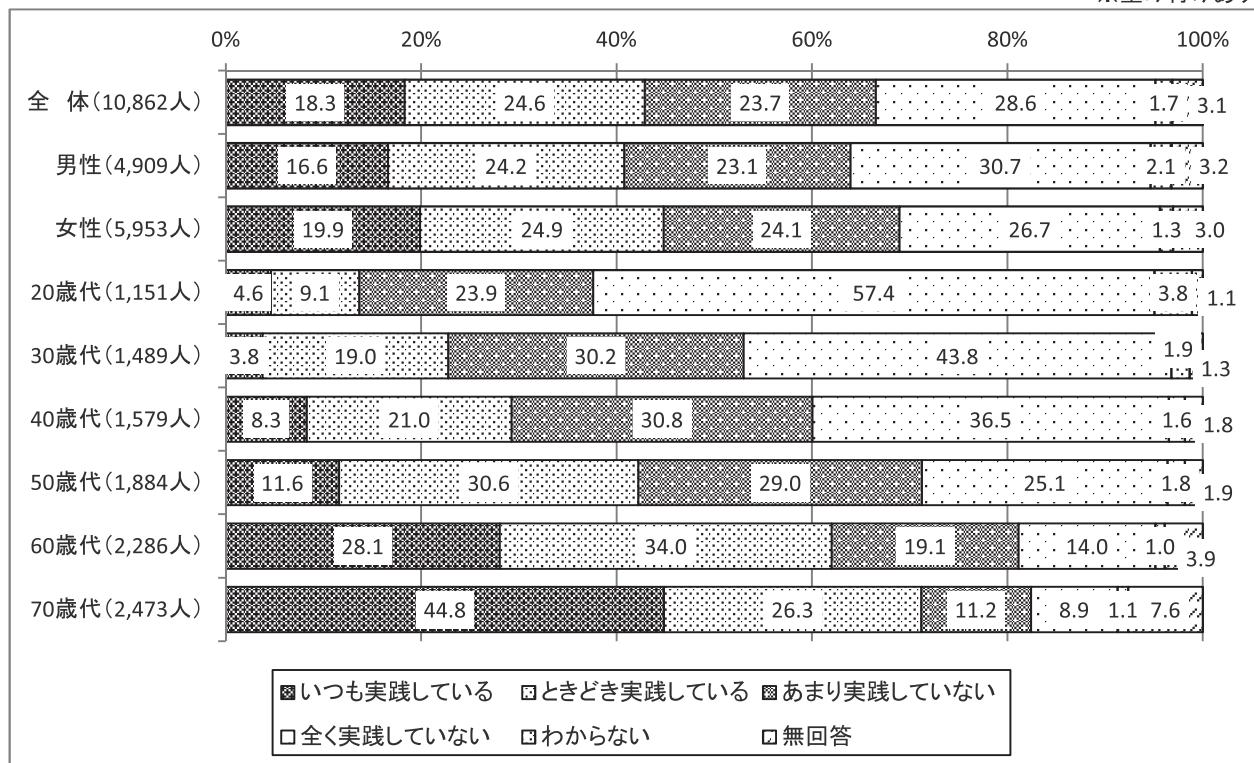
市町別の集計では、「いつも家事等で体を動かすようにしている」と回答した割合は、萩市38.1%、周防大島町38.5%で高く、宇部市が24.9%で最も低かった。

※重み付けあり



エ. 園芸や庭仕事で体を動かすようにしている

※重み付けあり



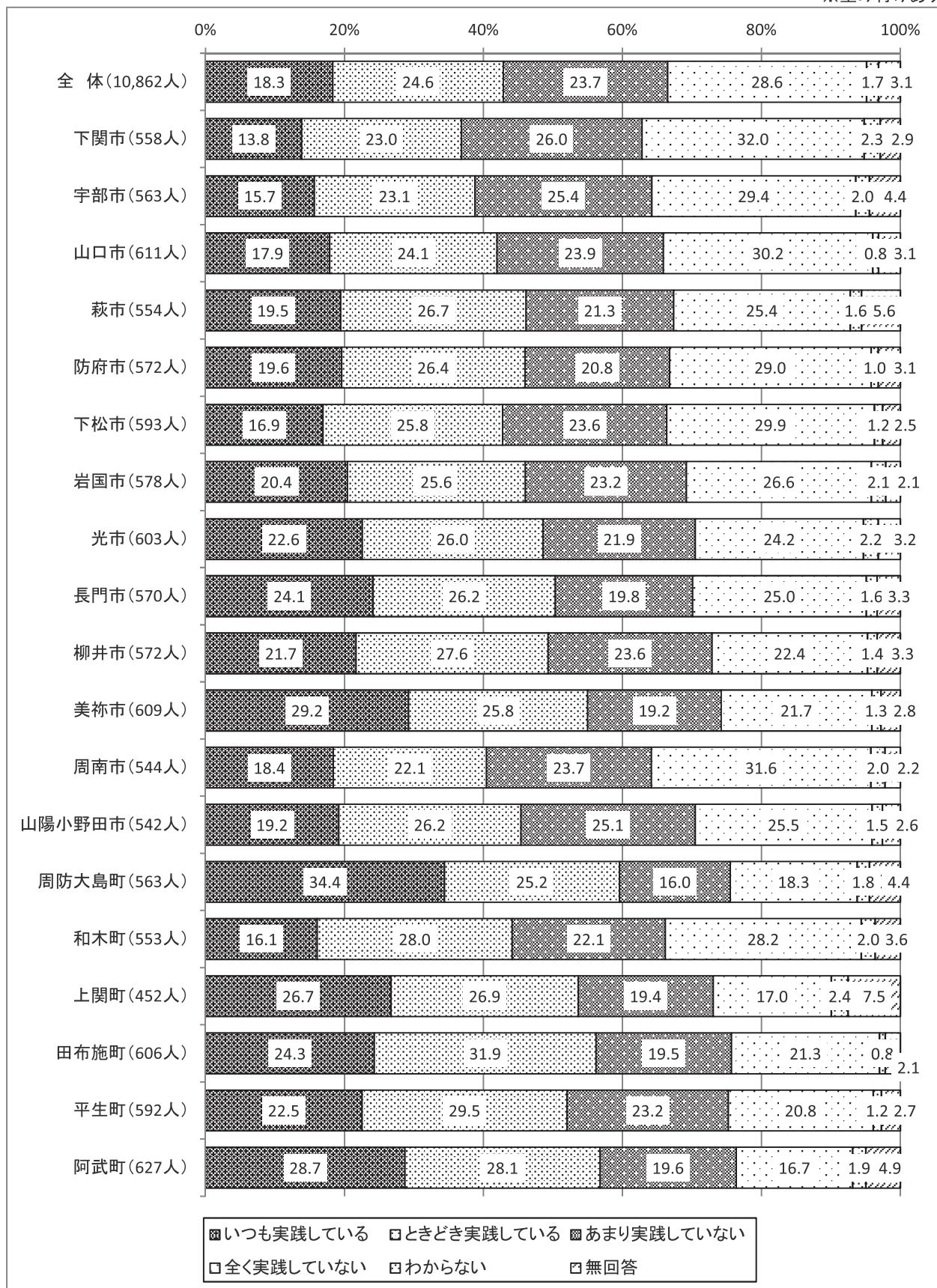
園芸や庭仕事で体を動かすことについて、「いつも実践している」と回答した割合は、全体の18.3%であった。

性別の集計でも同様の結果が得られ、男女間の回答に大きな差はなかった。

年代別の集計では、年を重ねるにつれて「いつも実践している」と回答する割合が顕著に高くなつた。

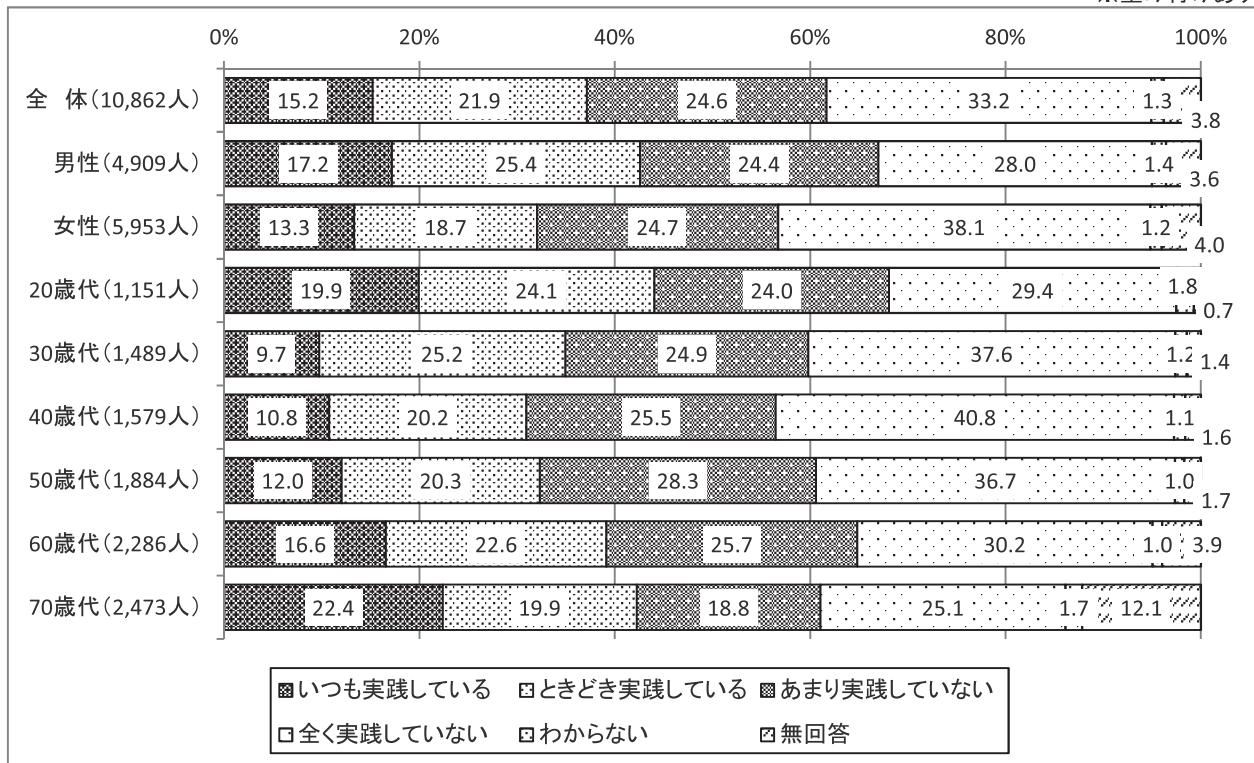
市町別の集計においては、「いつも実践している」と回答した割合は、周防大島町が34.4%で最も高く、下関市が13.8%で最も低かった。

※重み付けあり



才. 趣味(スポーツ、文化活動など)で体を動かすようにしている

※重み付けあり



趣味（スポーツ、文化活動など）で体を動かすことに関して、「いつも実践している」と回答した割合は、全体の15.2%であった。

性別別の集計では、男性で17.2%、女性で13.3%が「いつも実践している」と回答し、やや男性のほうが趣味で体を動かしている傾向が強かった。

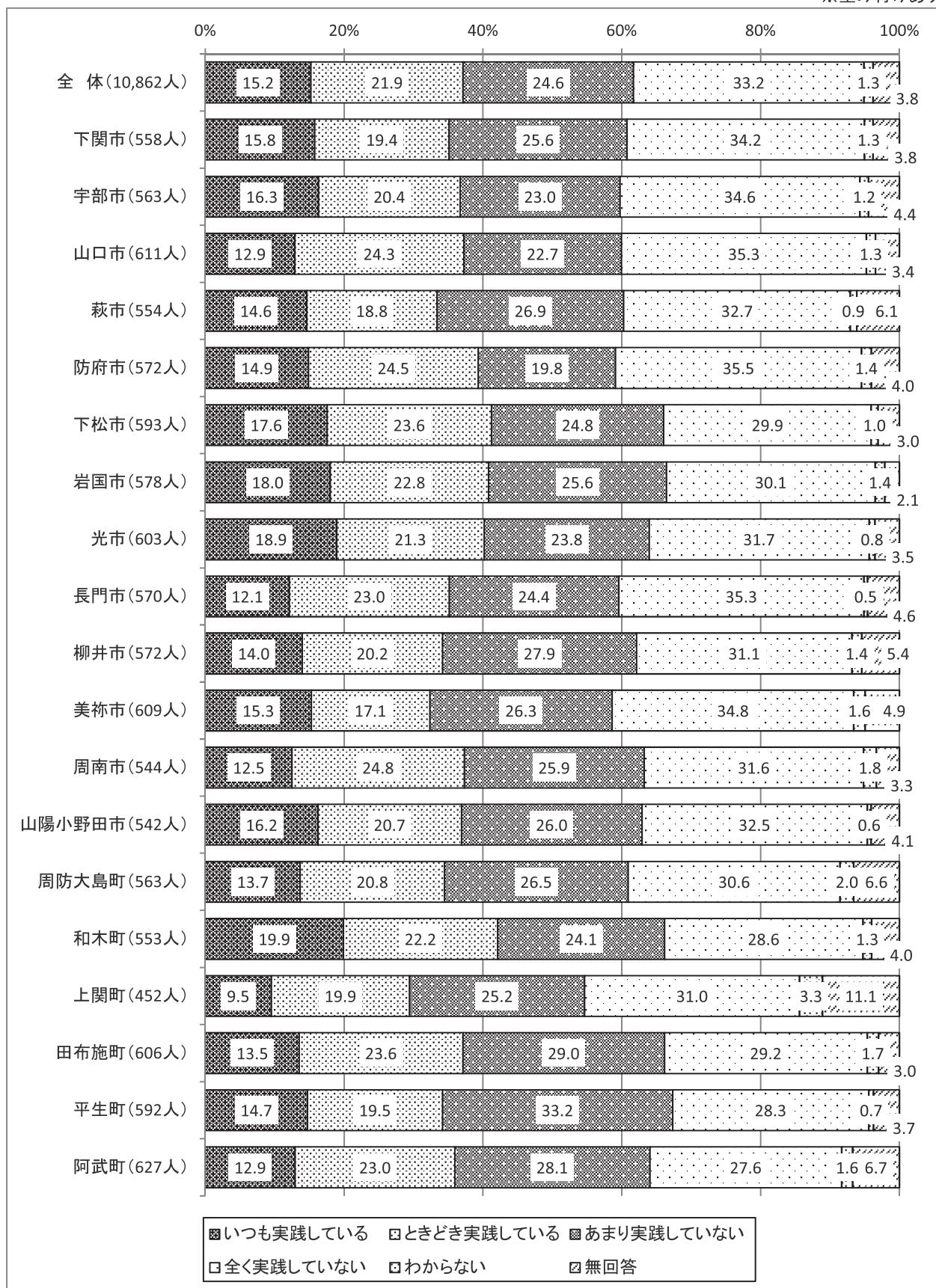
年代別の集計において、「いつも実践している」と回答した割合は、20歳代から30歳代にかけて大幅に減少し、それ以降は、年を重ねるにつれて増加し、70歳代で最高となった。

市町別の集計において、「いつも実践している」と回答した割合は、下松市、岩国市、光市、和木町で高かった。

【問8総合コメント】

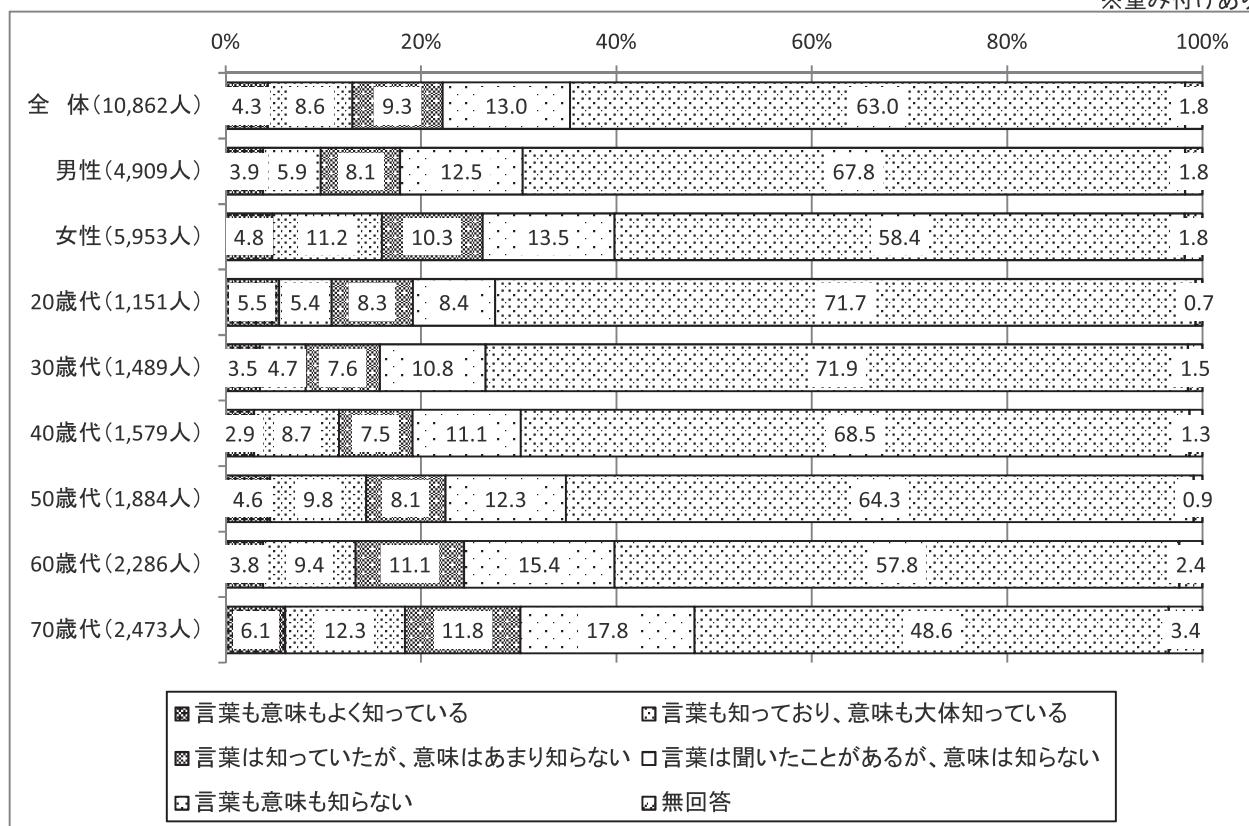
年を重ねるにつれて、家事や園芸など日常生活で体を動かす人の割合が高くなっている。なお、いずれの項目においても30歳代は、いつも実践している人の割合は低い。

※重み付けあり



問9 あなたは、ロコモティブシンドローム(運動器症候群)という言葉や意味を知っていますか。(○は1つ)

※重み付けあり



ロコモティブシンドローム(運動器症候群)に関して、「言葉も意味も知らない」と回答した割合は、全体の63.0%であった。

性別の集計では、男性で67.8%、女性で58.4%が「言葉も意味も知らない」と回答した。

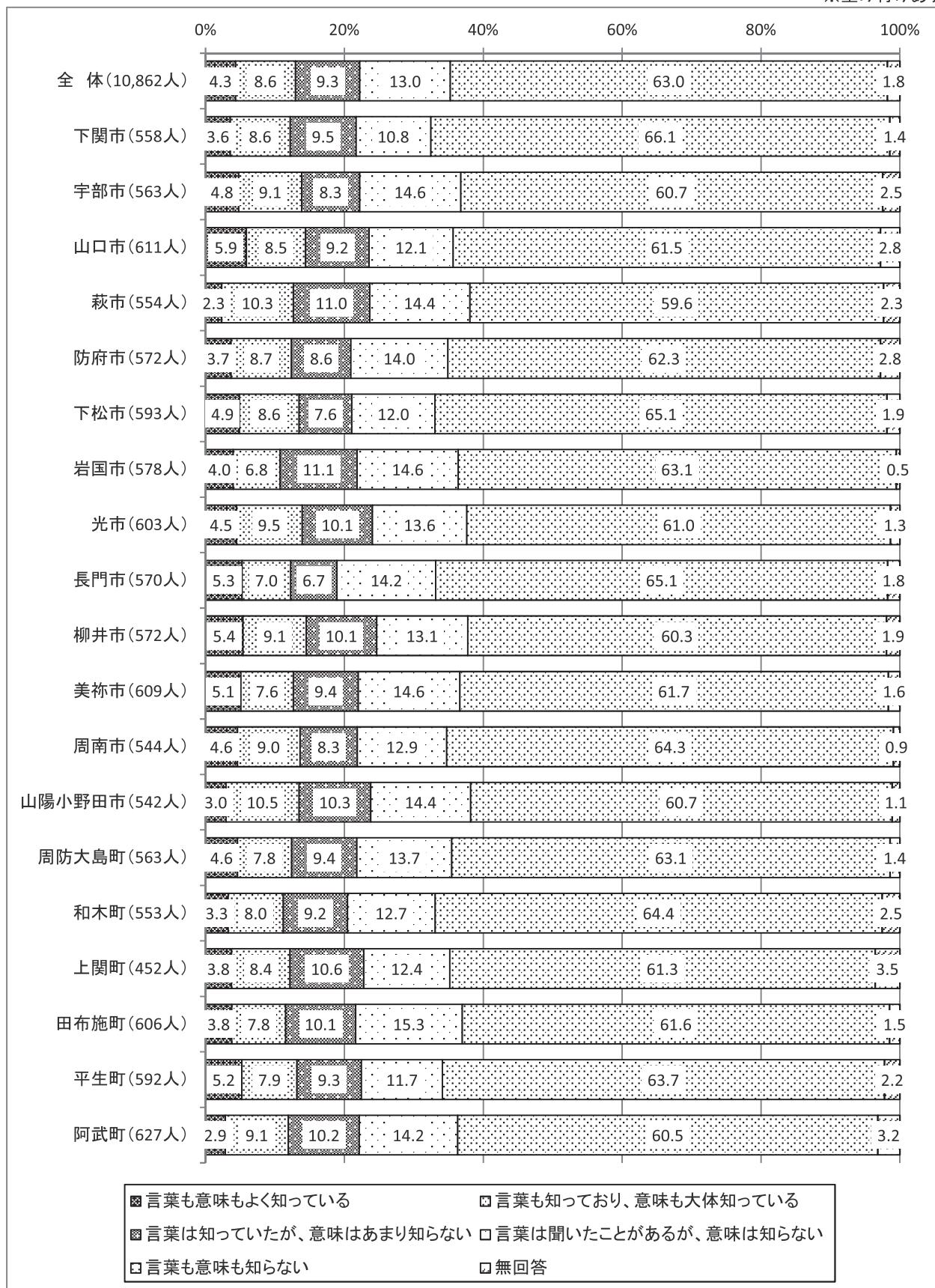
年代別の集計において、「言葉も意味も知らない」と回答した割合は、年を重ねるにつれて減少する傾向があるが、20歳代から60歳代の各年代で半数以上が「言葉も意味も知らない」と回答した。70歳代でも、ほぼ半数の48.6%が「言葉も意味も知らない」と回答した。

市町別の集計においても、ほぼ全ての市町で6割以上が「言葉も意味も知らない」と回答した。

ロコモティブシンドローム(運動器症候群)については、言葉自体が周知されておらず、その言葉の意味までを知っている割合は低かった。

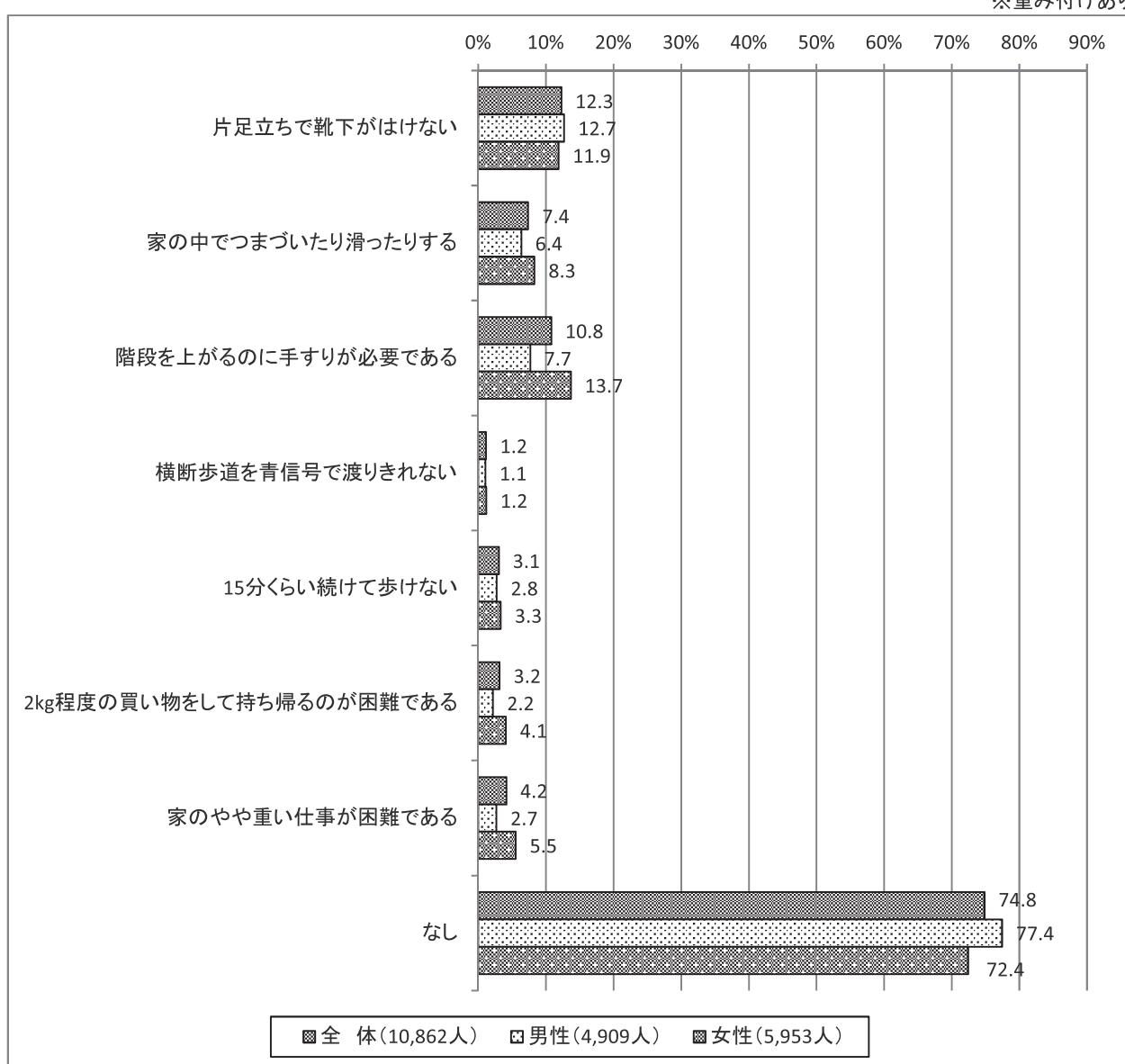
参考値 平成25年山口県健康づくりに関する意識調査 知っている（「言葉も意味も知っている」、「言葉も知っており、意味も大体知っている」、「言葉は知っていたが、意味はあまり知らない」及び「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」の合計）と回答した人の割合 46.1%

※重み付けあり



問10 あなたは、以下の「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」のチェック項目に該当するものがありますか。（あてはなるものすべてに○。該当がない場合は8に○）

※重み付けあり



ロコモティブシンドロームのチェック項目に「該当なし」と回答した割合は、全体で74.8%であった。

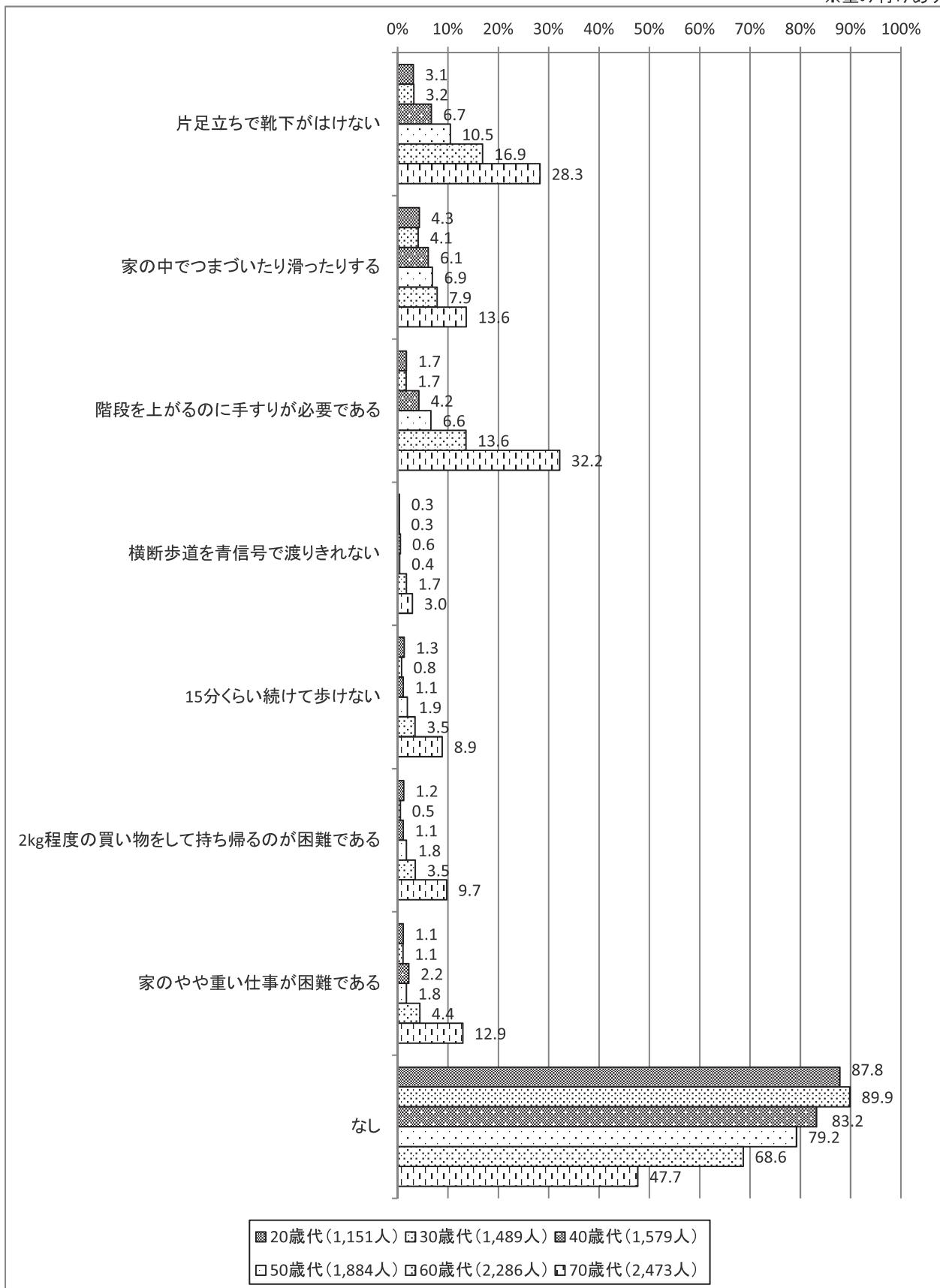
ロコモティブシンドロームの症状毎の該当チェックにおいて、全体の集計では、「片足立ちで靴下がはけない」、「家中でつまづいたり滑ったりする」、「階段を上がるのに手すりが必要である」といった項目に回答が多かった。

性別の集計においても、同様の傾向があった。

年代別の集計においても、同様の傾向があったが、全ての症状において該当者の割合は年を重ねるにつれて増加し、特に60歳代から70歳代にかけて顕著に増加していた。

参考値 平成25年山口県健康づくりに関する意識調査 「なし」 72.0%

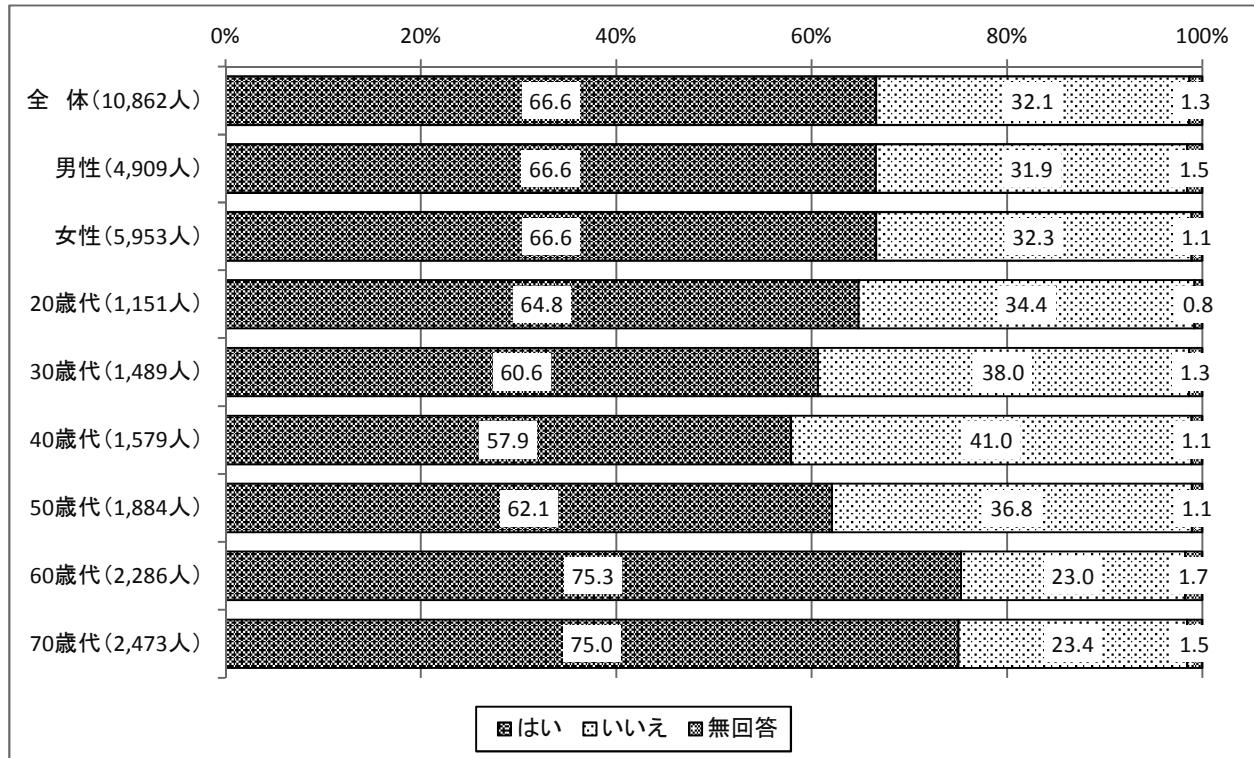
※重み付けあり



休養・こころの健康について

問11 あなたは、睡眠による休養が十分にとれていますか。(○は1つ)

※重み付けあり



「あなたは、睡眠による休養が十分にとれていますか。」という問い合わせに対し、「はい」と回答した割合は、全体の66.6%であった。

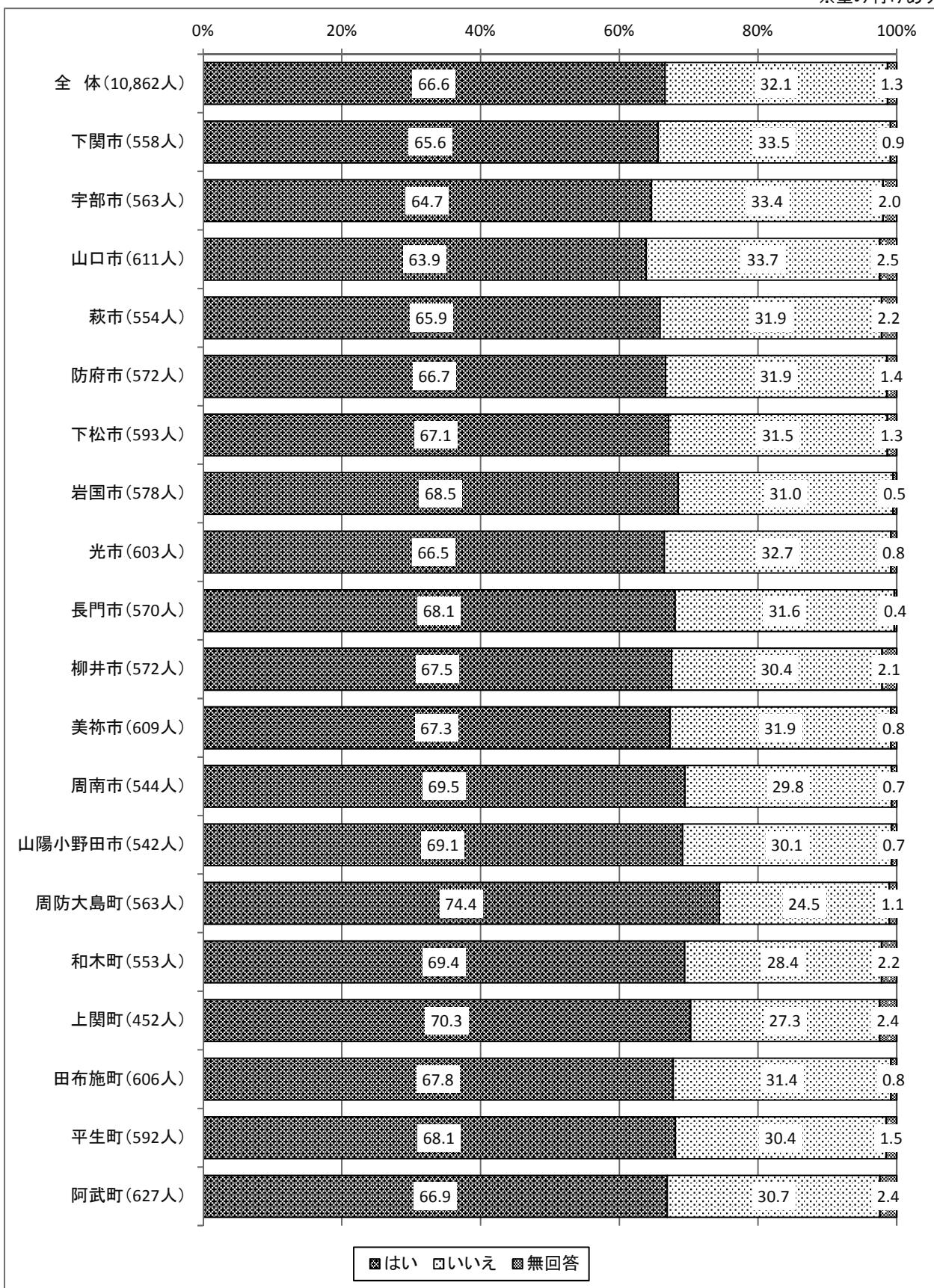
性別の集計においても、ほぼ同様の結果が得られ、男女間の回答に大きな差はなかった。

年代別の集計では、「はい」と回答した割合は、20歳代から40歳代にかけて減少し、以降の年代では、年を重ねるにつれて増加する傾向があった。

市町別の集計では、「はい」と回答した割合は、周防大島町で74.4%と最も高く、山口市で63.9%と最も低かった。

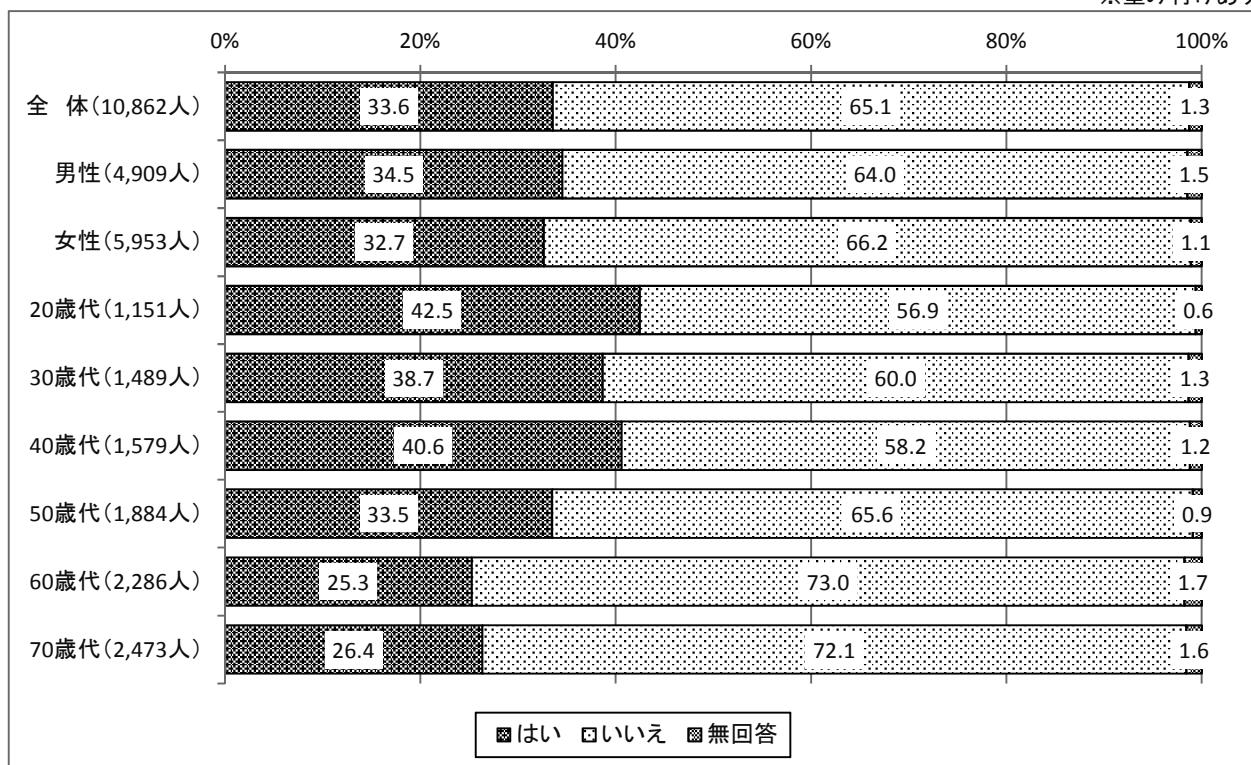
参考値 平成25年山口県健康づくりに関する意識調査 「はい」 74.5%

※重み付けあり



問12 あなたは、日中眠気で困ることがありますか。(○は1つ)

※重み付けあり



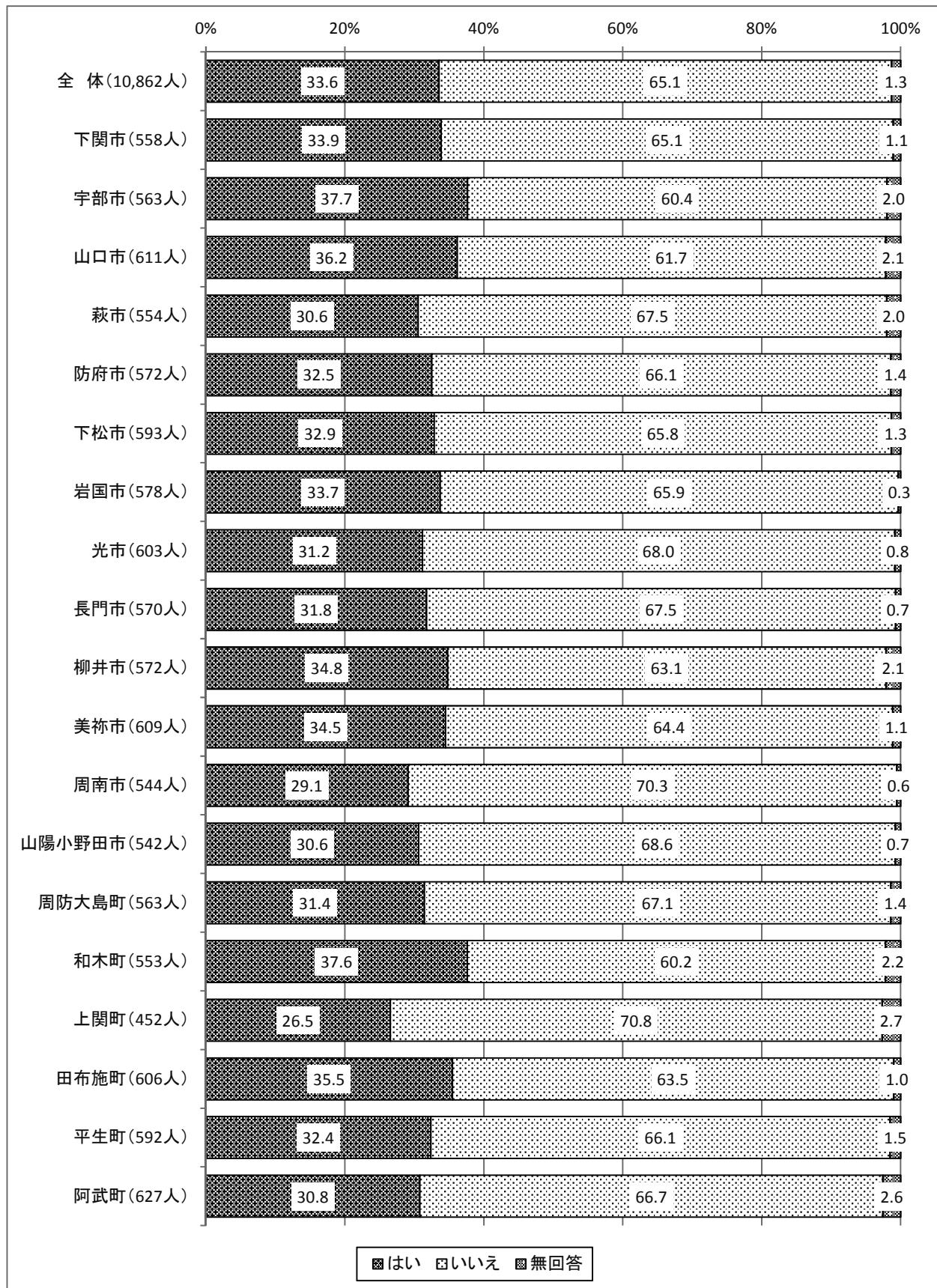
「あなたは、日中眠気で困ることがありますか。」という問い合わせに対し、「はい」と回答した割合は、全体の33.6%であった。

性別の集計においても、ほぼ同様の結果が得られ、男女間の回答に大きな差はなかった。

年代別の集計では、「はい」と回答した割合は年を重ねるにつれて減少しており、若い世代ほど日中の眠気に困るという傾向があった。

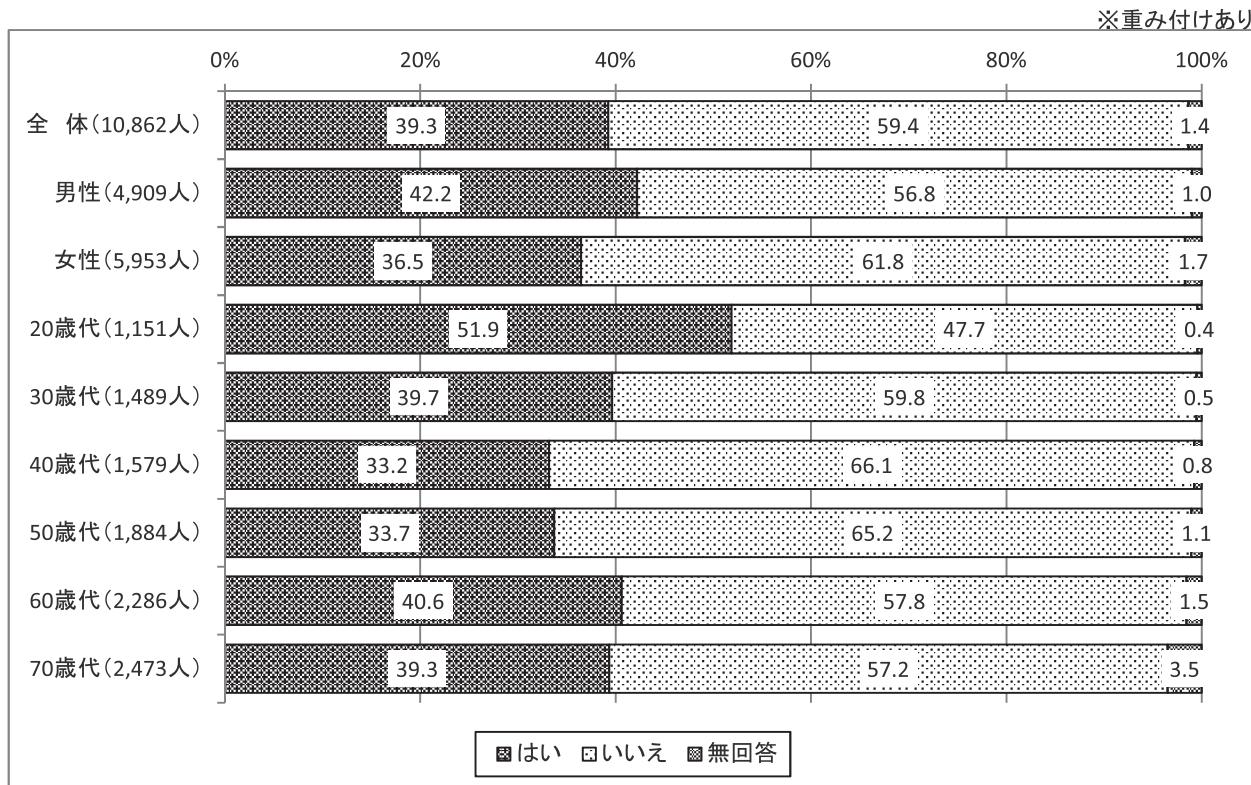
市町別の集計では、「はい」と回答した割合は、宇部市37.7%、山口市36.2%、和木町37.6%で高く、上関町で26.5%と最も低かった。

※重み付けあり



■はい □いいえ ▨無回答

問13 あなたは、レクリエーションやスポーツ、趣味に取り組むなど積極的な休養に取り組んでいますか。
(○は1つ)



「あなたは、レクリエーションやスポーツ、趣味に取り組むことなど積極的な休養に取り組んでいますか。」という問い合わせに対し、「はい」と回答した割合は、全体の39.3%であった。

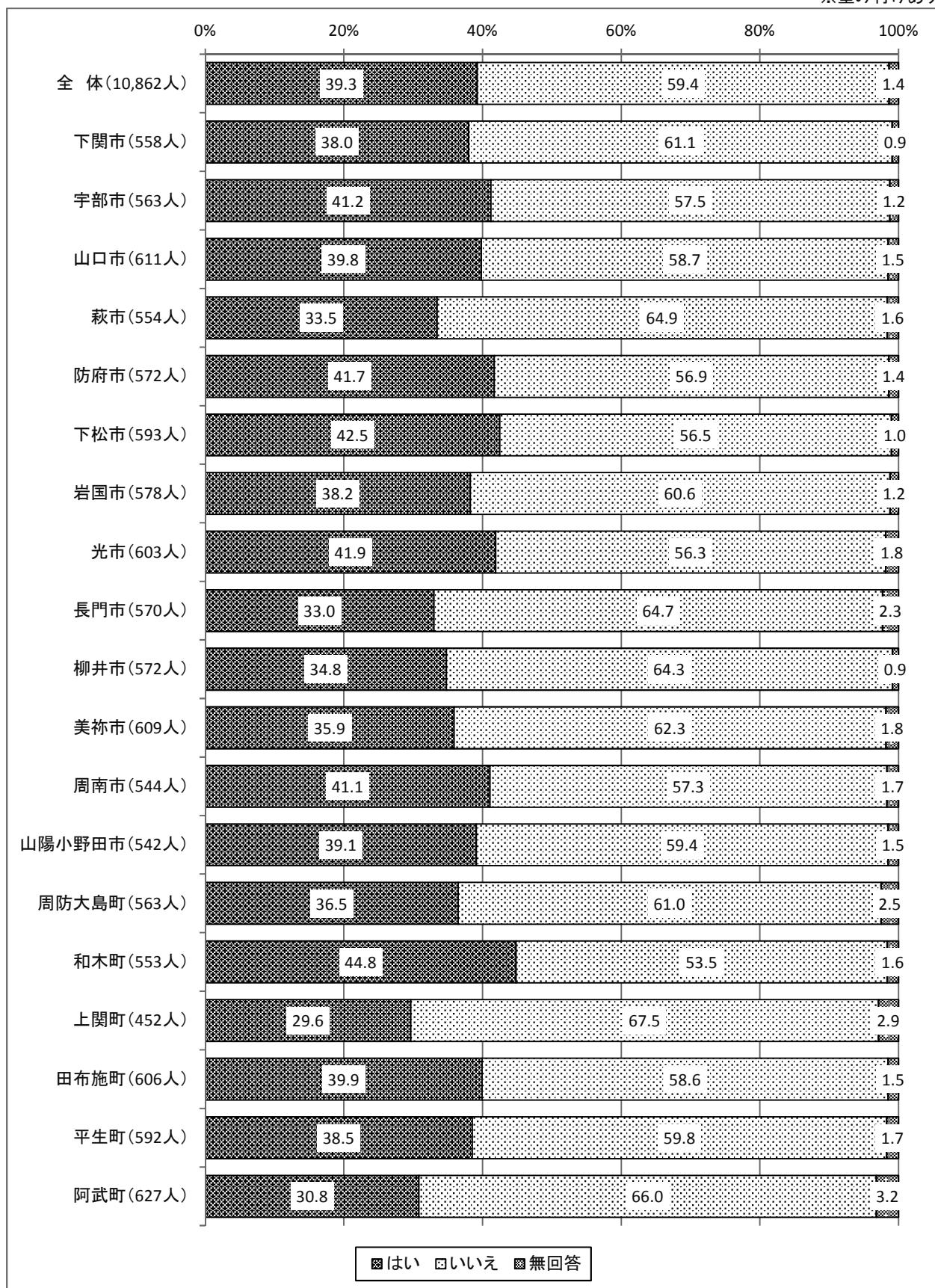
性別別の集計では、男性で42.2%、女性で36.5%が「はい」と回答し、男性のほうがやや積極的な休養に取り組んでいる傾向があった。

年代別の集計では、「はい」と回答した割合は、20歳代で約半数、30歳代、60歳代、および70歳代で約4割、40歳代、50歳代で3割強となった。40歳代、50歳代は、積極的な休養に取り組む割合が低くなる年代であった。

市町別の集計では、「はい」と回答した割合は、和木町で44.8%と最も高く、上関町で29.6%、阿武町で30.8%と低かった。

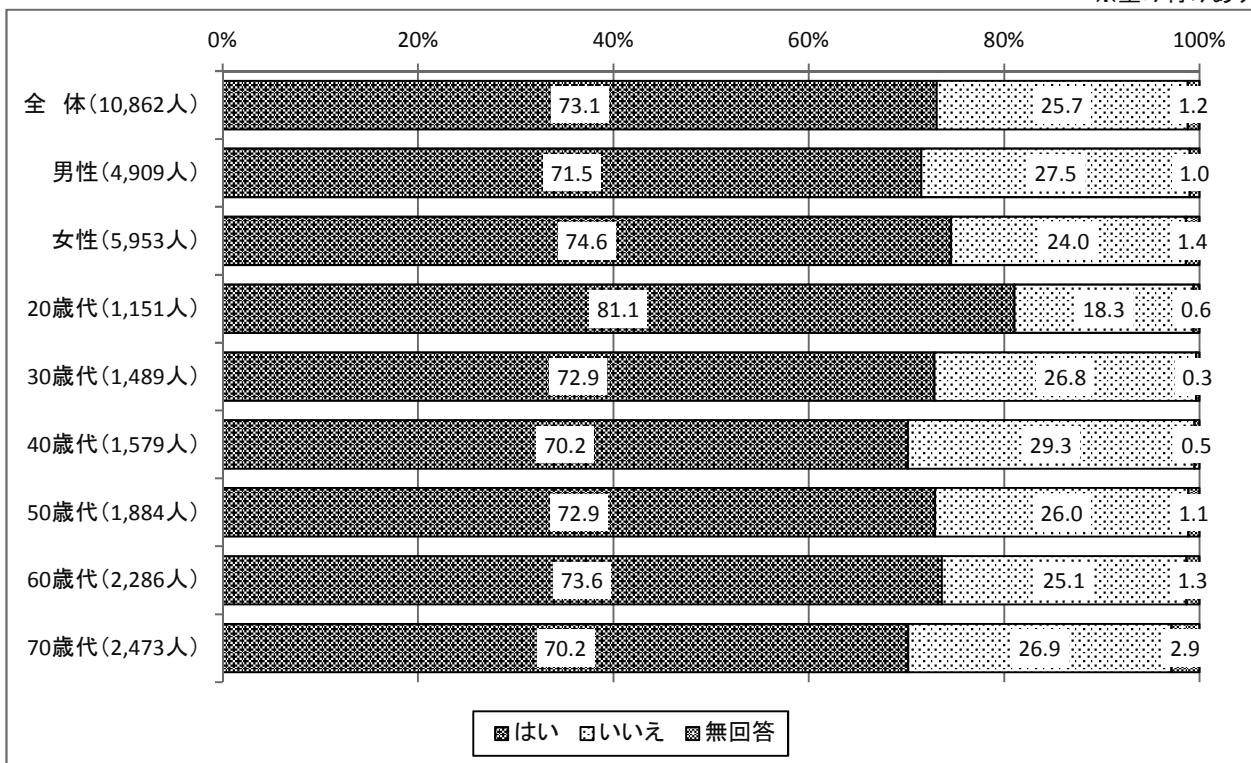
参考値 平成25年山口県健康づくりに関する意識調査 「はい」 58.6%

※重み付けあり



問14 あなたは、自分なりのストレス解消法をもっていますか。(○は1つ)

※重み付けあり



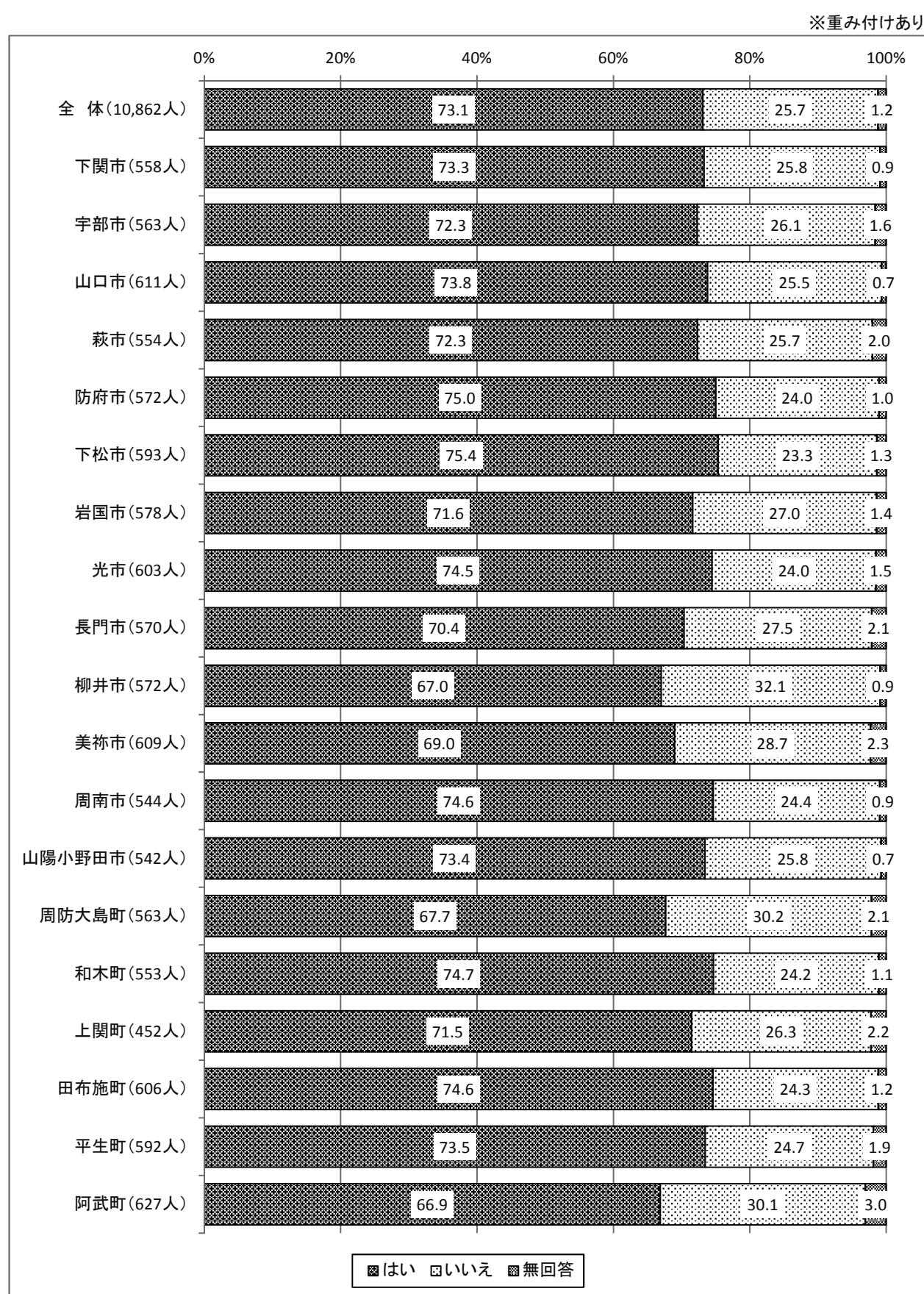
「あなたは、自分なりのストレス解消法をもっていますか。」という問い合わせに対し、「はい」と回答した割合は、全体の73.1%であった。

性別別の調査においても、同様の結果が得られ、男女間の回答に大きな差はなかった。

年代別の集計では、「はい」と回答した割合は、20歳代で81.1%と最大、それ以降の年代でも7割以上であった。全年代において、7割以上は自分なりのストレス解消法をもっていた。

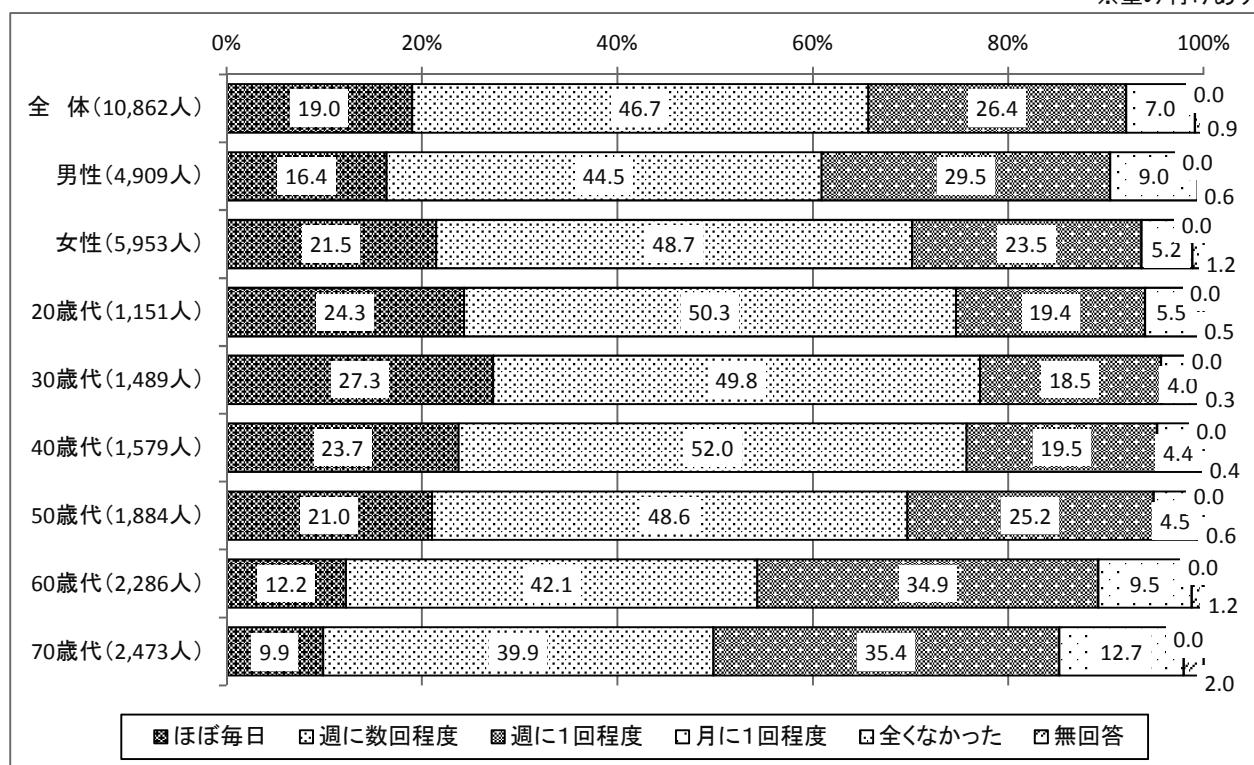
市町別の集計では、「はい」と回答した割合は、柳井市、美祢市、周防大島町、阿武町で低く7割を下回った。

参考値 平成25年山口県健康づくりに関する意識調査 「はい」 82.1%



問15 あなたは、この1か月間に、悩みやストレスがありましたか。(○は1つ)

※重み付けあり



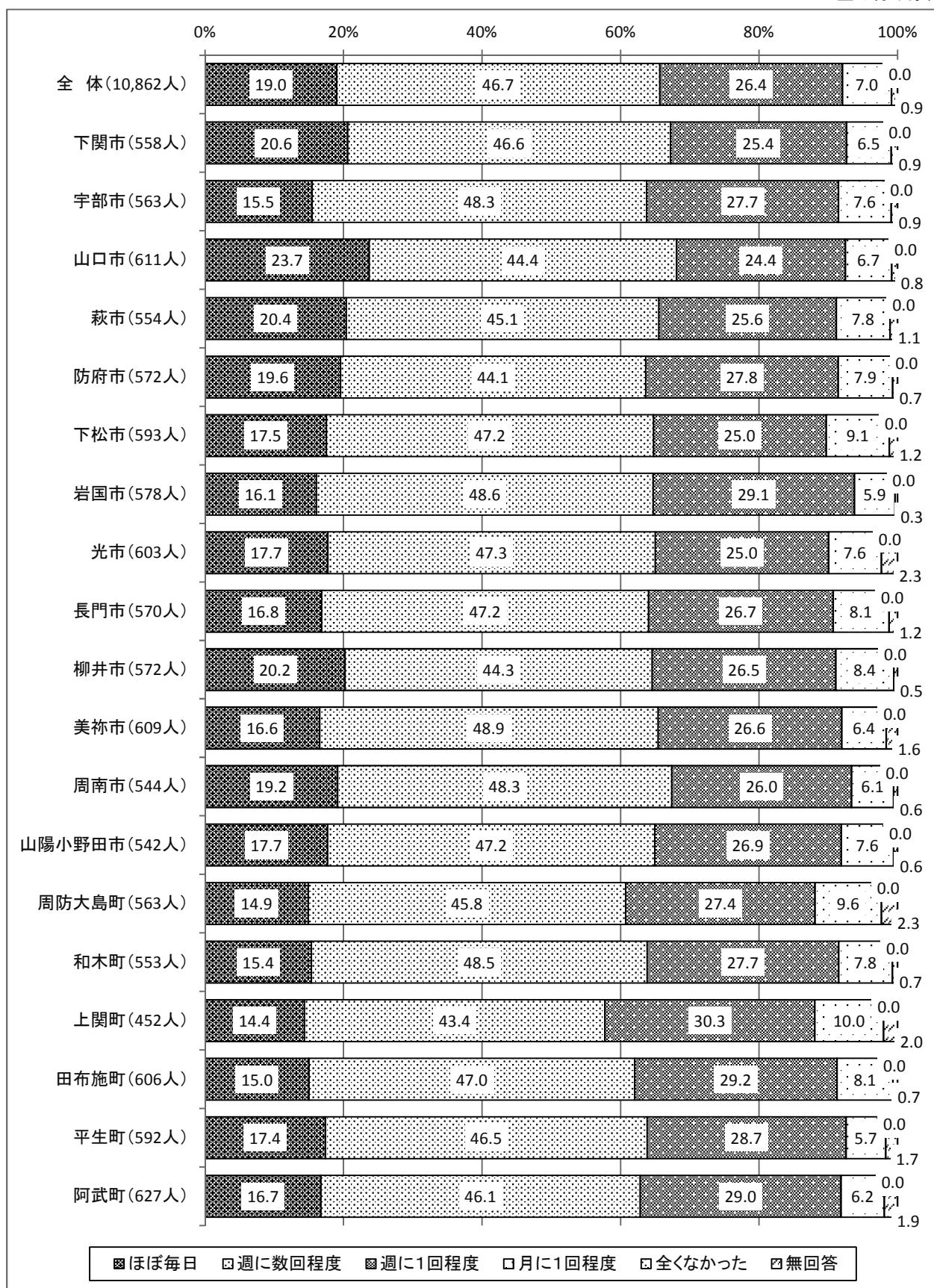
「あなたは、この1か月間に、悩みやストレスがありましたか。」という問い合わせに対し、「週に数回以上の悩みがある」と回答（「ほぼ毎日」または「週に数回程度」と回答）した割合は、全体で65.7%であった。

性別別の集計では、男性で60.9%、女性で70.2%が「週に数回以上の悩みがある」と回答した。
年代別の集計では、20歳代から50歳代までは、およそ7割以上が週に数回以上の悩みを抱えており、60歳代、70歳代ではその割合は5割程度に低下している。

市町別の集計では、全体の項目とほぼ同様であった。

参考値 平成22年山口県健康づくりに関する意識調査 ある（「大いにあった」「多少あつた」と回答した人の割合）63.1%

※重み付けあり

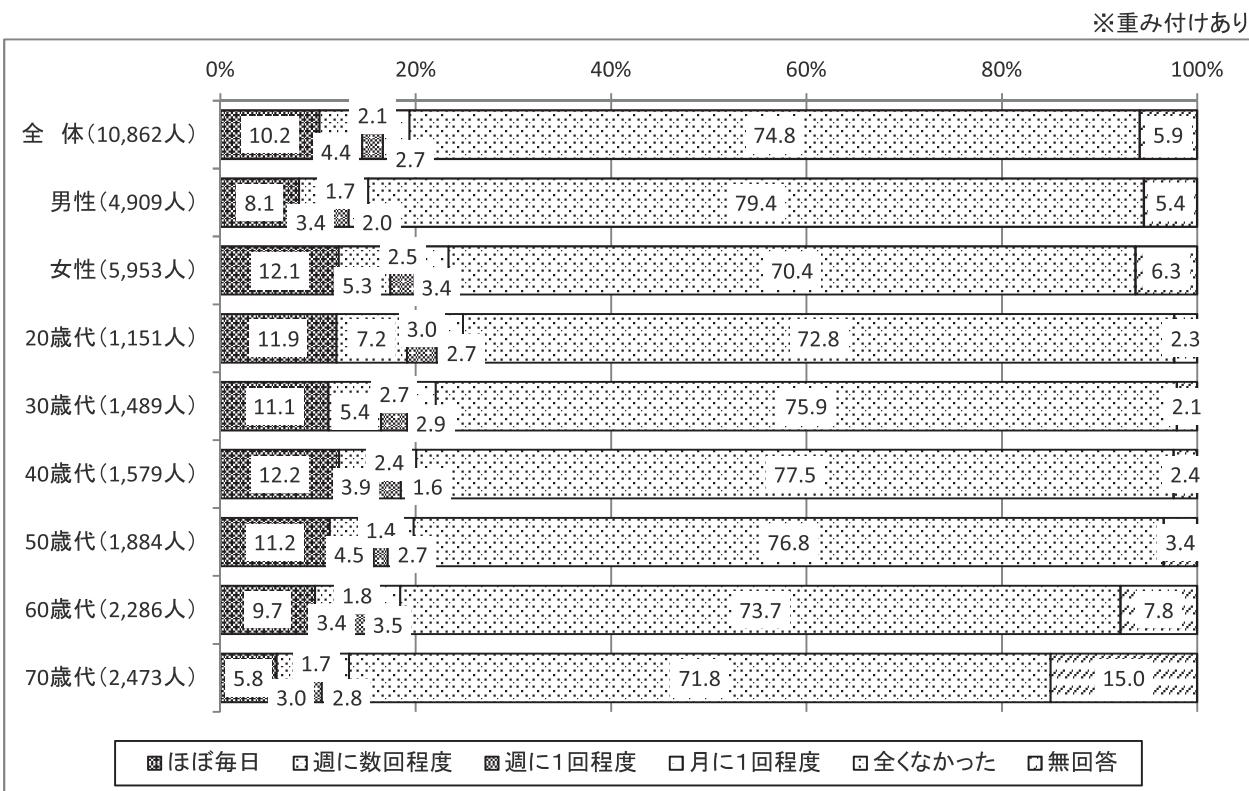


■ほぼ毎日 □週に数回程度 ▨週に1回程度 □月に1回程度 □全くなかった □無回答

喫煙について

問16 あなたは、この1か月間に、自分以外の人が吸っていたたばこの煙を吸う機会(受動喫煙)がありましたか。(各項目につき、○は1つ)

ア. 家庭



家庭において「ほぼ毎日」受動喫煙していると回答した割合は、全体の10.2%であった。

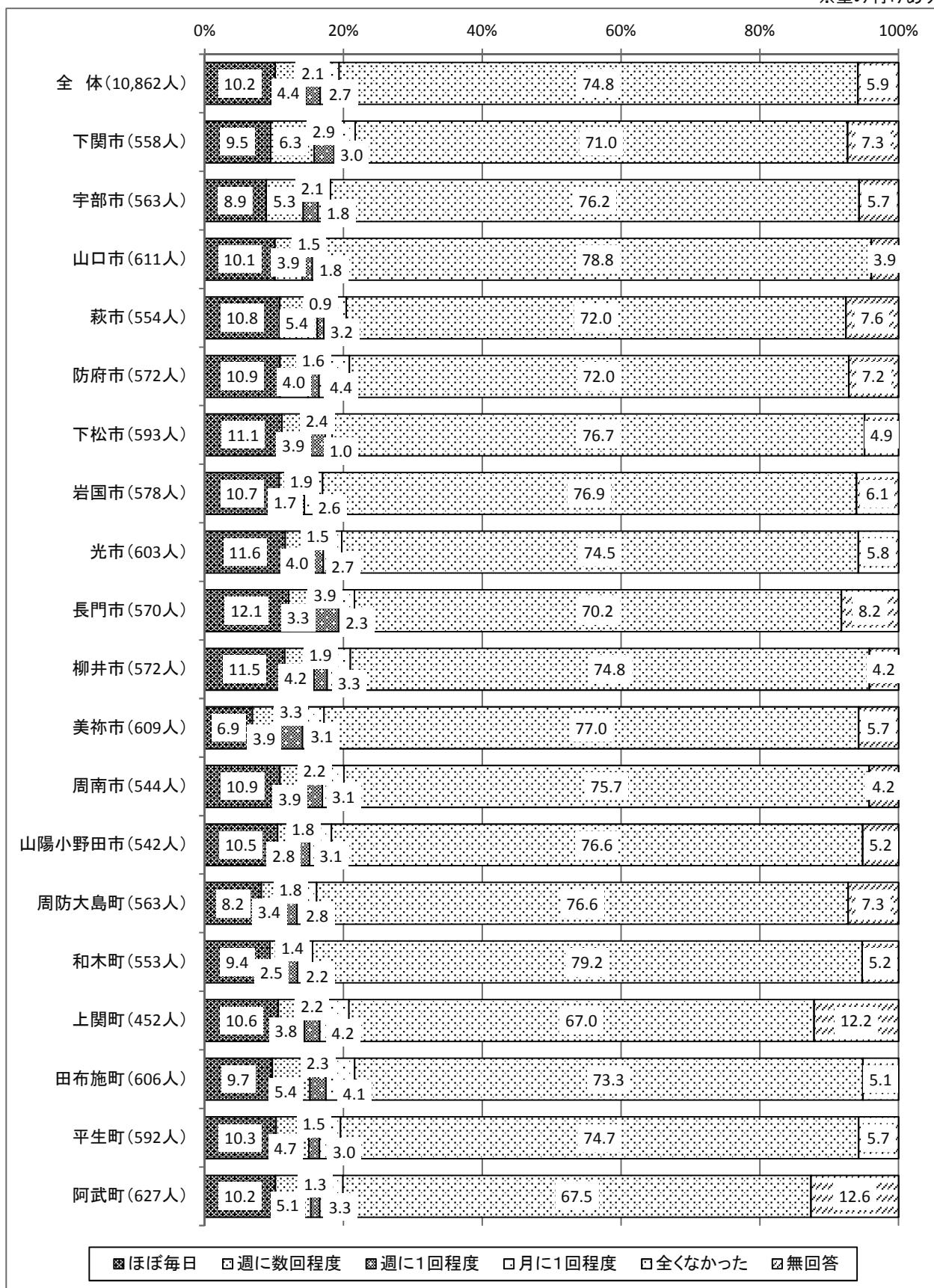
性別の集計では、男性で8.1%、女性で12.1%が、家庭において「ほぼ毎日」受動喫煙していると回答し、女性のほうがより家庭における受動喫煙が多い傾向があった。

年代別の集計において、20歳代から60歳代までは、家庭において「ほぼ毎日」受動喫煙している割合は10%前後で、70歳代で5.8%に低下していた。

市町別の集計では、家庭において「ほぼ毎日」受動喫煙している割合は、美祢市で最も低く6.9%で、その他の市町では10%前後となつた。

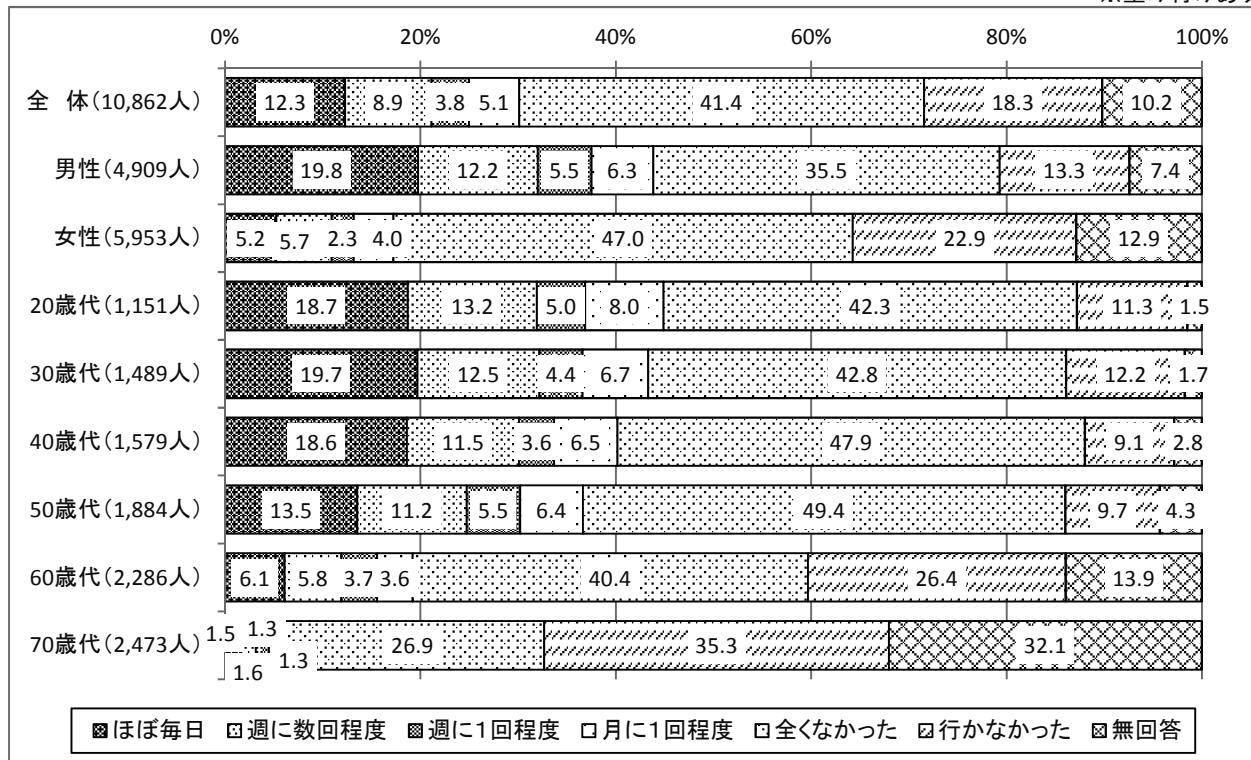
参考値 平成25年山口県健康づくりに関する意識調査 「ほぼ毎日」 12.8%

※重み付けあり



イ. 職場

※重み付けあり



職場において「ほぼ毎日」受動喫煙していると回答した割合は、全体の12.3%となった。

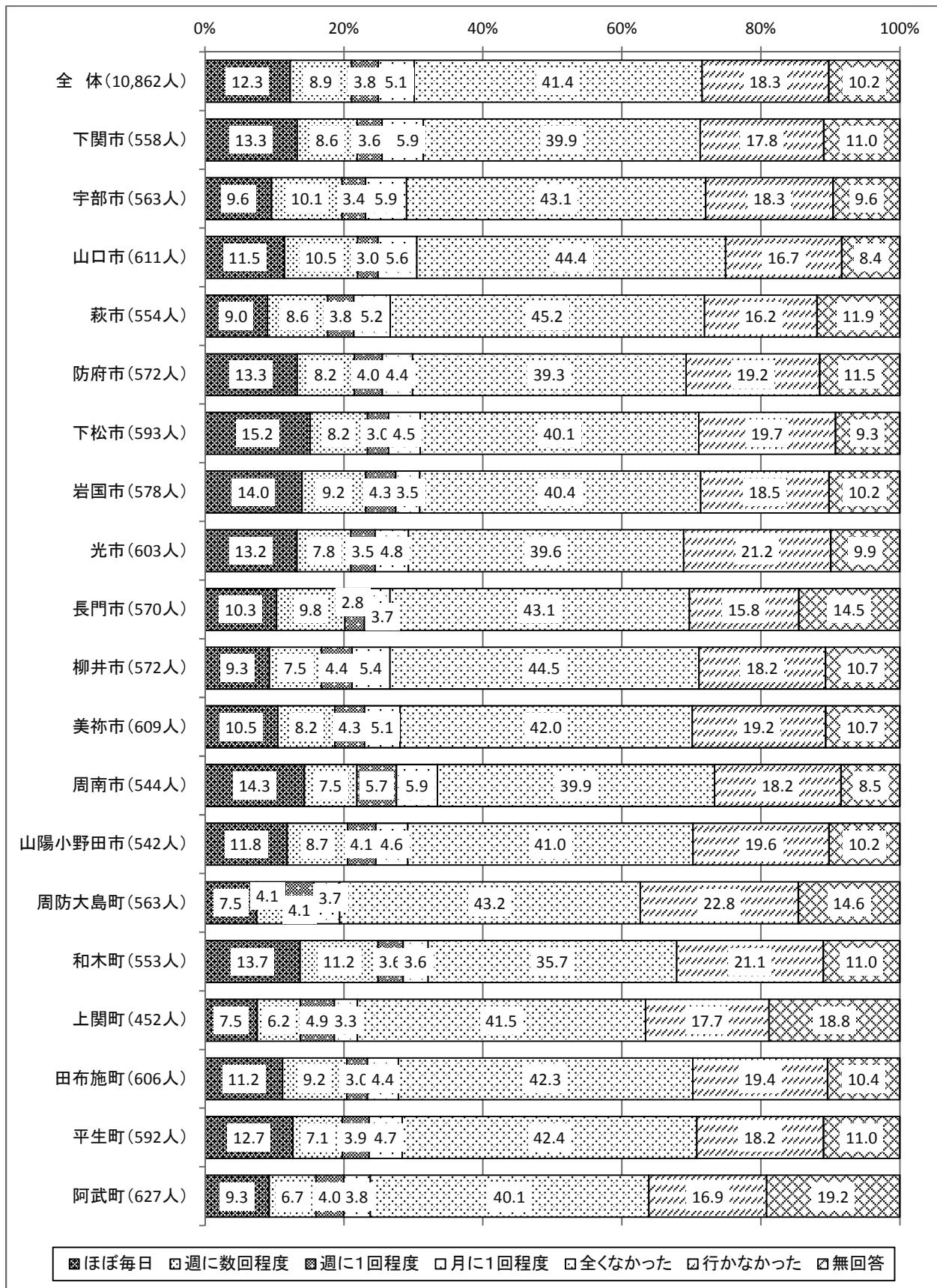
性別の集計では、男性で19.8%、女性で5.2%が、職場において「ほぼ毎日」受動喫煙していると回答し、男性のほうがより職場における受動喫煙を受ける傾向があった。解釈には男女の就業率の違いに注意する必要がある。

年代別の集計において、20歳代から40歳代までは、職場において「ほぼ毎日」受動喫煙している割合は2割弱で推移し、以降の年代では低下していた。

市町別の集計では、職場において「ほぼ毎日」受動喫煙している割合は、周防大島町、上関町で最も低く7.5%で、下松市で最も高く15.2%となった。

参考値 平成25年山口県健康づくりに関する意識調査 「ほぼ毎日」 13.4%

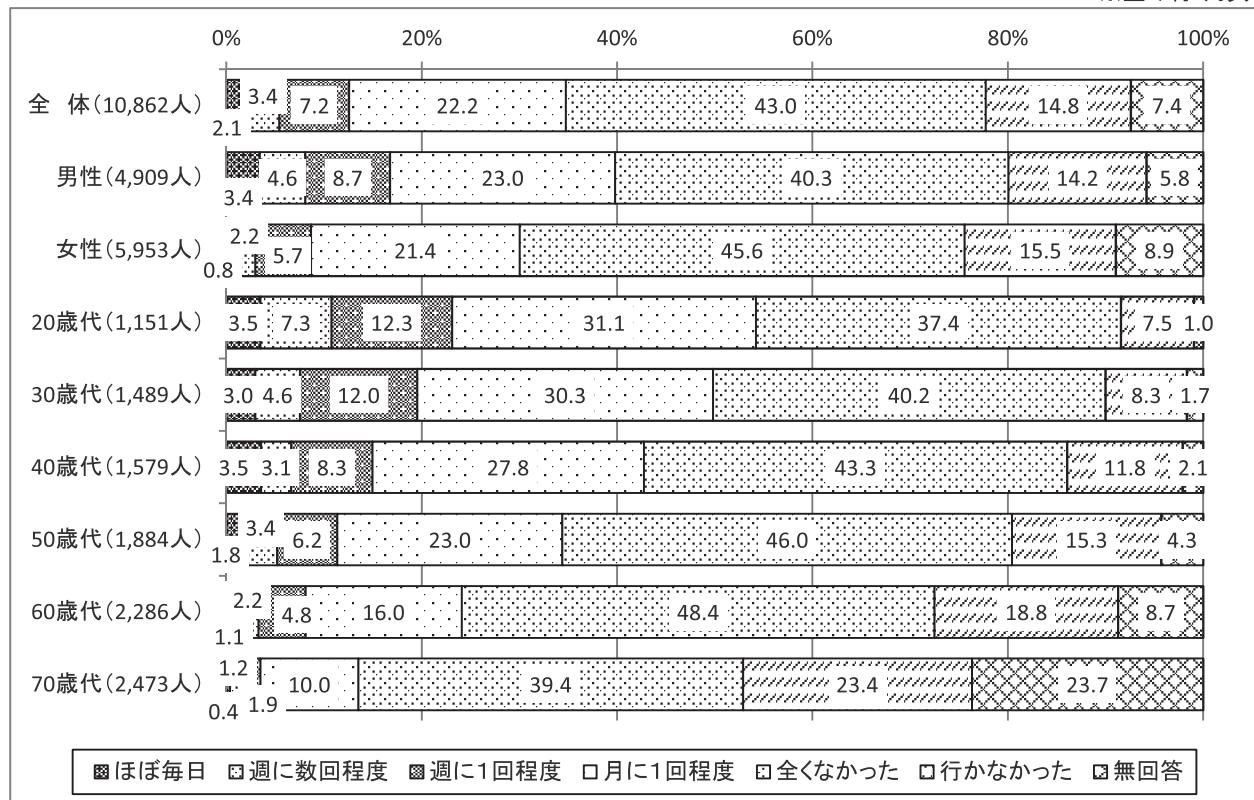
※重み付けあり



■ほぼ毎日 □週に数回程度 ▲週に1回程度 △月に1回程度 □全くなかつた □行かなかつた □無回答

ウ. 飲食店

※重み付けあり



全体の集計においては、過去1か月間に飲食店へ行った者（「行かなかった」「無回答」以外の回答をした者）は77.9%であり、その約半分の34.9%が飲食店で月に1回以上の受動喫煙を受けている。

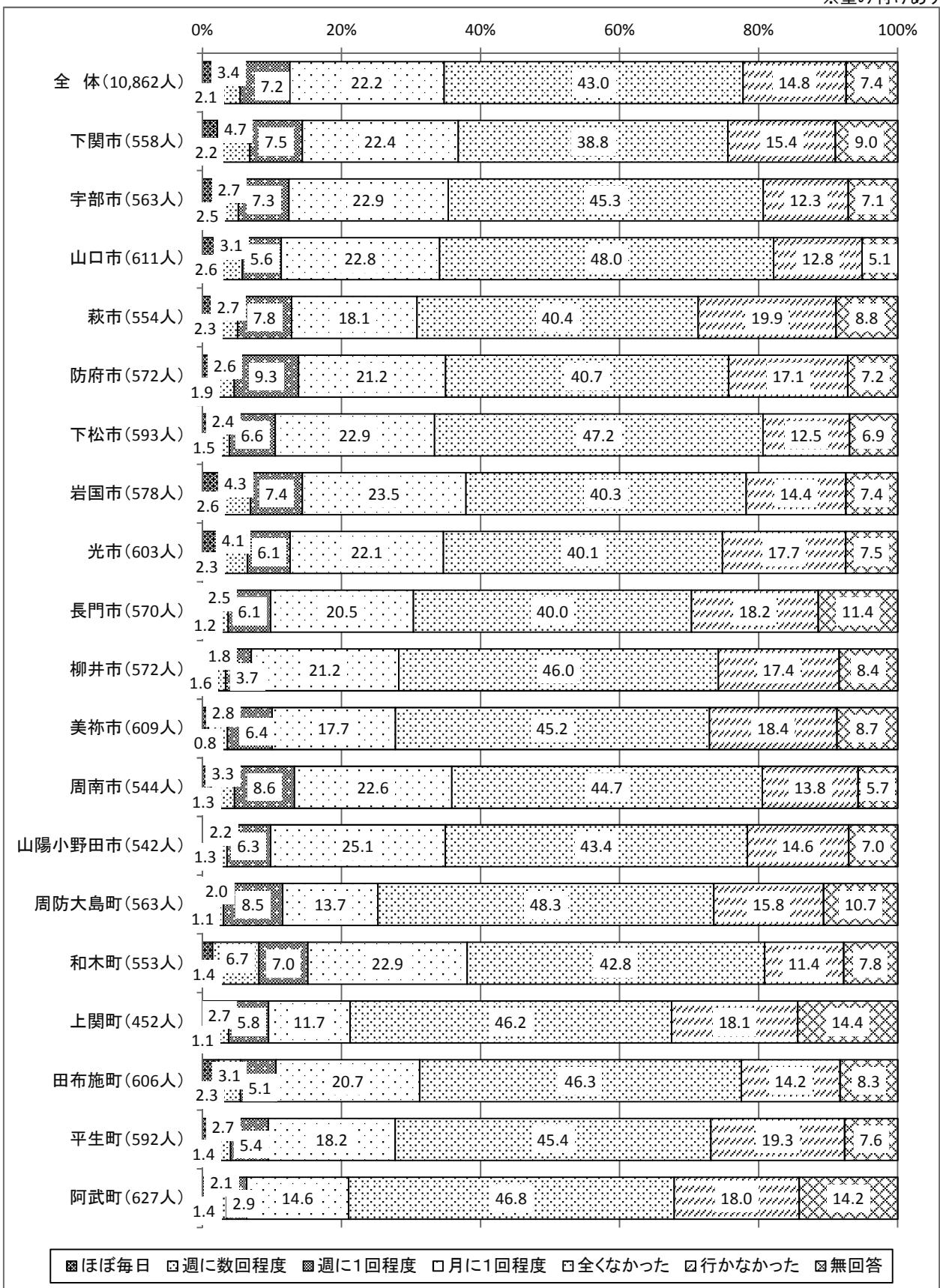
性別の集計では、受動喫煙を受けた割合は、男性のほうがやや高くなる傾向があった。

年代別の集計では、年を重ねるにつれて過去1か月間に飲食店へ行った者の割合は減少し、それに伴い、月に1回以上の受動喫煙を受ける割合も減少していた。

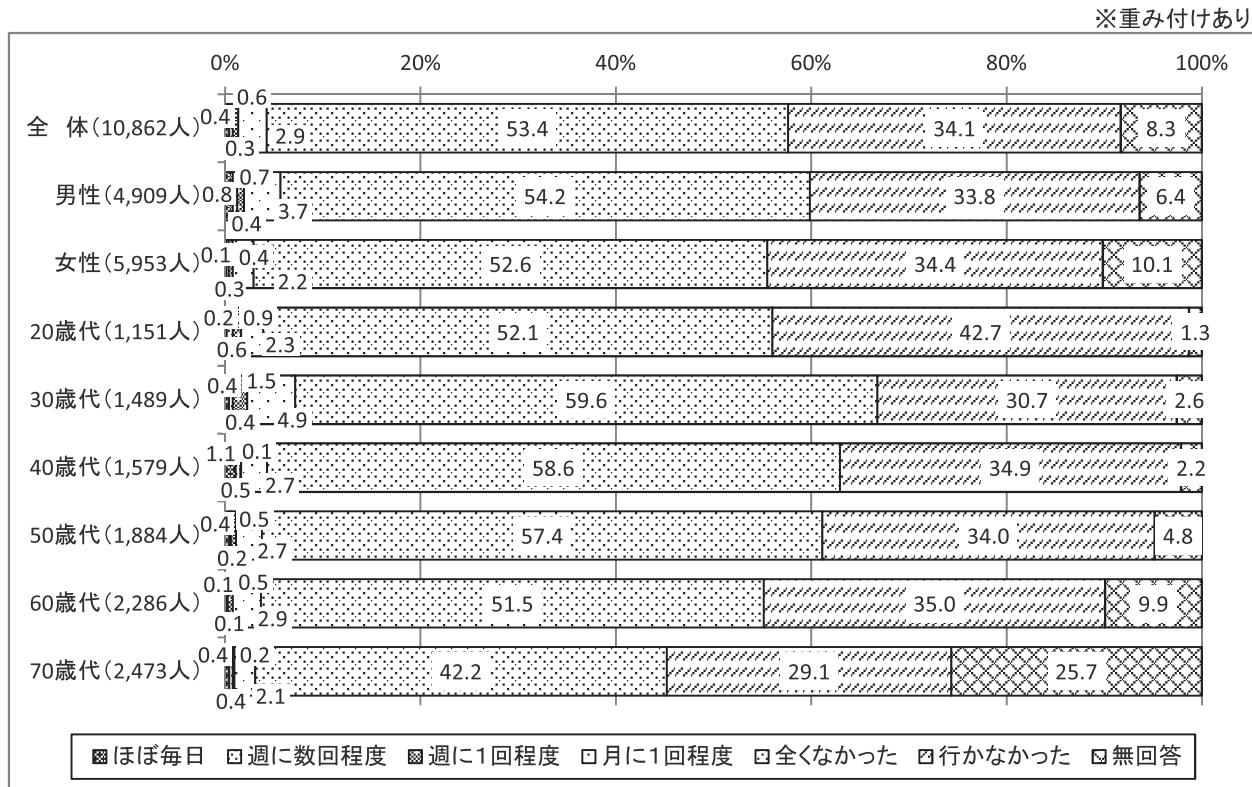
市町別の集計では、過去1か月間に飲食店へ行った割合にばらつきがあり、それに伴い、月に1回以上の受動喫煙の割合もばらつきがでていた。

参考値 平成25年山口県健康づくりに関する意識調査 「ほぼ毎日」 1.5%

※重み付けあり



工. 行政機関



全体の集計においては、過去1か月間に行政機関へ行った者（「行かなかった」「無回答」以外の回答をした者）は57.6%であり、その大半は受動喫煙は「全くなかった」。

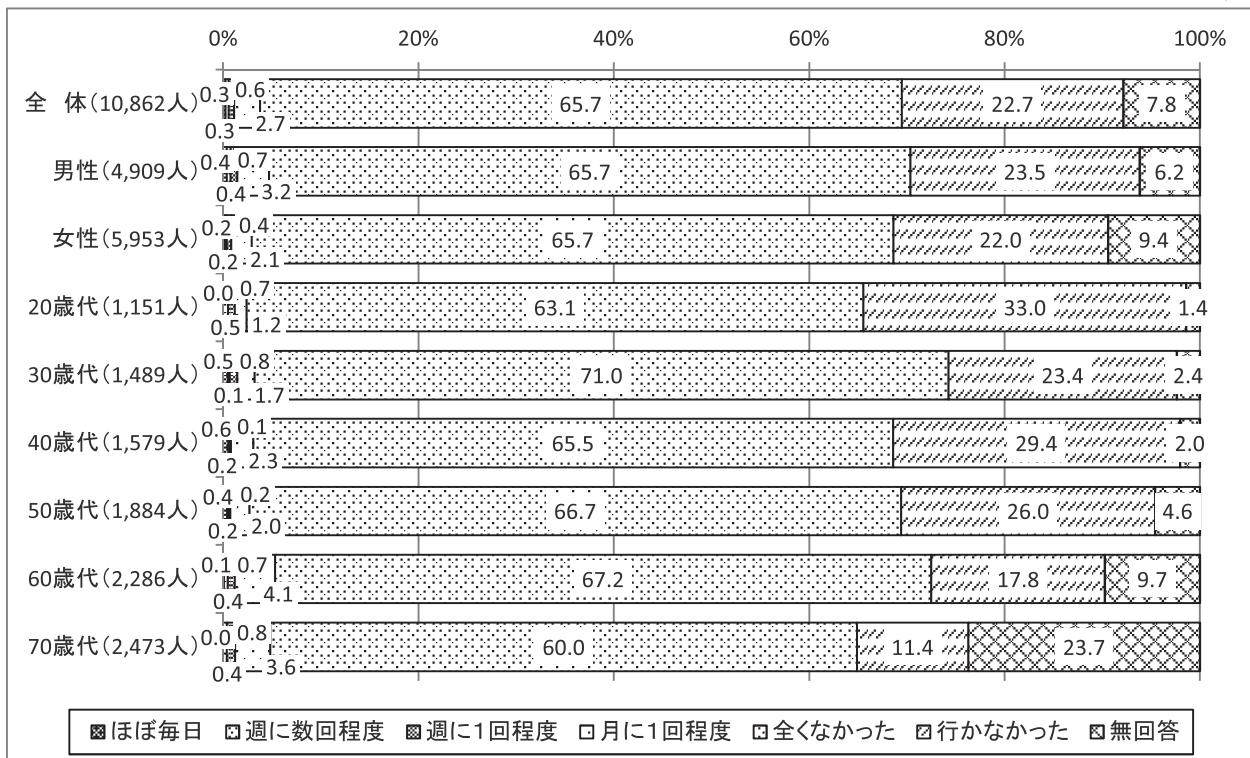
性別別の集計においても、同様の結果が得られた。

年代別の集計でも同様の結果が得られ、年代ごとに過去1か月間に行政機関へ行った者の割合は異なるが、その大半は受動喫煙は「全くなかった」。

参考値 平成25年山口県健康づくりに関する意識調査 「ほぼ毎日」 0.5% (未調整)

才. 医療機関

※重み付けあり



全体の集計においては、過去1か月間に医療機関へ行った者（「行かなかった」「無回答」以外の回答をした者）は全体の69.6%であり、その大半は受動喫煙は「全くなかった」。

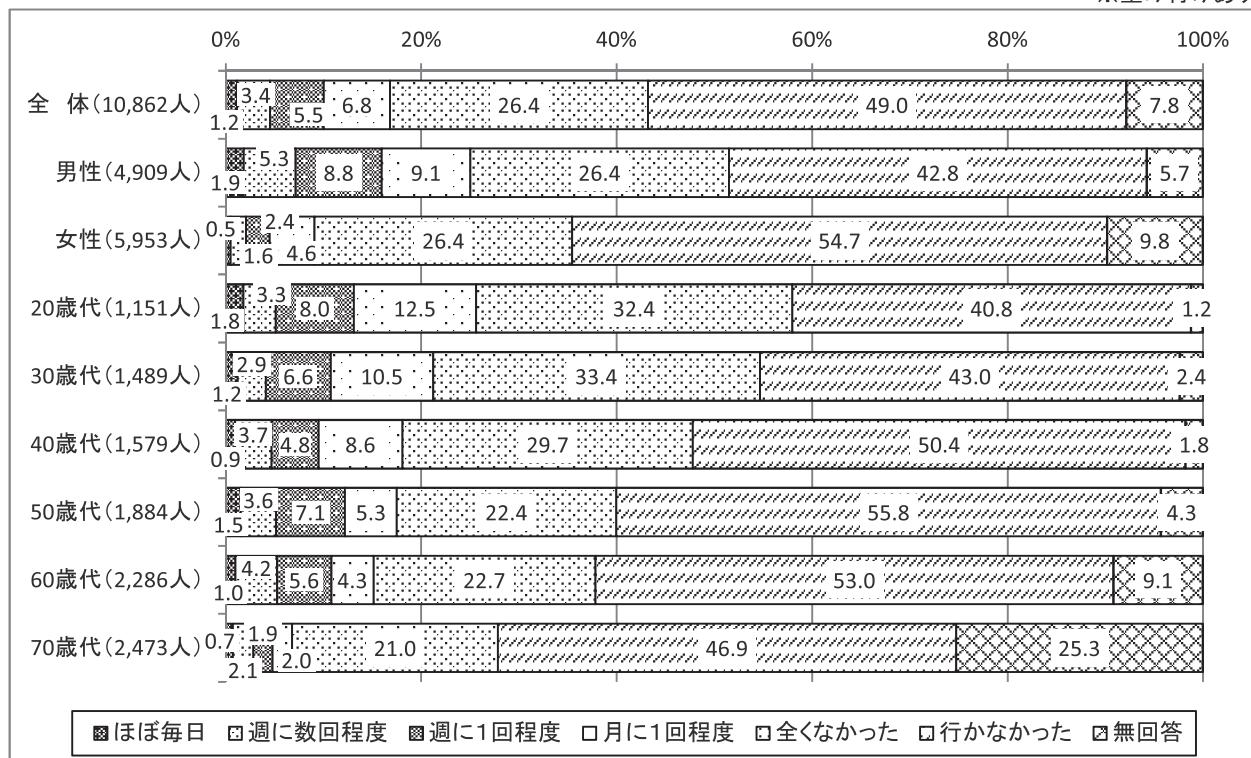
性別の集計においても、同様の結果が得られた。

年代別の集計でも同様の結果が得られ、年代ごとに過去1か月間に医療機関へ行った者の割合は異なるが、その大半は受動喫煙は「全くなかった」。

参考値 平成25年山口県健康づくりに関する意識調査 「ほぼ毎日」 0.4%

力. 遊技場

※重み付けあり



全体の集計においては、過去1か月間に遊技場へ行った者（「行かなかった」「無回答」以外の回答をした者）は43.3%であり、その半数弱が遊技場で月に1回以上の受動喫煙を経験していた。

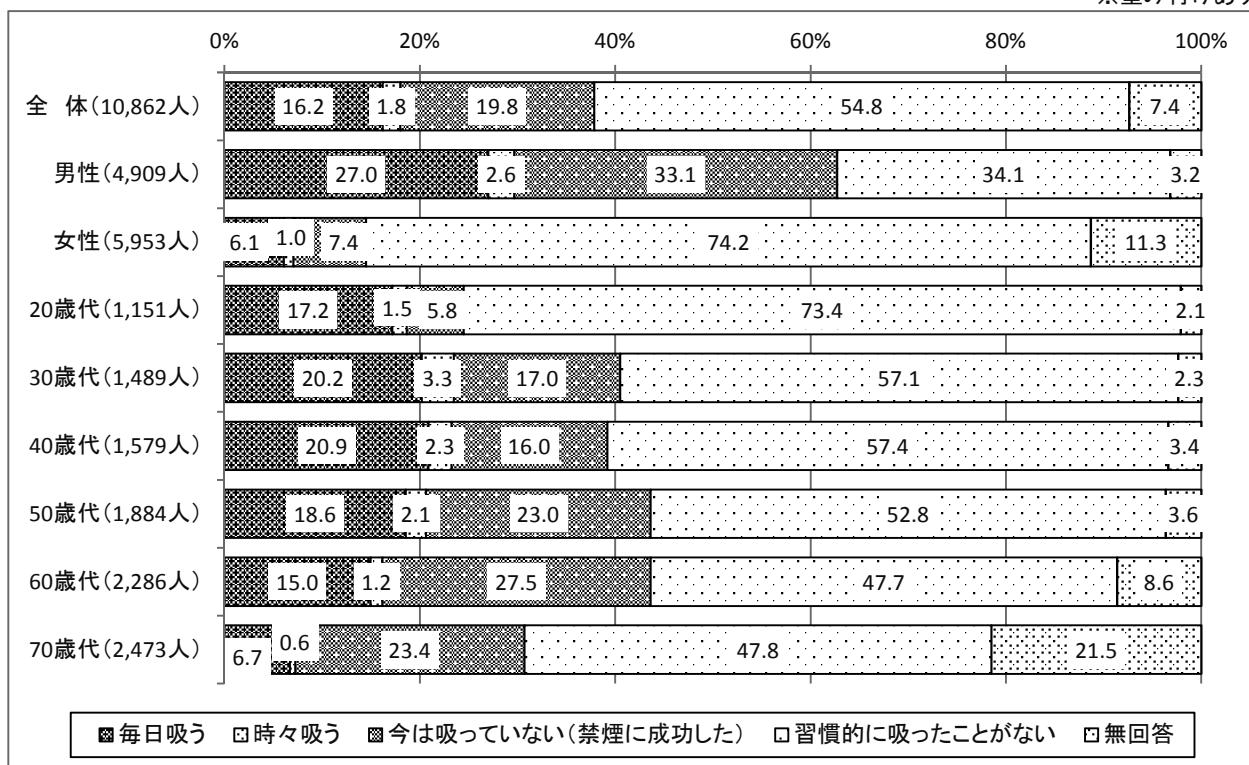
性別の集計においては、過去1か月間に遊技場へ行った割合は、男性のほうが高く51.5%、女性で35.5%であり、このうち月に1回以上の受動喫煙の割合は、男性が約半分、女性では半分以下であった。

年代別の集計では、年を重ねるにつれて過去1か月間に遊技場へ行った者の割合は減少し、それに伴い、月に1回以上の受動喫煙の割合も減少している。

参考値 平成25年山口県健康づくりに関する意識調査 「ほぼ毎日」 1.1%

問17 あなたは、現在(この1か月間)たばこを吸っていますか。(○は1つ)

※重み付けあり



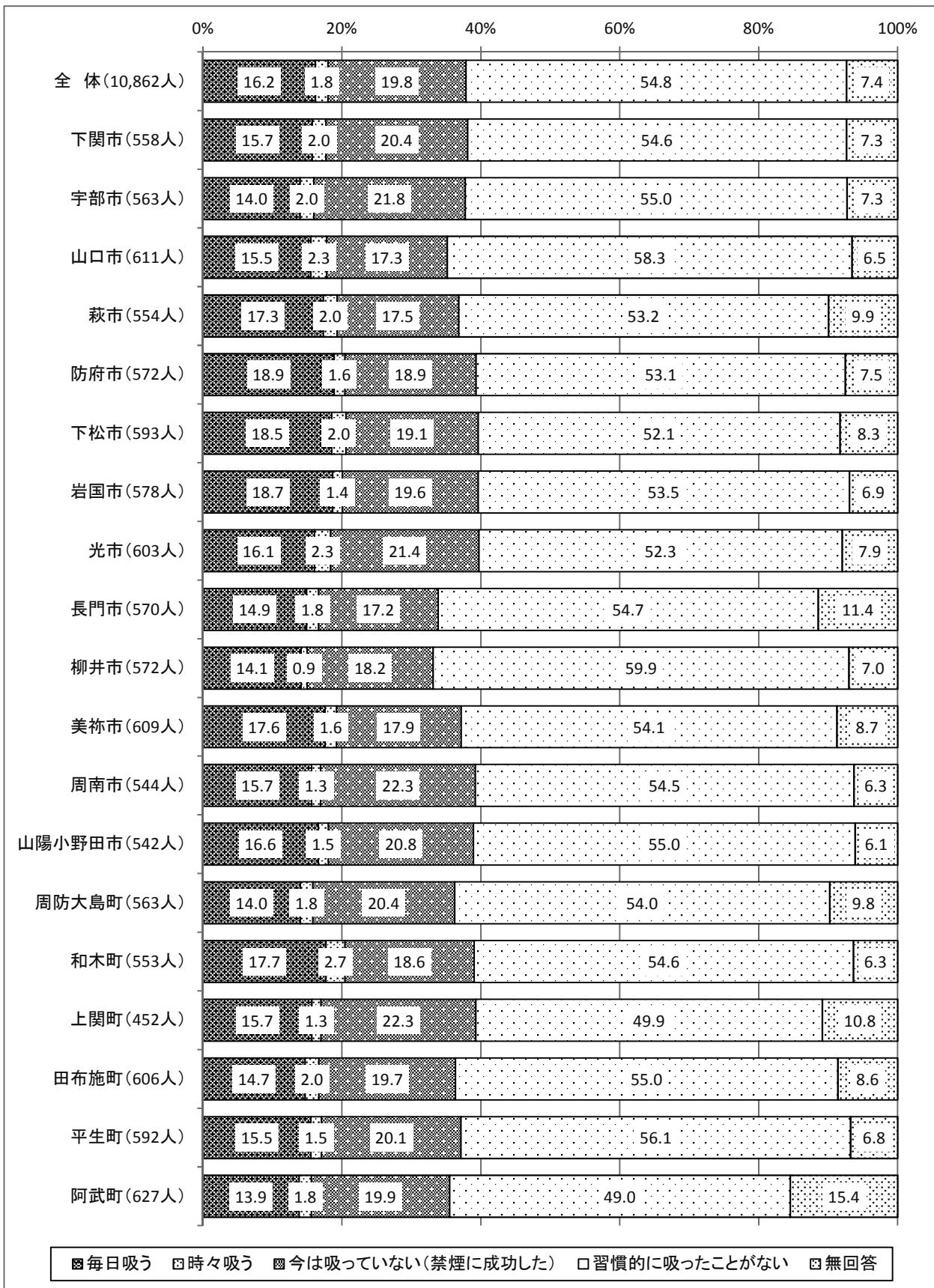
喫煙者（「毎日吸う」「時々吸う」と回答した者）の割合は、全体の18.0%、男性の29.6%、女性の7.1%であり、男性のほうが高い喫煙率となった。

年代別の集計では、喫煙者の割合は、20歳代では2割弱で、30歳代、40歳代、50歳代では2割を超えていた。以降の年代では、年を重ねるにつれて喫煙者の割合は減少していく。

市町別の集計では、喫煙者の割合は、概ね2割以内だった。

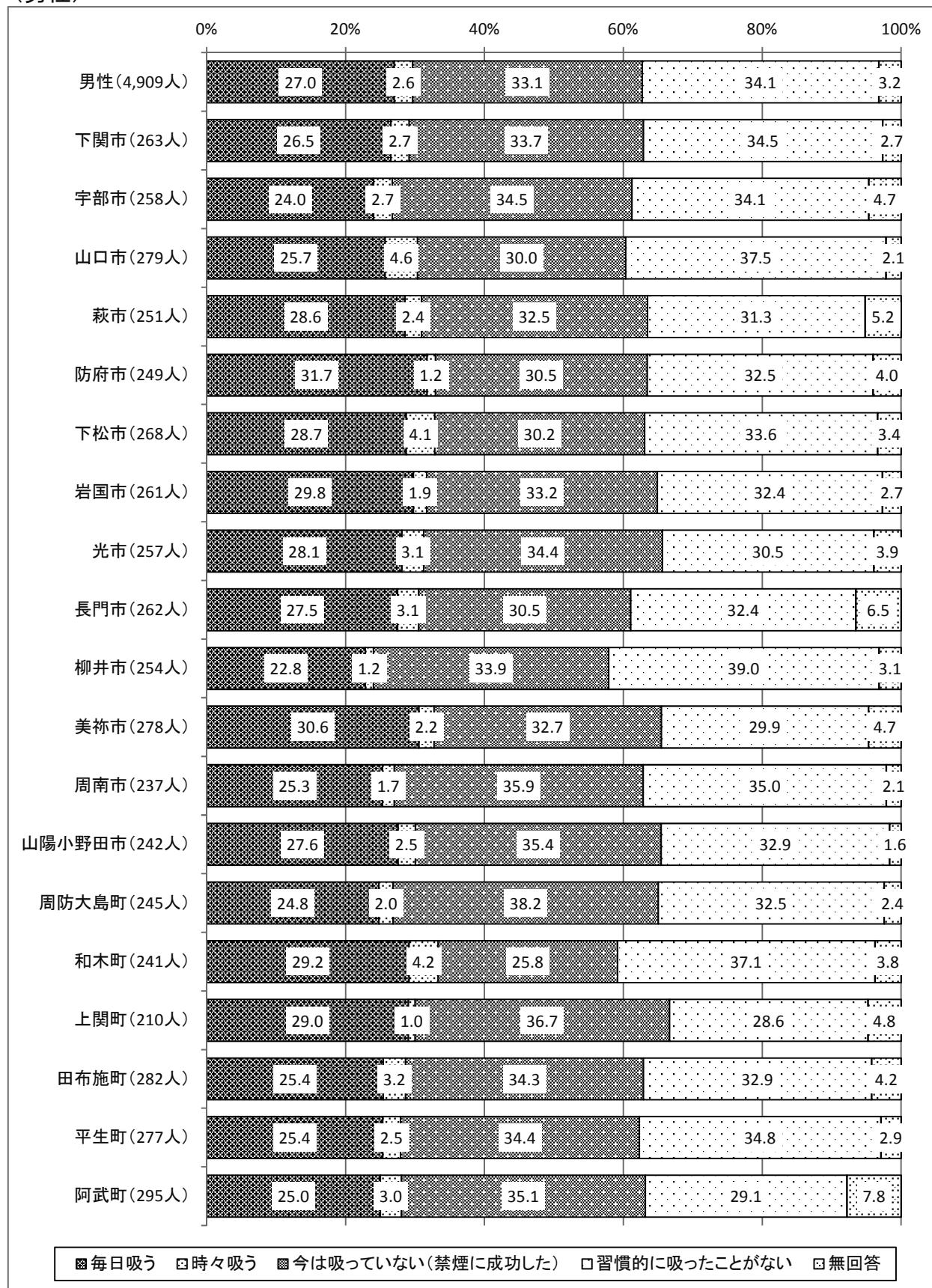
参考値 平成25年山口県健康づくりに関する意識調査 「毎日吸う・時々吸う」 15.4%

※重み付けあり



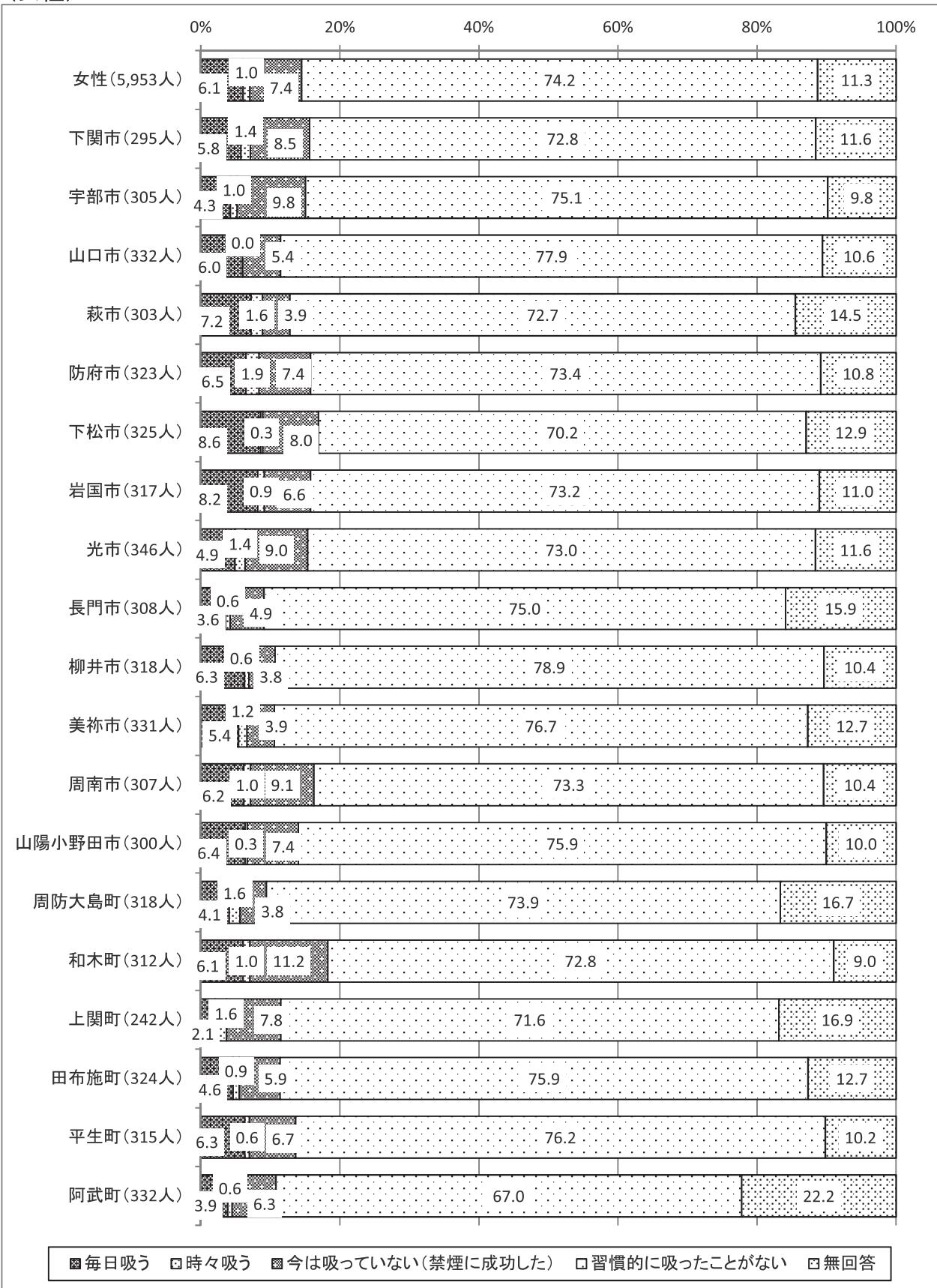
(男性)

※重み付けあり



(女性)

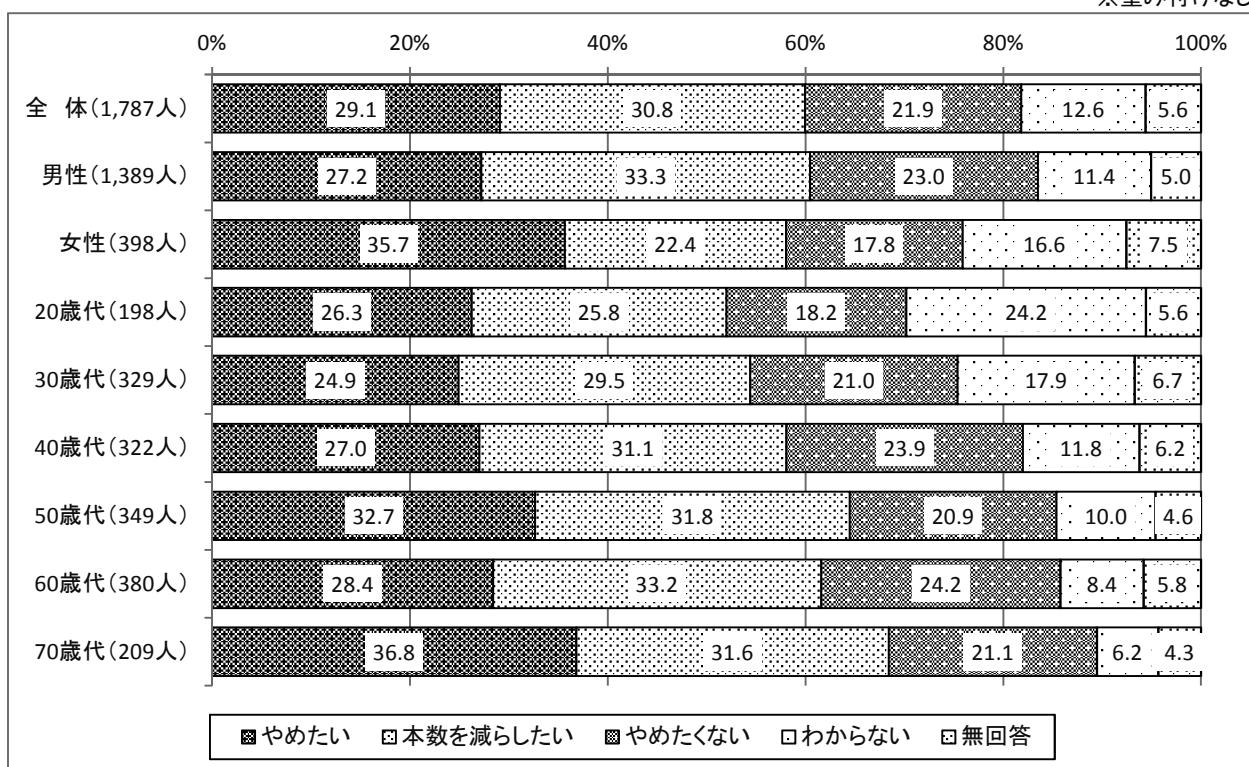
※重み付けあり



問17-1 あなたは、たばこをやめたいと思いますか。(○は1つ)

※問17でたばこを毎日吸う、時々吸うと答えた人のみ回答

※重み付けなし



全体の集計において、たばこを「やめたい」または「本数を減らしたい」と回答した割合はそれぞれ3割程度で、喫煙者の6割程度が禁煙・減煙したいと思っていた。

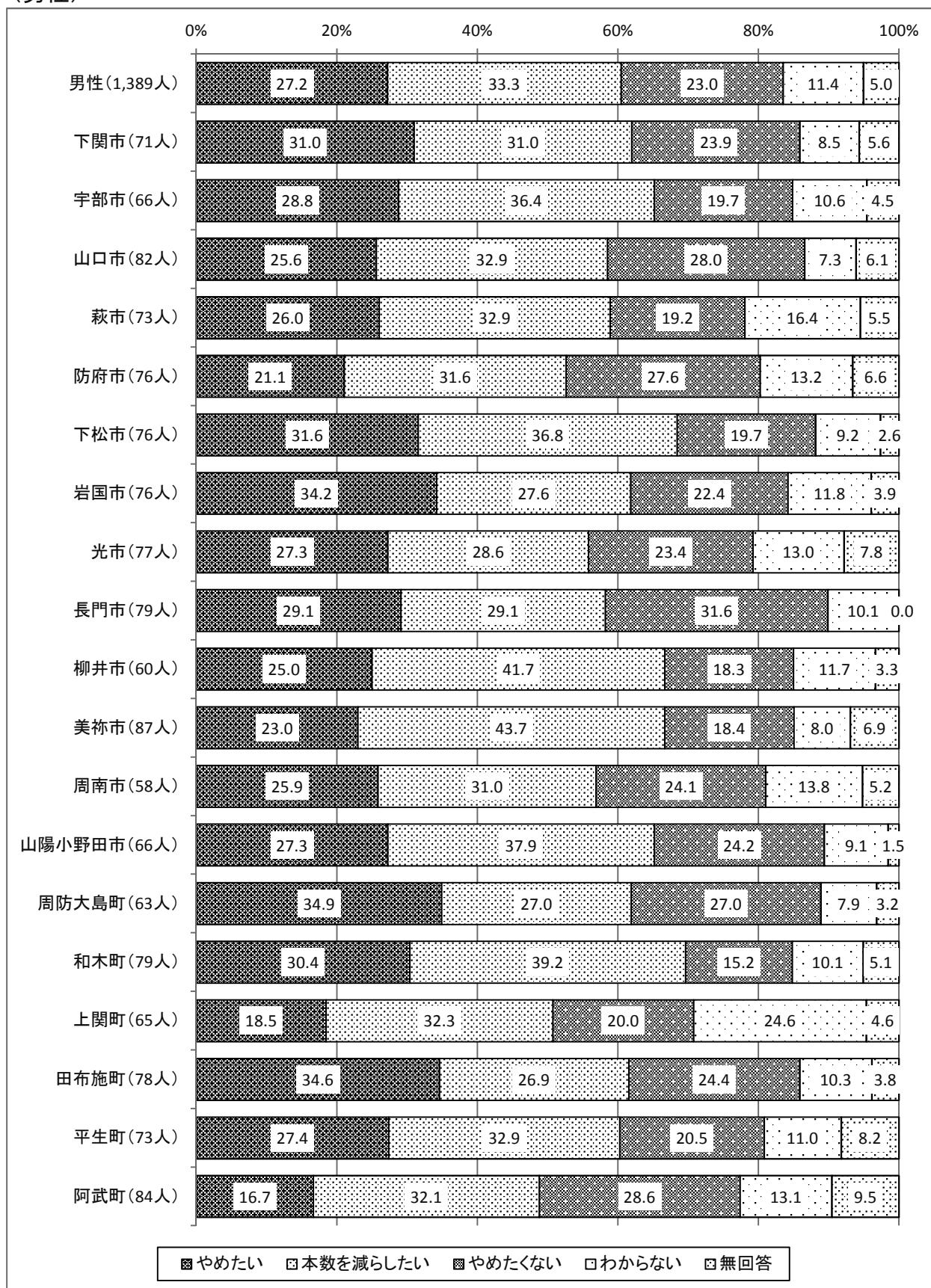
性別の集計においても、同様に6割程度がたばこを「やめたい」または「本数を減らしたい」と回答し、女性ではたばこを「やめたい」と回答した割合がより高かった。

年代別の集計では、年を重ねるにつれて、たばこを「やめたい」または「本数を減らしたい」と回答した割合は高くなる傾向があった。

注) 性別、年代別、市町別で分けた時に、喫煙している人が全くいない群だったので、重み付けの計算をしなかった。

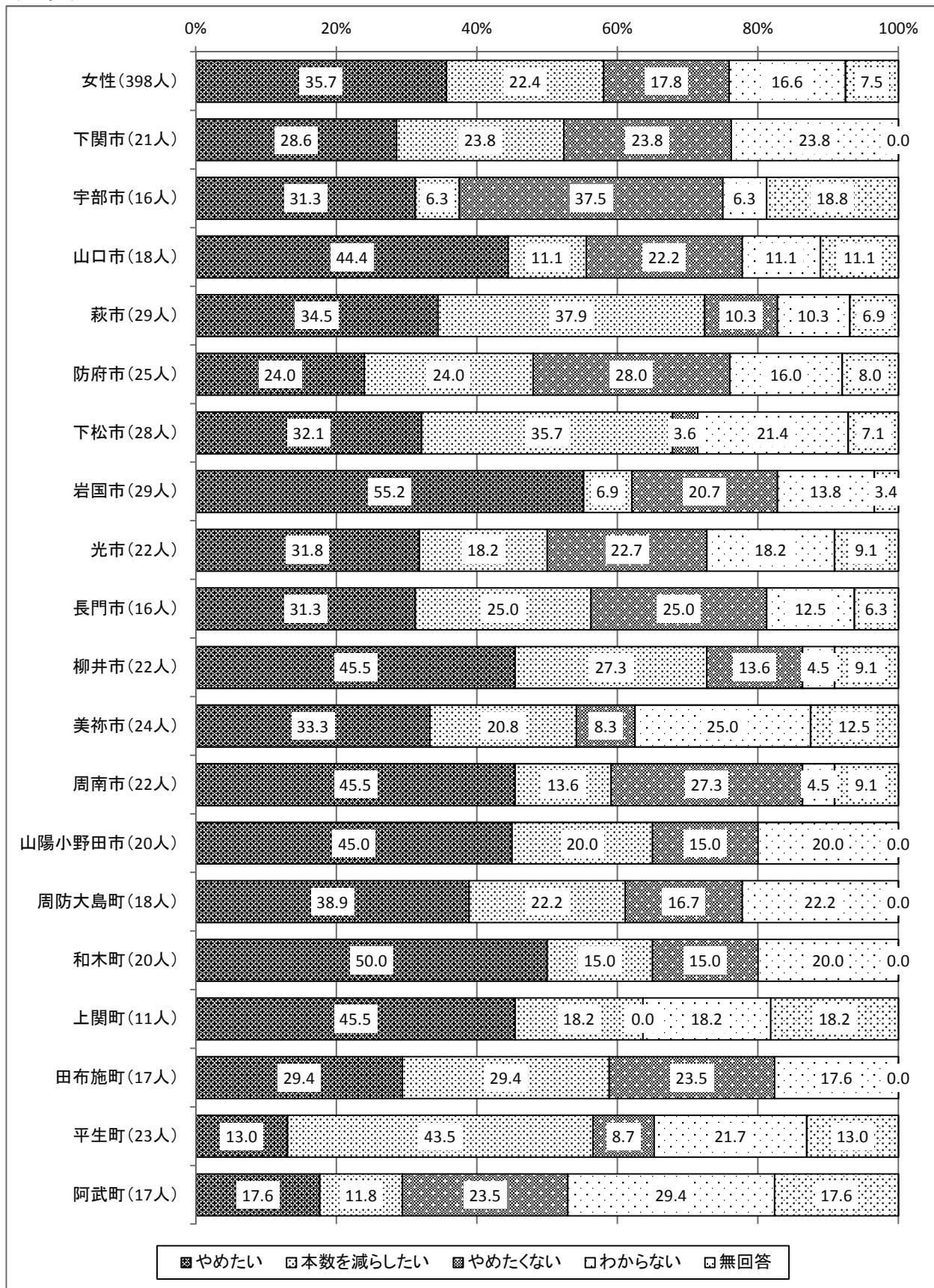
(男性)

※重み付けなし



(女性)

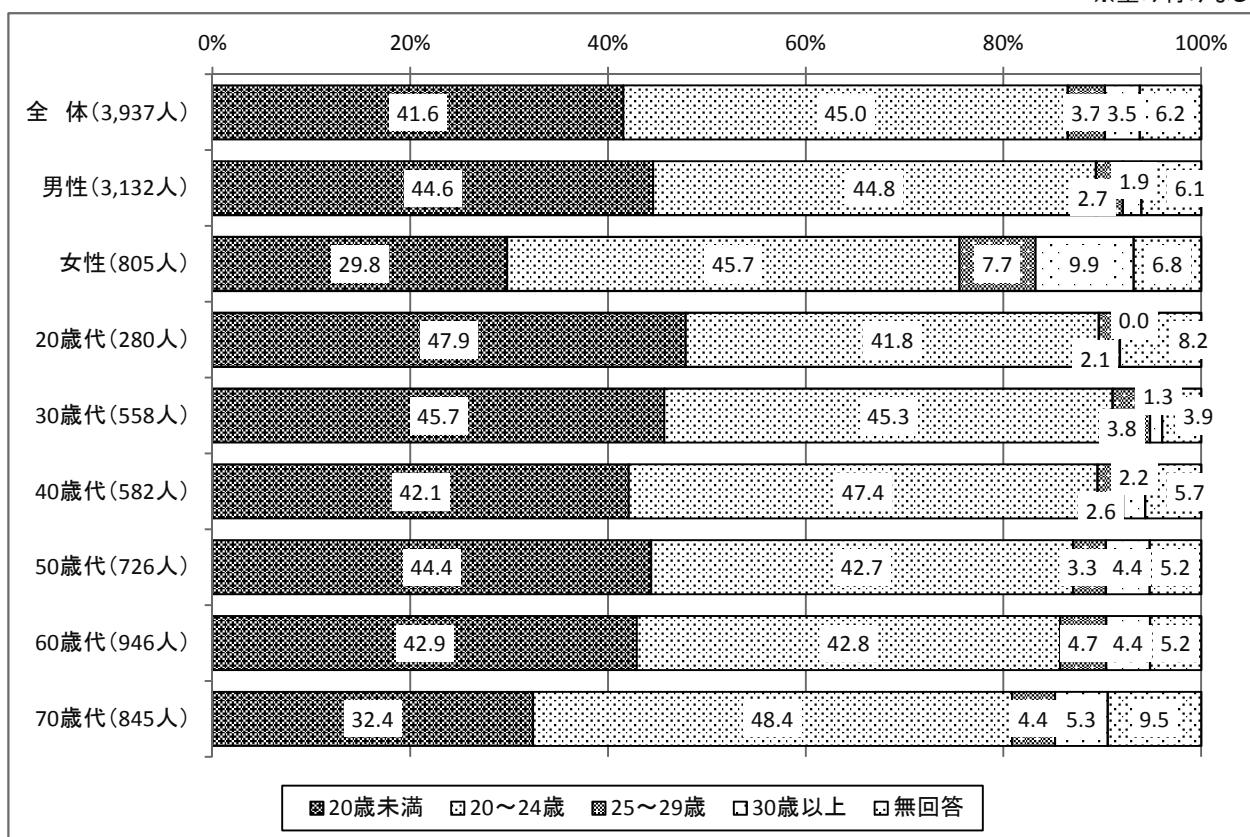
※重み付けなし



問17-2 あなたは、何歳から習慣的にたばこを吸うようになりましたか。(○は1つ)

※問17で習慣的に吸ったことがないと答えた人以外回答

※重み付けなし



全体の集計では、8割以上が「20歳未満」または「20~24歳」でたばこを吸うようになり、その半数近くの4割が「20歳未満」でたばこを吸うようになるという結果が得られた。

性別別の集計でも、男女間による差異はあったものの、「20歳未満」または「20~24歳」でたばこを吸うようになる者が多かった。

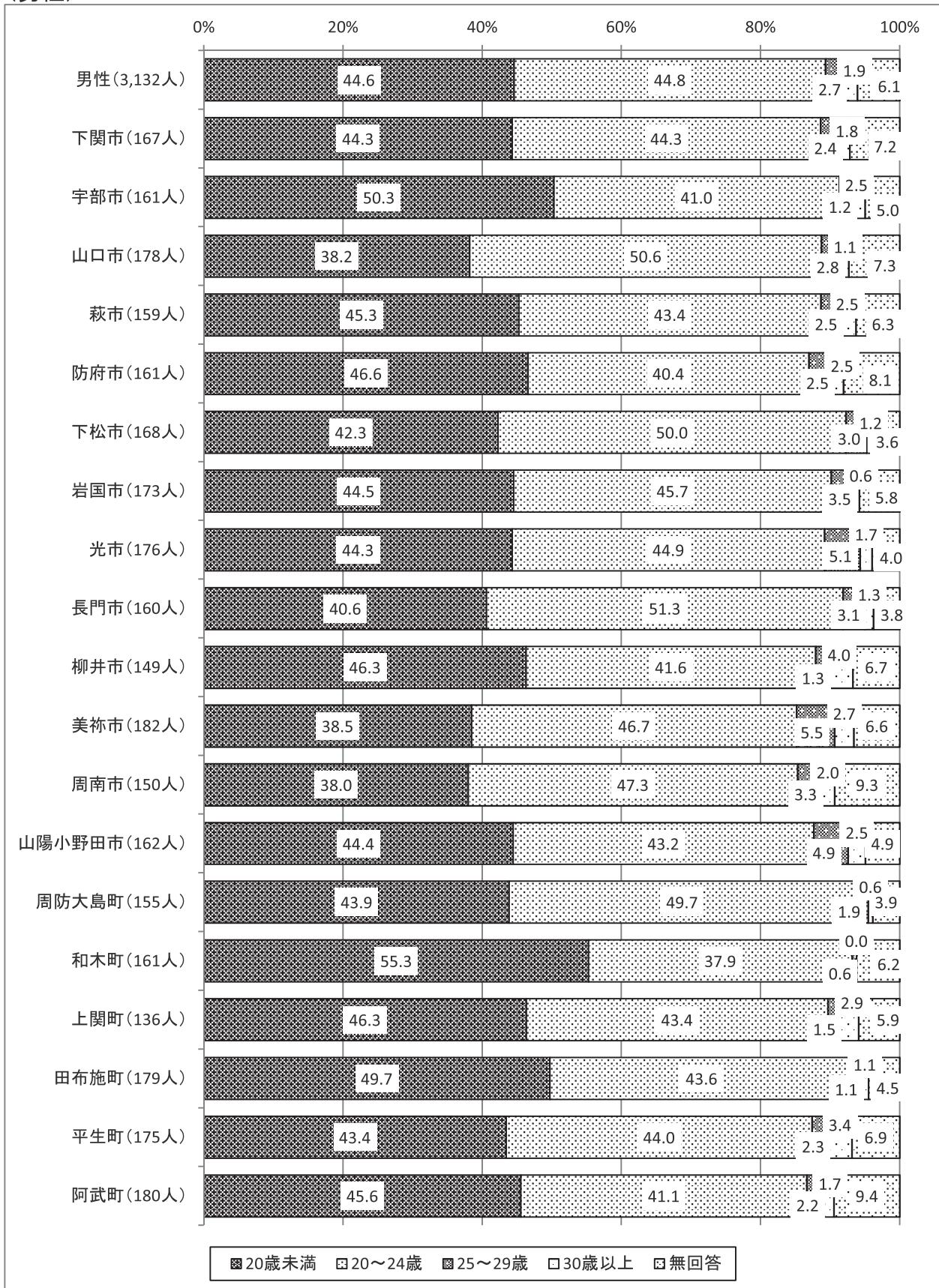
年代別の集計でも、概ね8割以上が「20歳未満」または「20~24歳」でたばこを吸うようになり、その半数近くが「20歳未満」でたばこを吸うようになるという傾向があった。

参考値 平成25年山口県健康づくりに関する意識調査 「20歳未満」 23%

注) 性別、年代別、市町別で分けた時に、喫煙している人が全くいない群だったので、重み付けの計算をしなかった。

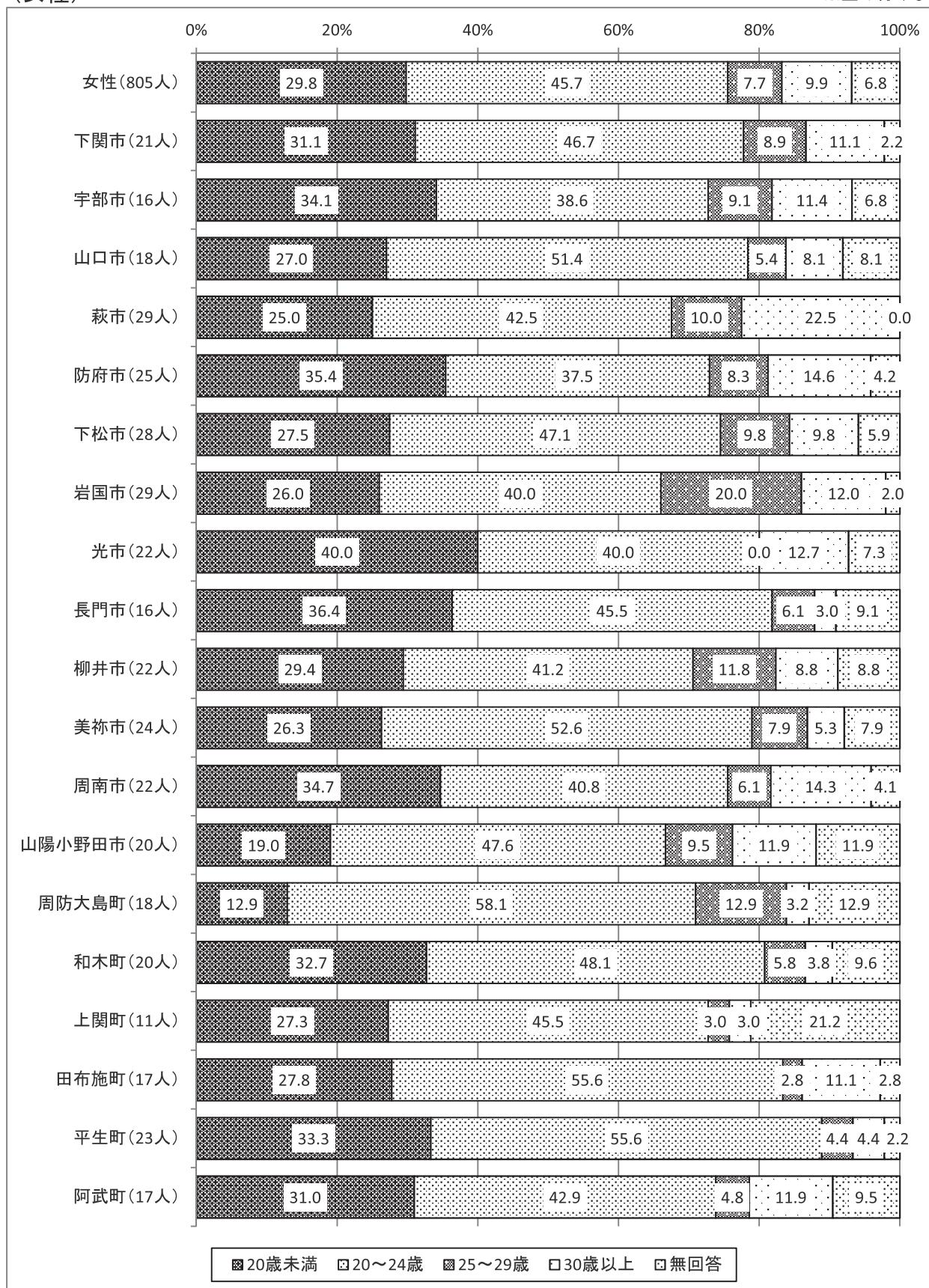
(男性)

※重み付けなし



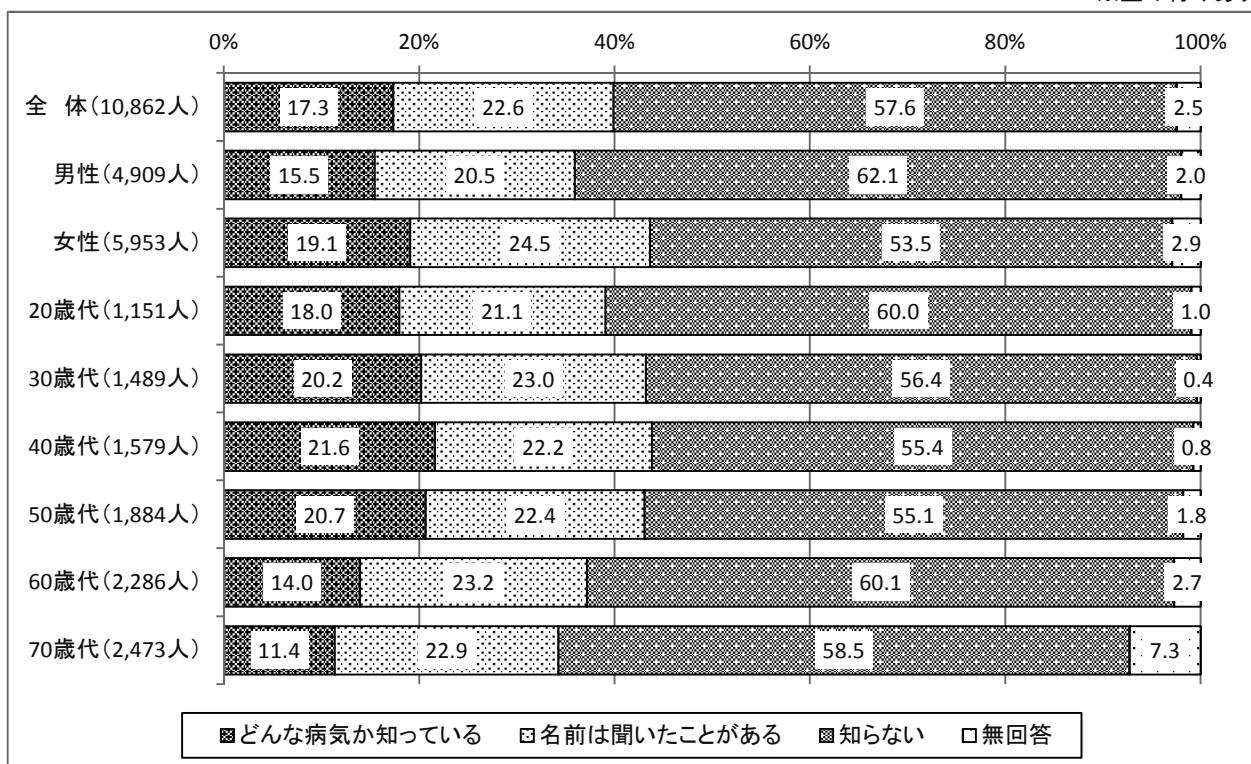
(女性)

※重み付けなし



問18 あなたは、「COPD(慢性閉塞性肺疾患)」という病気を知っていますか。(○は1つ)

※重み付けあり



全体の集計においては、COPD(慢性閉塞性肺疾患)を知っている（「どんな病気か知っている」と「名前は聞いたことがある」の合計）と回答した割合は39.9%であった。

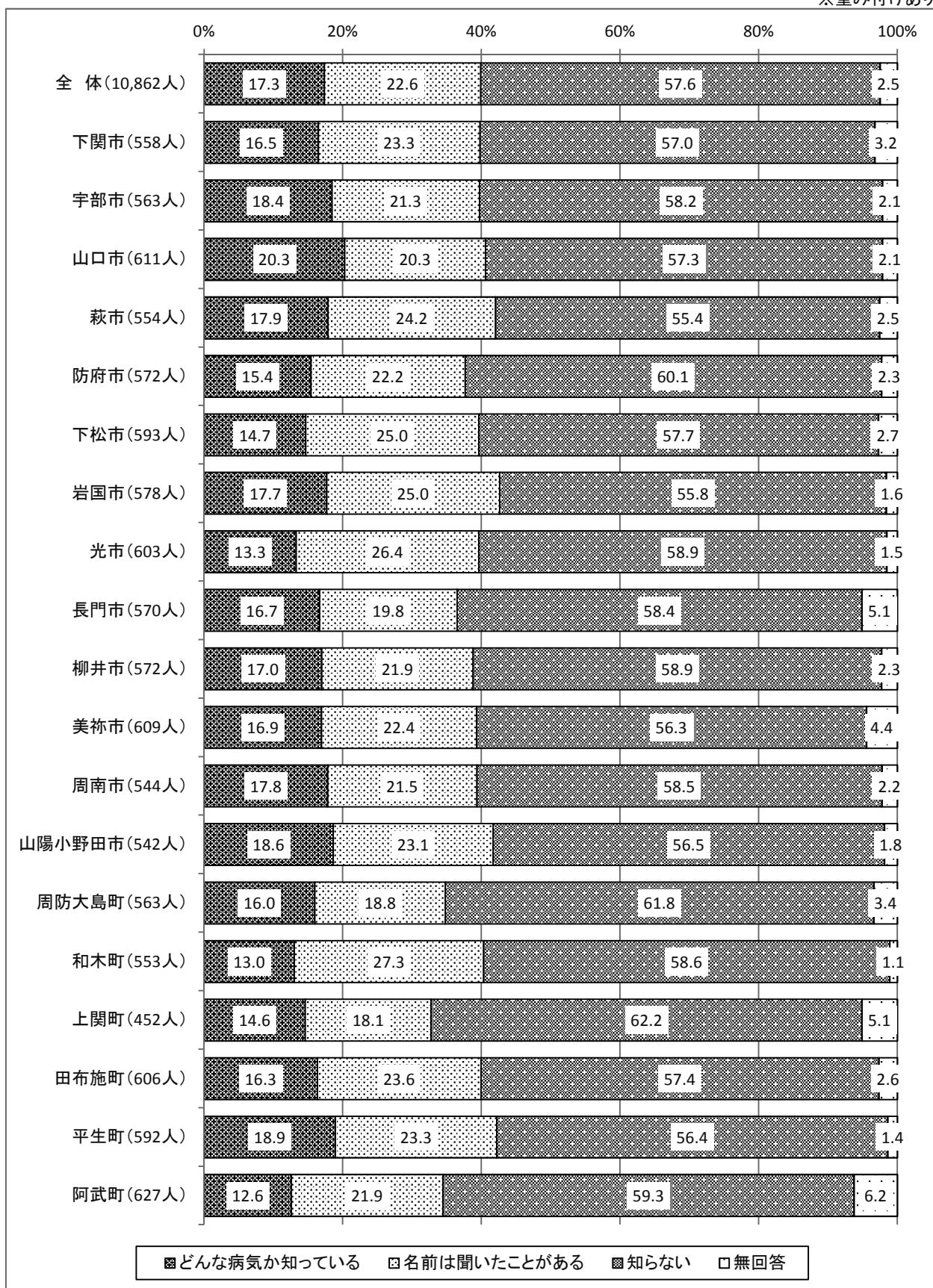
性別の集計では、男性で36.0%、女性で43.6%が「知っている」と回答した。

年代別の集計では、20歳代から50歳代の4割程度が「知っている」と回答し、60歳代、70歳代ではその割合はさらに低い値であった。全ての年代で、6割程度は「知らない」と回答しており、COPDは依然認知が不十分と考えられる。

市町別の集計では、概ね4割程度が「知っている」と回答し、6割程度は「知らない」と回答した。

参考値 平成25年山口県健康づくりに関する意識調査 知っている（「どんな病気か知っている」と「名前は聞いたことがある」の合計）41.9%

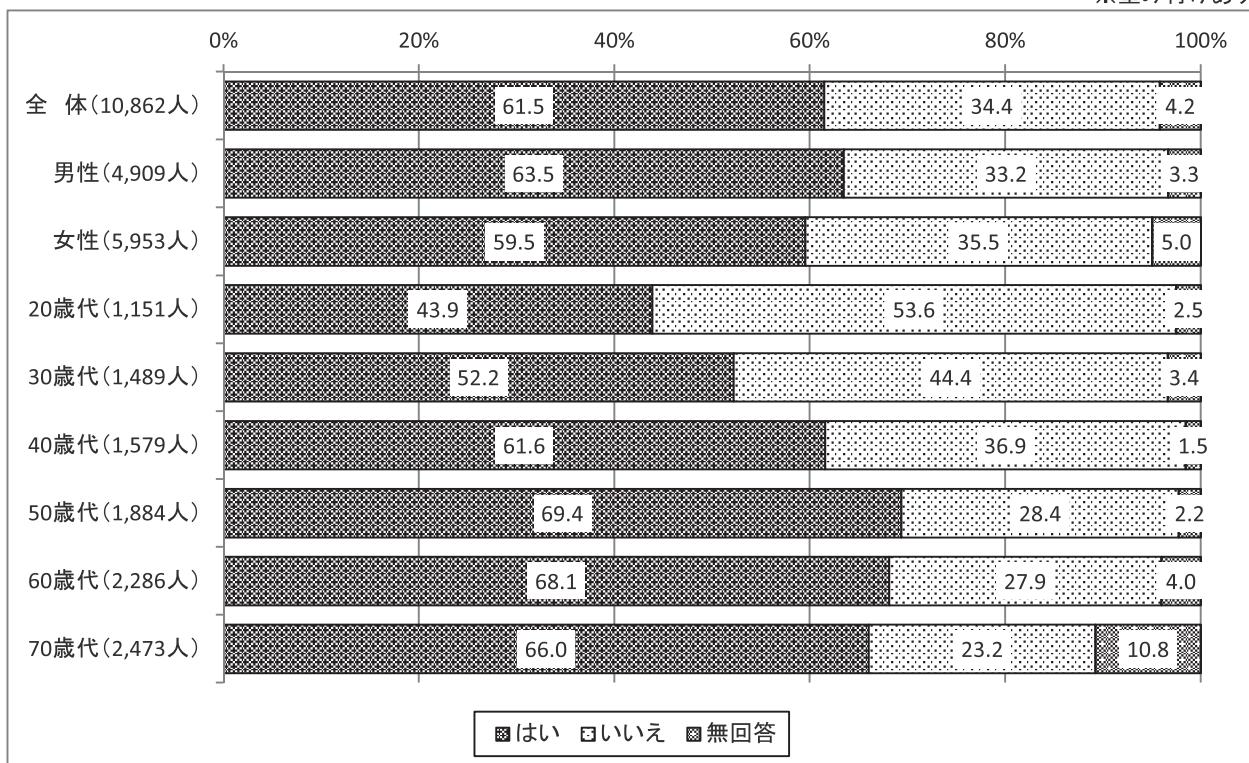
※重み付けあり



飲酒について

問19 あなたは、「節度ある適度な飲酒」としては、1日平均1合程度であることを知っていますか。(○は1つ)

※重み付けあり



「適切な飲酒が1日平均1合程度であることを知っていますか。」という問い合わせに対し、全体の61.5%が「はい」と回答した。

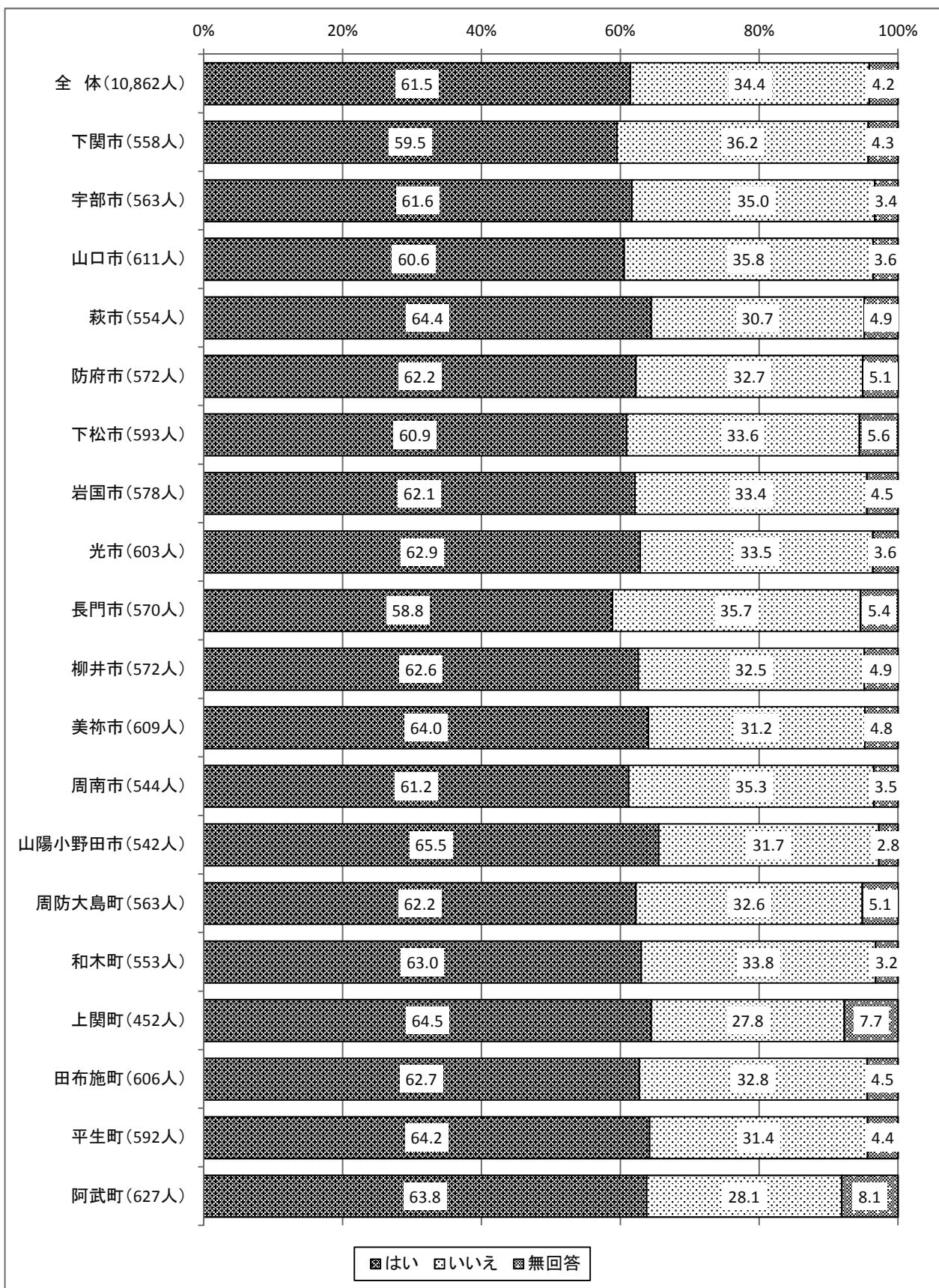
性別の集計でも同様の結果が得られ、男性で63.5%が、女性で59.5%が「はい」と回答した。

年代別の集計では、20歳代で低く43.9%、30歳代で52.2%、それ以降の年代では、6割以上が「はい」と回答した。

市町別の調査においては、概ね6割前後が「はい」と回答した。

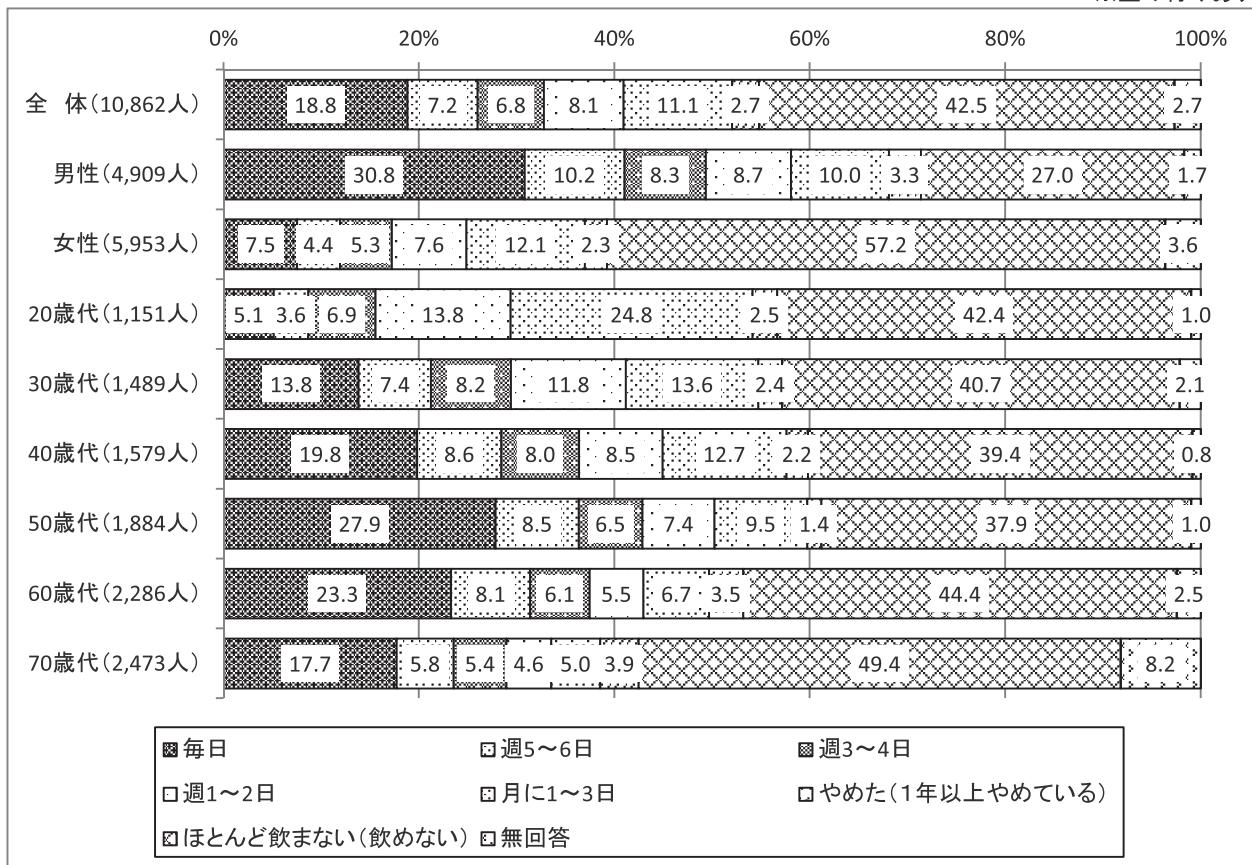
参考値 平成25年山口県健康づくりに関する意識調査 「はい」 77.1%

※重み付けあり



問20 あなたは、週に何日くらいお酒を飲みますか。(○は1つ)

※重み付けあり



「週に何日くらいお酒を飲みますか。」という問い合わせに対し、全体の18.8%が「毎日」と回答した。

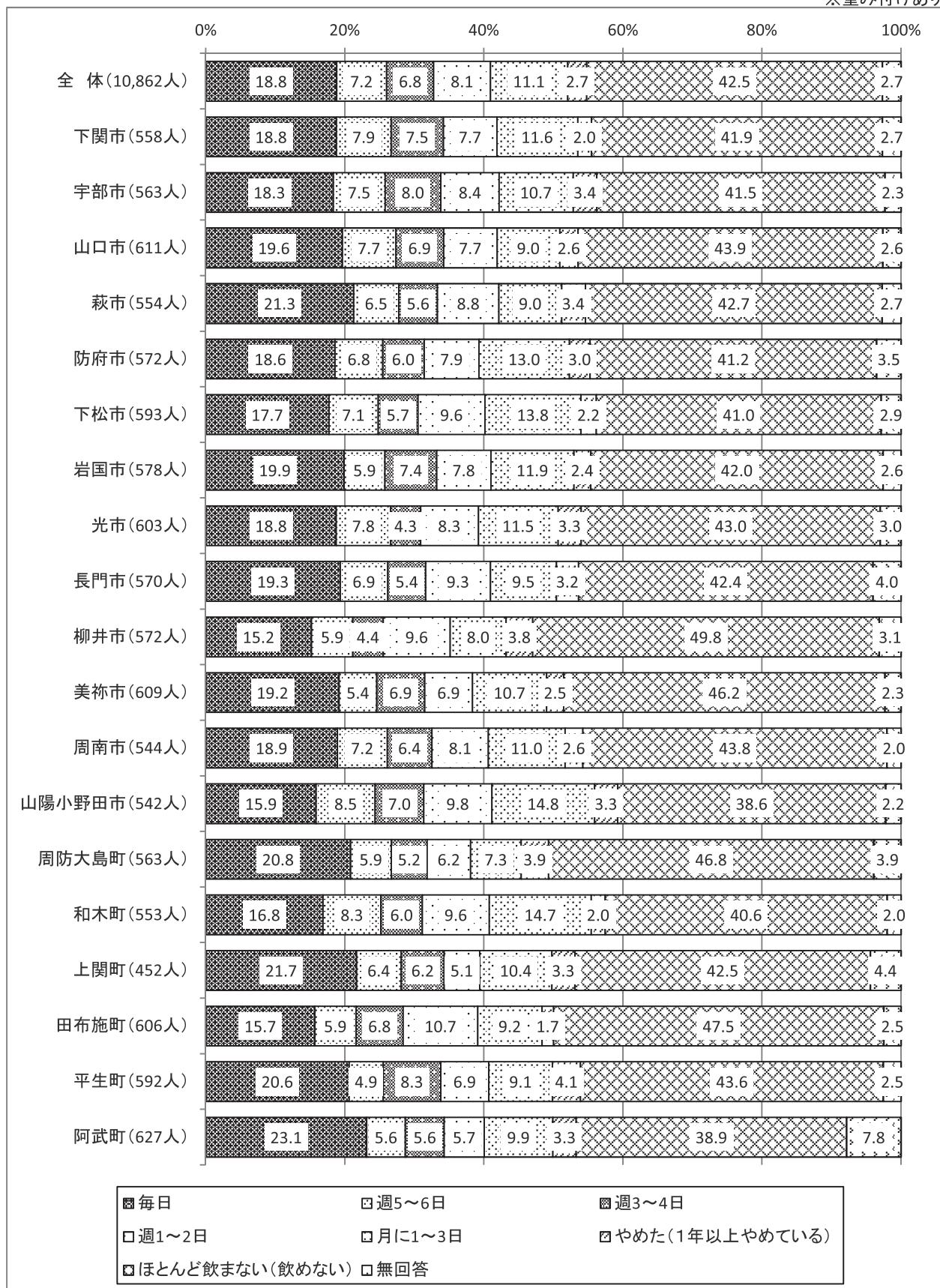
性別別の集計では、男性で30.8%、女性で7.5%が「毎日」と回答し、男性のほうにより飲酒の習慣化があった。

年代別の集計においては、「毎日」と回答した割合が20歳代において5.1%と最も低く、それ以降の年代では、50歳代の27.9%のピークを迎えるまで増加し、さらに年を重ねると減少していく。

市町別の集計においては、「毎日」と回答した割合が阿武町の23.1%で最も高く、柳井市の15.2%で最も低かった。

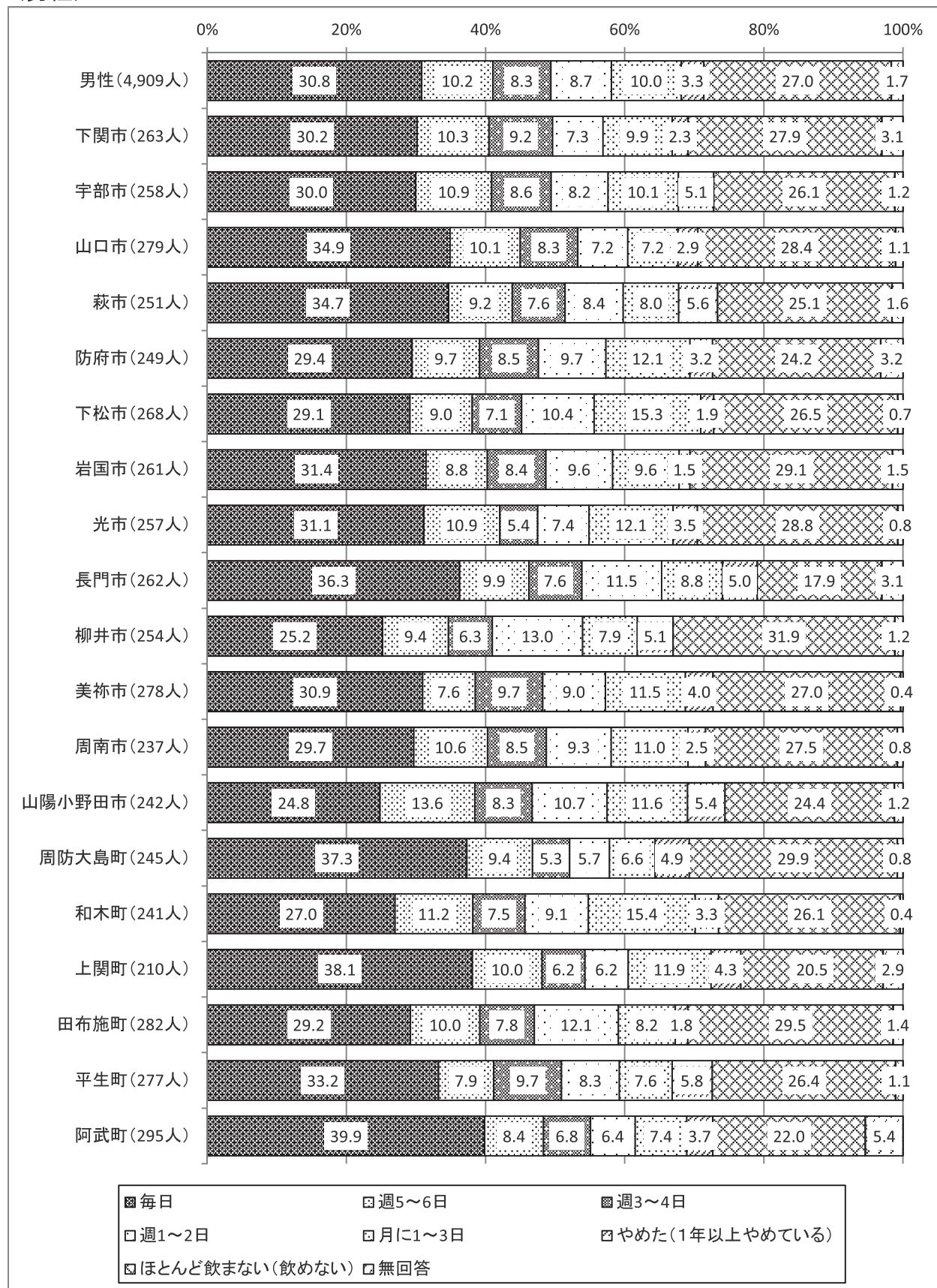
参考値 平成25年山口県健康づくりに関する意識調査 「毎日」 18.1%

※重み付けあり



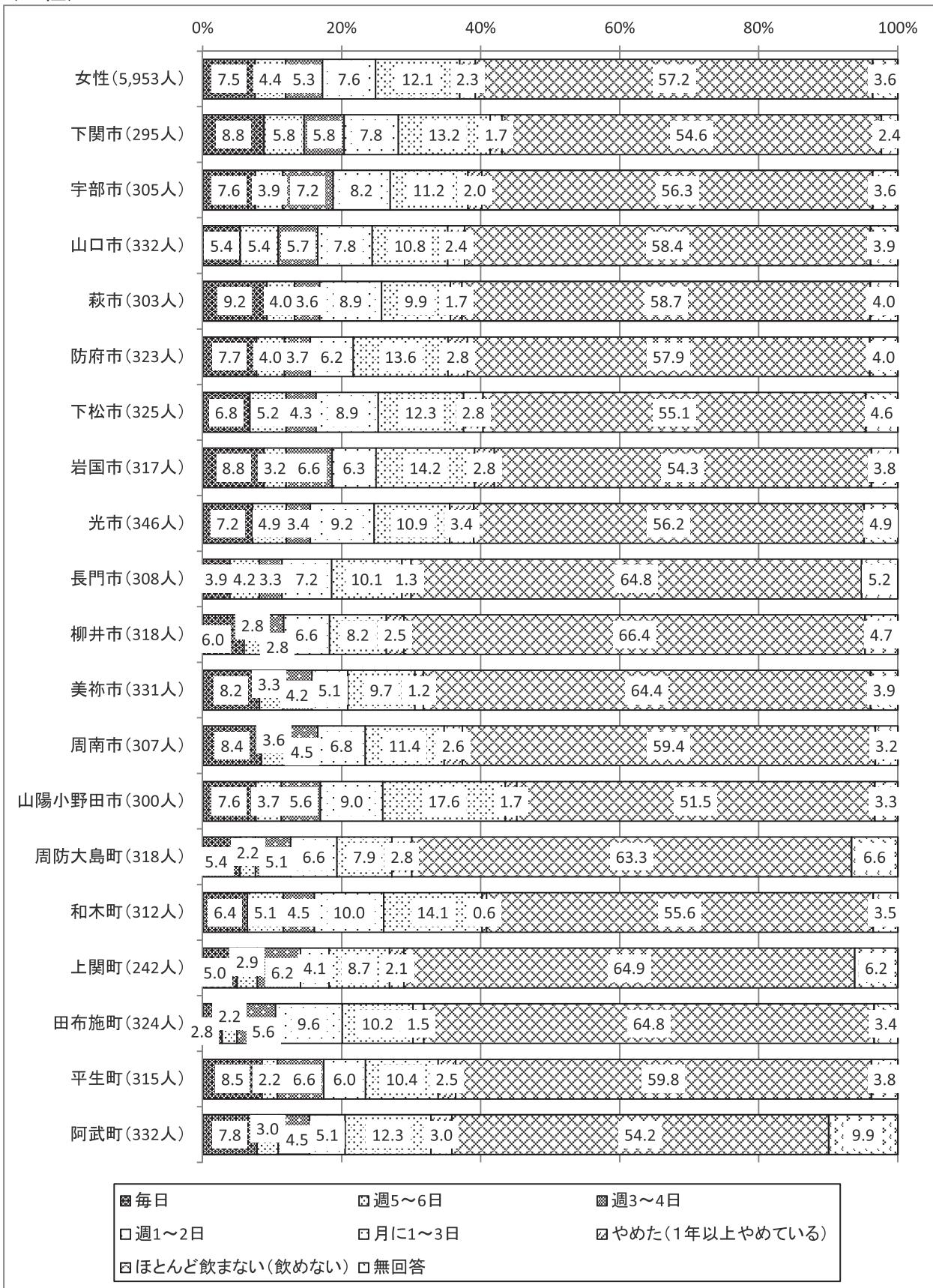
(男性)

※重み付けあり



(女性)

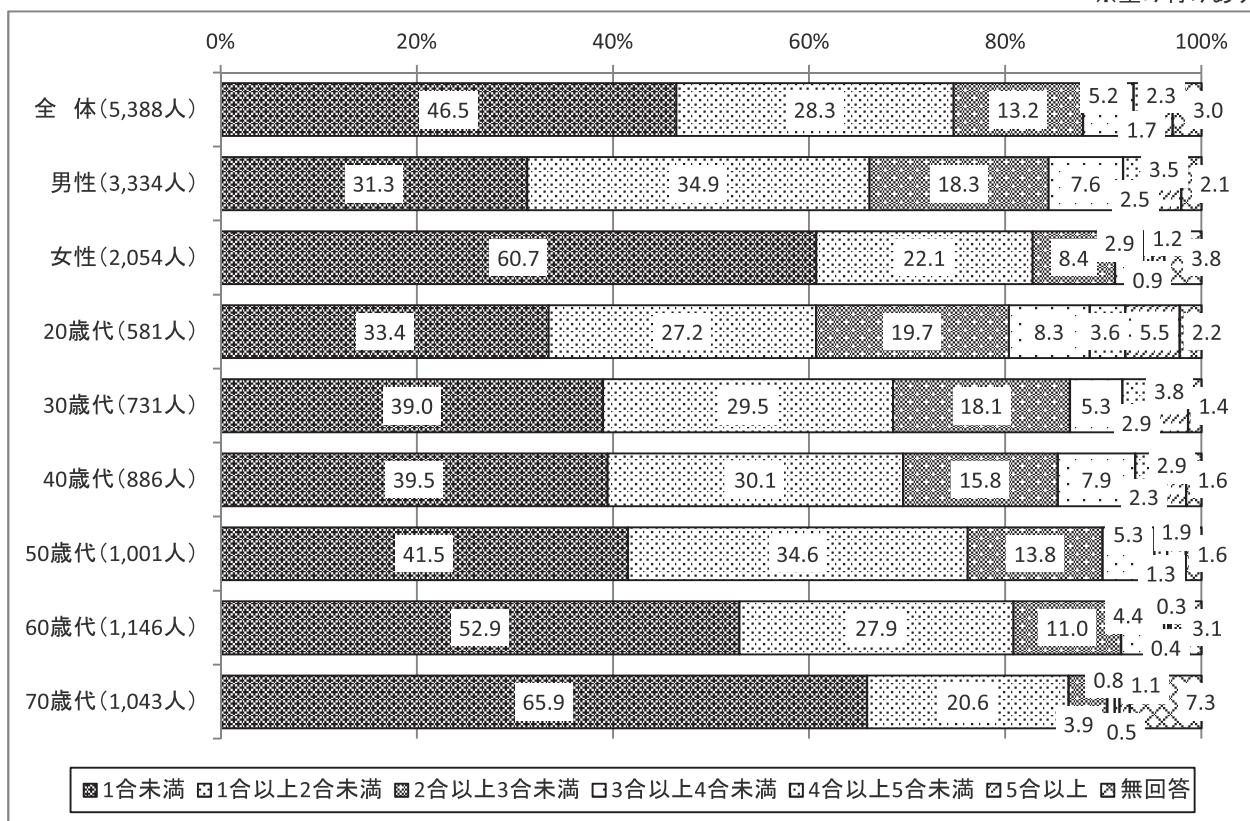
※重み付けあり



問20-1 お酒を飲む日は、1日あたりどのくらいの量を飲みますか。(○は1つ)

※問20でやめた、ほとんど飲まないと答えた人以外回答

※重み付けあり



飲酒日の酒量が「3合以上」と回答した割合は、全体の9.2%であった。

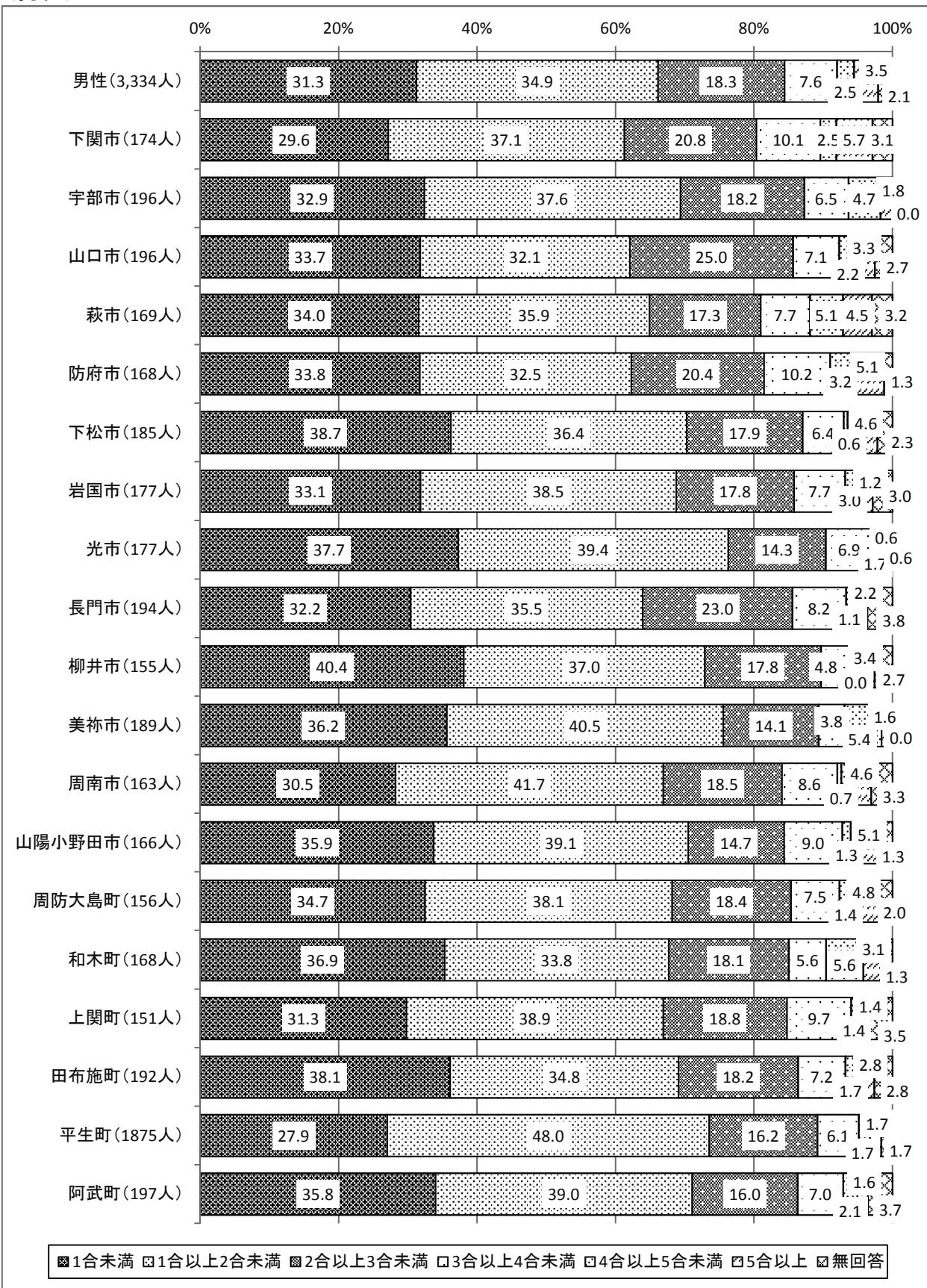
性別の集計では、男性で13.6%、女性で5.0%が「3合以上」と回答し、男性に過量な飲酒者が多い傾向があった。

年代別の集計では、年を重ねるにつれて、「1合未満」と回答する割合は増加しており、年齢とともに酒量に気をつけている傾向があった。

参考値 平成25年山口県健康づくりに関する意識調査 「3合以上」 10.2%

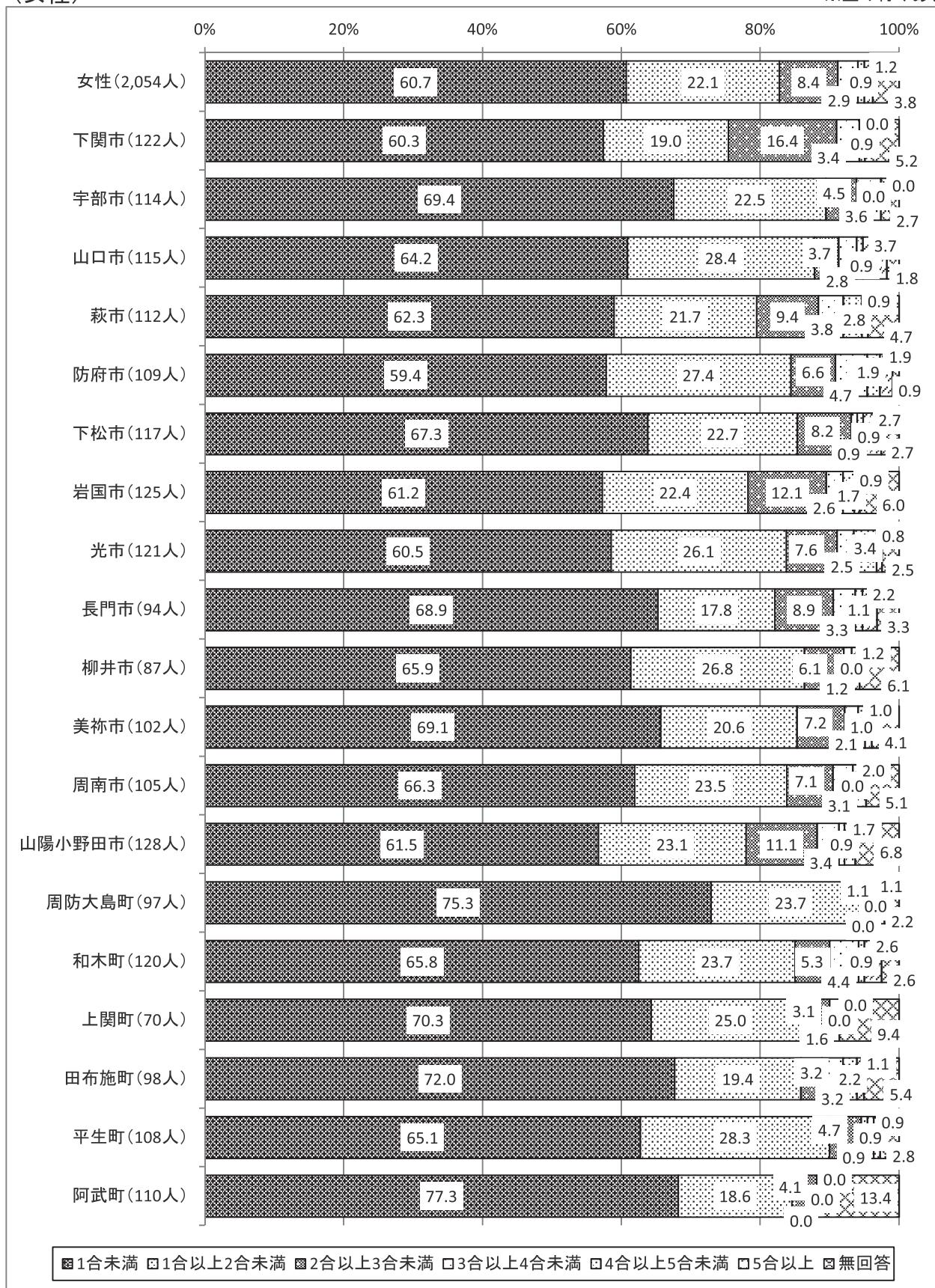
(男性)

※重み付けあり



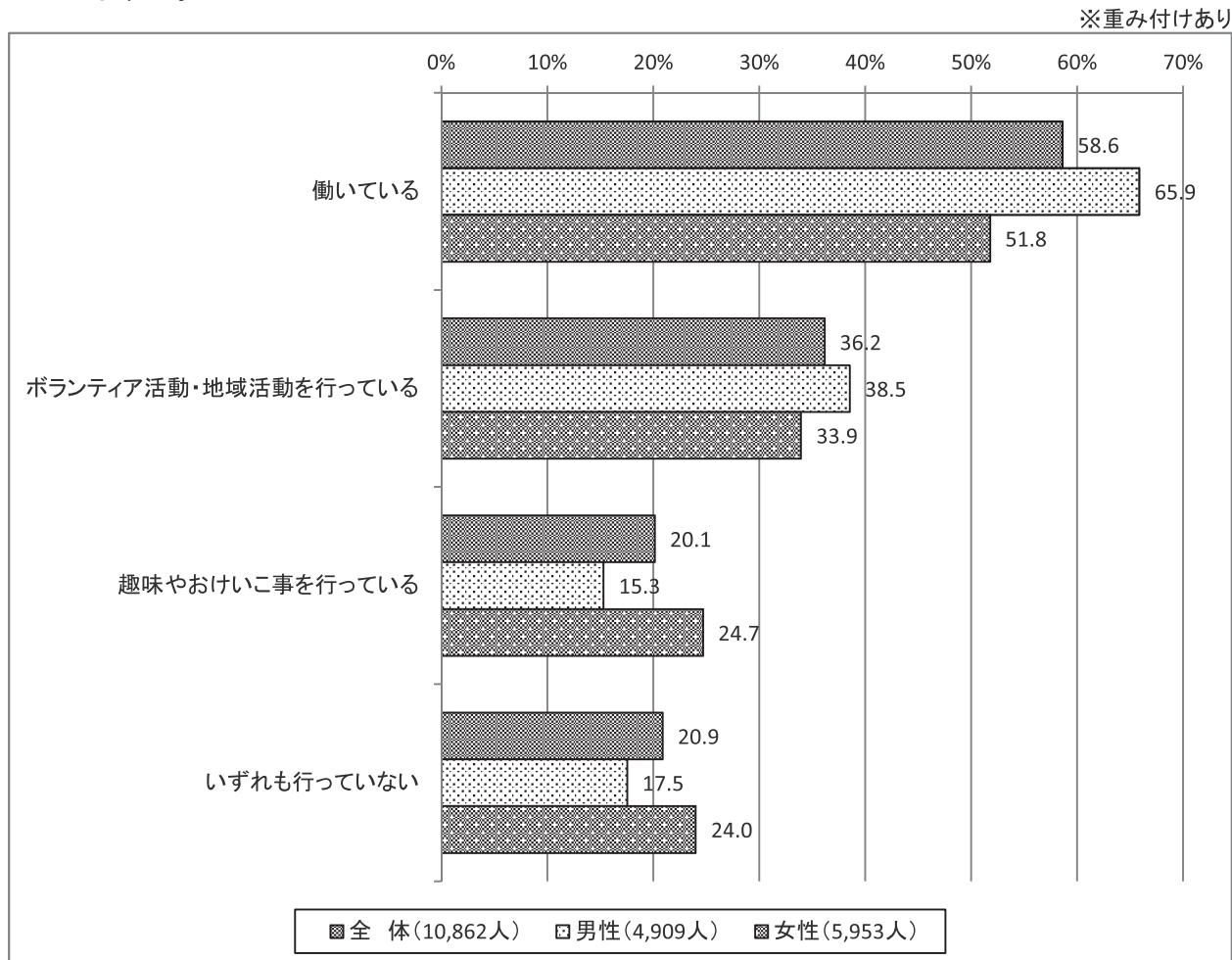
(女性)

※重み付けあり



健康を支え、守るための社会環境の整備について

問21 あなたは、現在働いていますか。または、ボランティア活動、地域活動、趣味やおけいこ事を行っていますか。



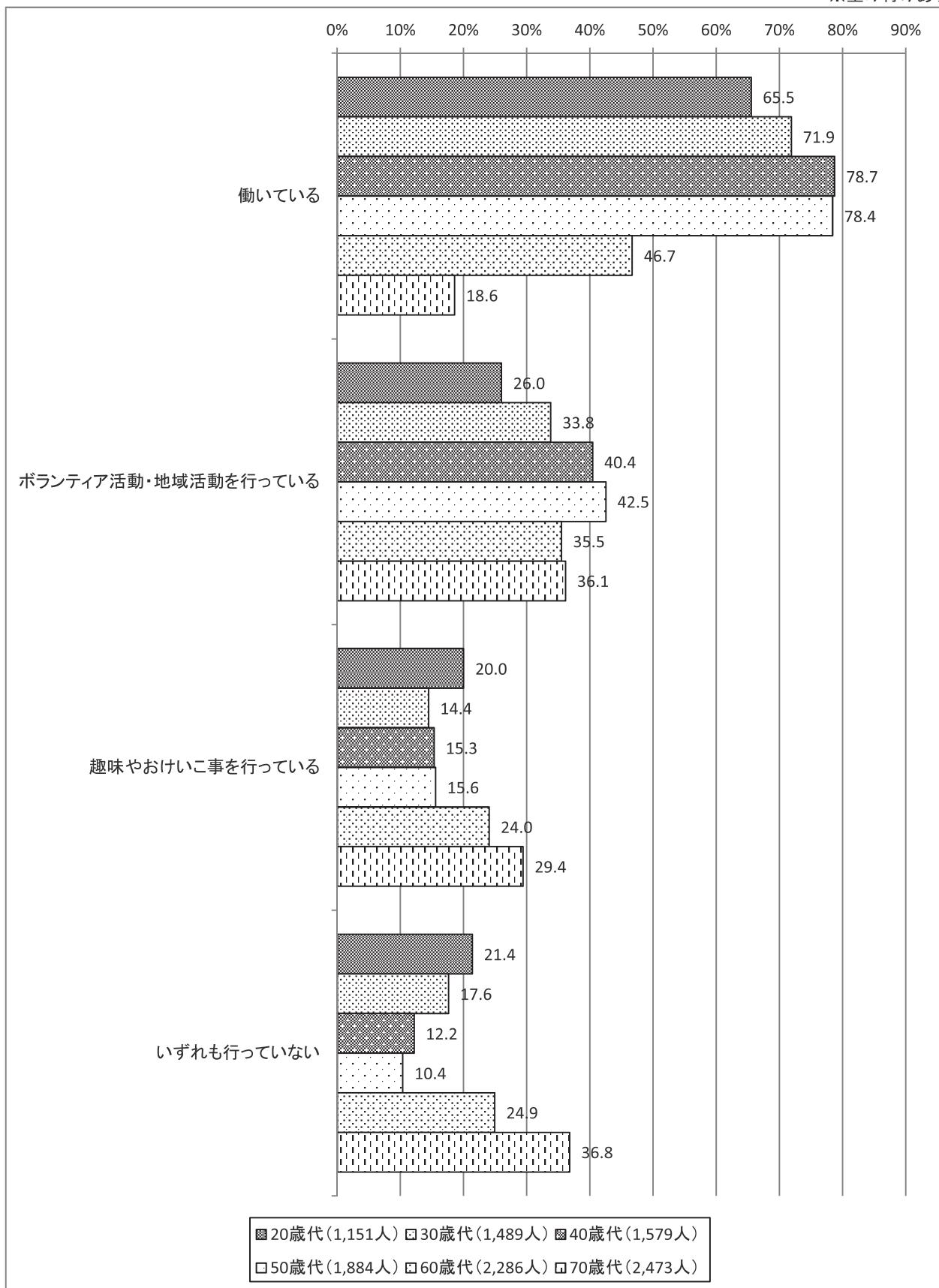
「働いている」割合は、全体の58.6%、性別の集計では、男性で65.9%、女性で51.8%であった。

「ボランティア活動・地域活動を行っている」割合は、全体の36.2%、性別の集計では、男性で38.5%、女性で33.9%となった。

年代別の集計において、40歳代および50歳代で「働いている」または「ボランティア活動・地域活動を行っている」割合が高かった。一方で、これらの年代では、「趣味やおけいこ事を行っている」または「いずれも行っていない」割合は低くなっていた。

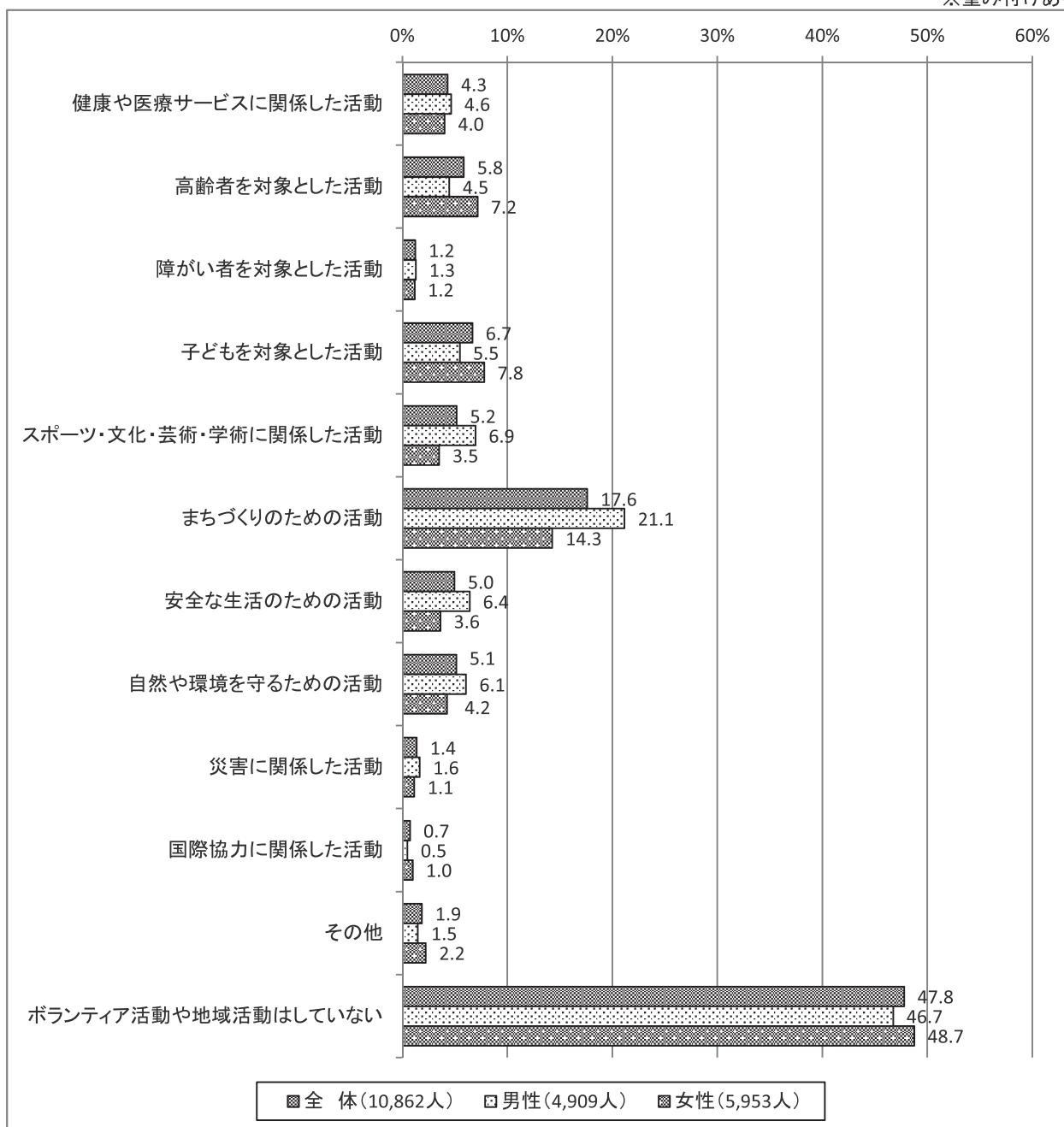
参考値 平成25年山口県健康づくりに関する意識調査 「いずれも行っていない」 34.1%

※重み付けあり



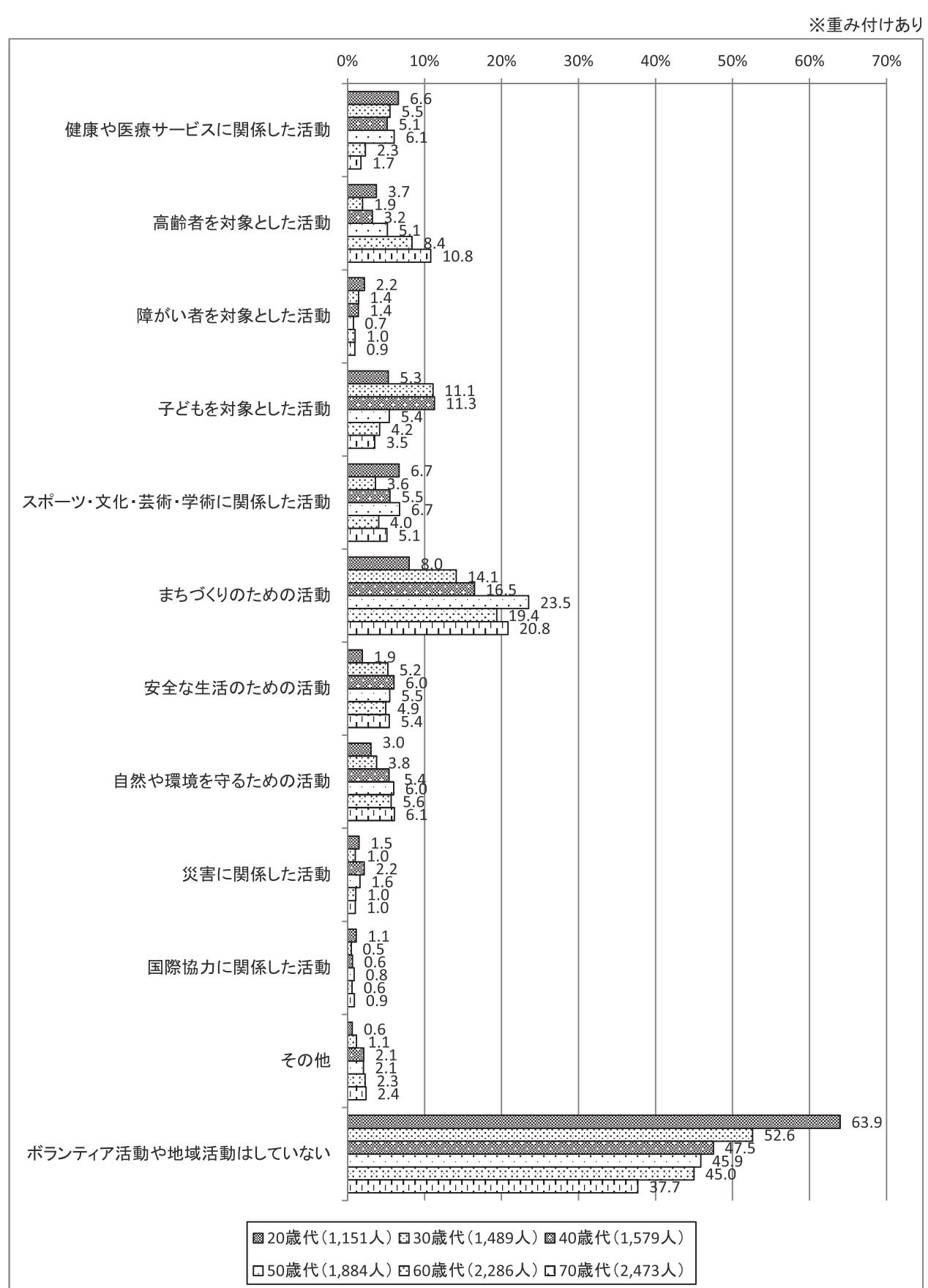
問22 あなたがこの1年間に行ったボランティア活動や地域活動には、どのような活動がありますか。(あてはまるものすべてに○)

※重み付けあり



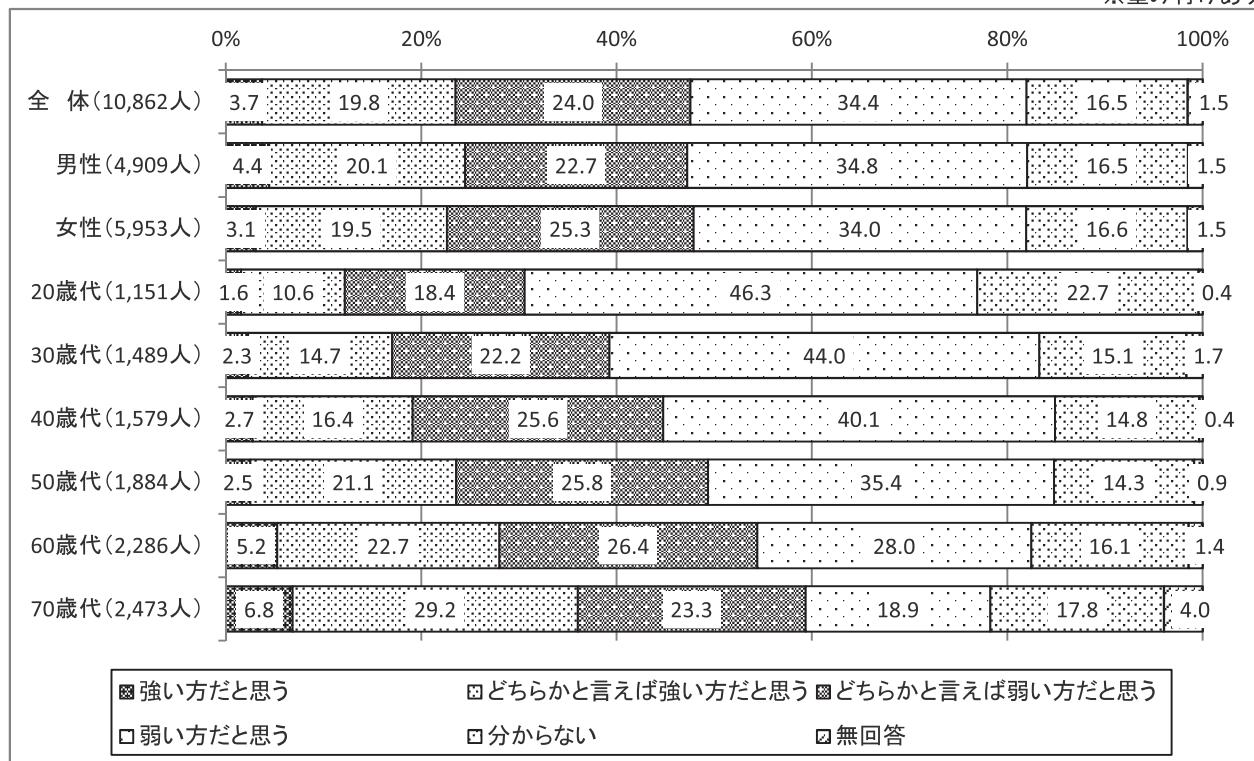
「ボランティア活動や地域活動はしていない」と回答した割合は、全体の47.8%であった。性別の集計においても同様の結果が得られ、男女間による大きな差はなかった。

年代別の集計においては、「ボランティア活動や地域活動はしていない」と回答した割合は、20歳代で最も高く63.9%となり、それ以降の年代では、年を重ねるにつれて減少しており、高い年代ほどボランティア活動や地域活動への参加意欲は高いようであった。内容は、「まちづくりのための活動」が最も多かった。



問23 あなたは、自分と地域の人たちのつながりについてどう思いますか。(○は1つ)

※重み付けあり



自分と地域の人たちのつながりが「強い方だと思う」または「どちらかと言えば強い方だと思う」と回答した割合は、23.5%であった。一方で、自分と地域の人たちのつながりが「弱い方だと思う」または「どちらかと言えば弱い方だと思う」と回答した割合は58.4%となった。

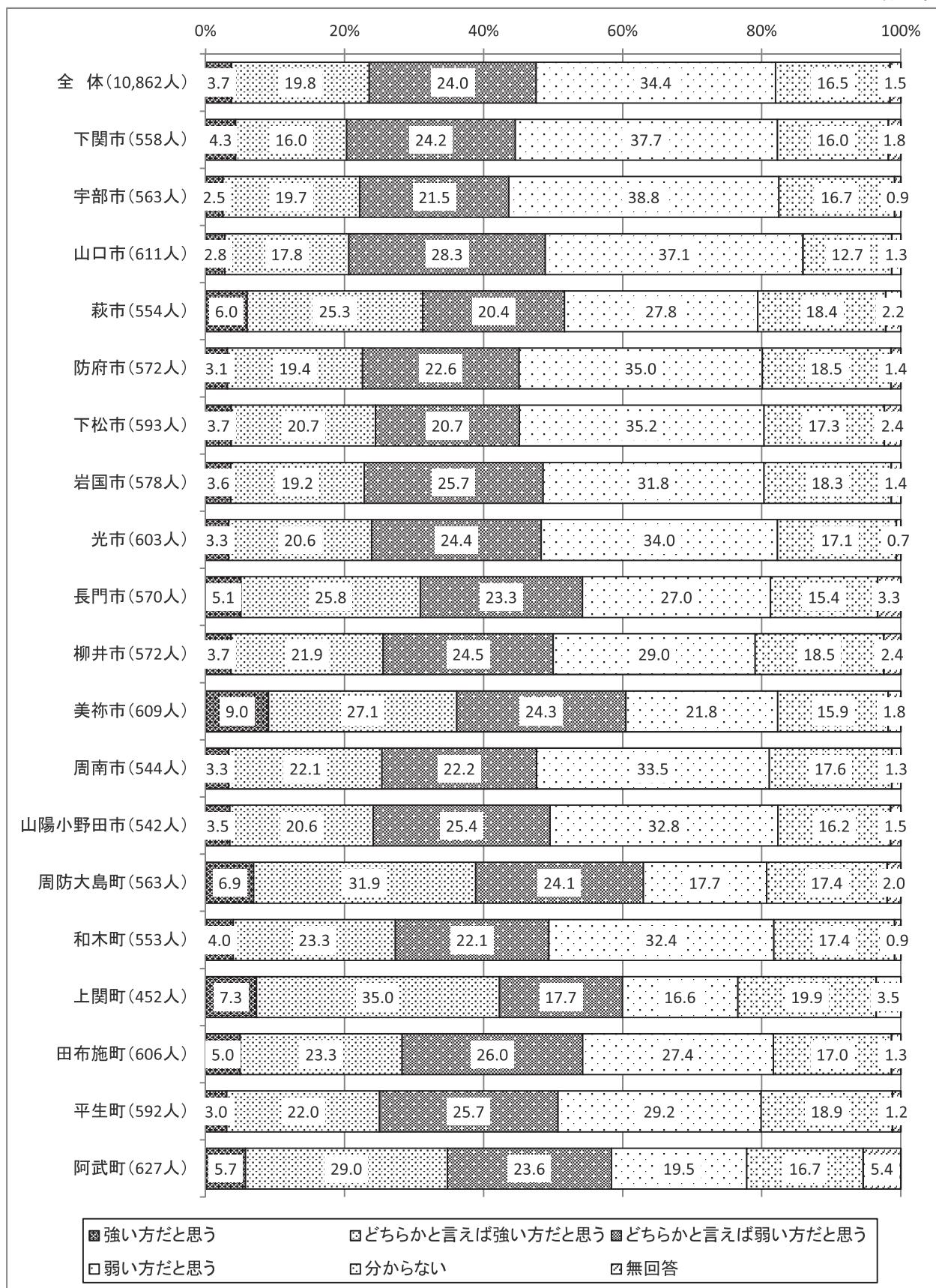
性別の集計でも同様の結果が得られ、男女間の回答に大きな差はなかった。

年代別の集計では、自分と地域の人たちのつながりが「強い方だと思う」または「どちらかと言えば強い方だと思う」と回答した割合は、20歳代で12.2%と最も低く、それ以降の年代では年を重ねるにつれて増加し、70歳代で最も高く36.0%となった。

市町別の集計においては、自分と地域の人たちのつながりが「強い方だと思う」または「どちらかと言えば強い方だと思う」と回答した割合は、萩市、長門市、美祢市、周防大島町、上関町、阿武町で高い値となった。

参考値 平成25年山口県健康づくりに関する意識調査 「強い方だと思う」または「どちらかと言えば強い方だと思う」 46.2%

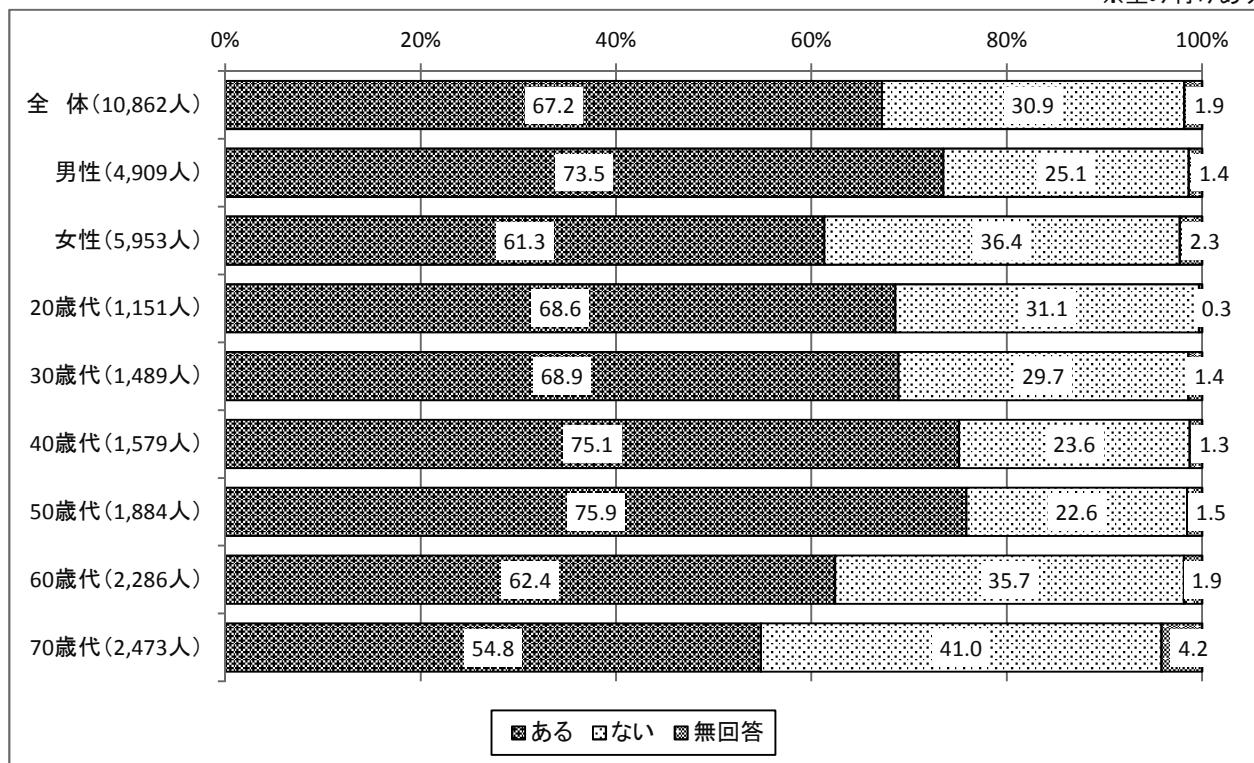
※重み付けあり



健診(検診)の受診について

問24 あなたは、この1年間に、健診等を受けたことがありますか。(○は1つ)

※重み付けあり



この一年間に健診等を受けたことが「ある」と回答した割合は、全体の67.2%であった。

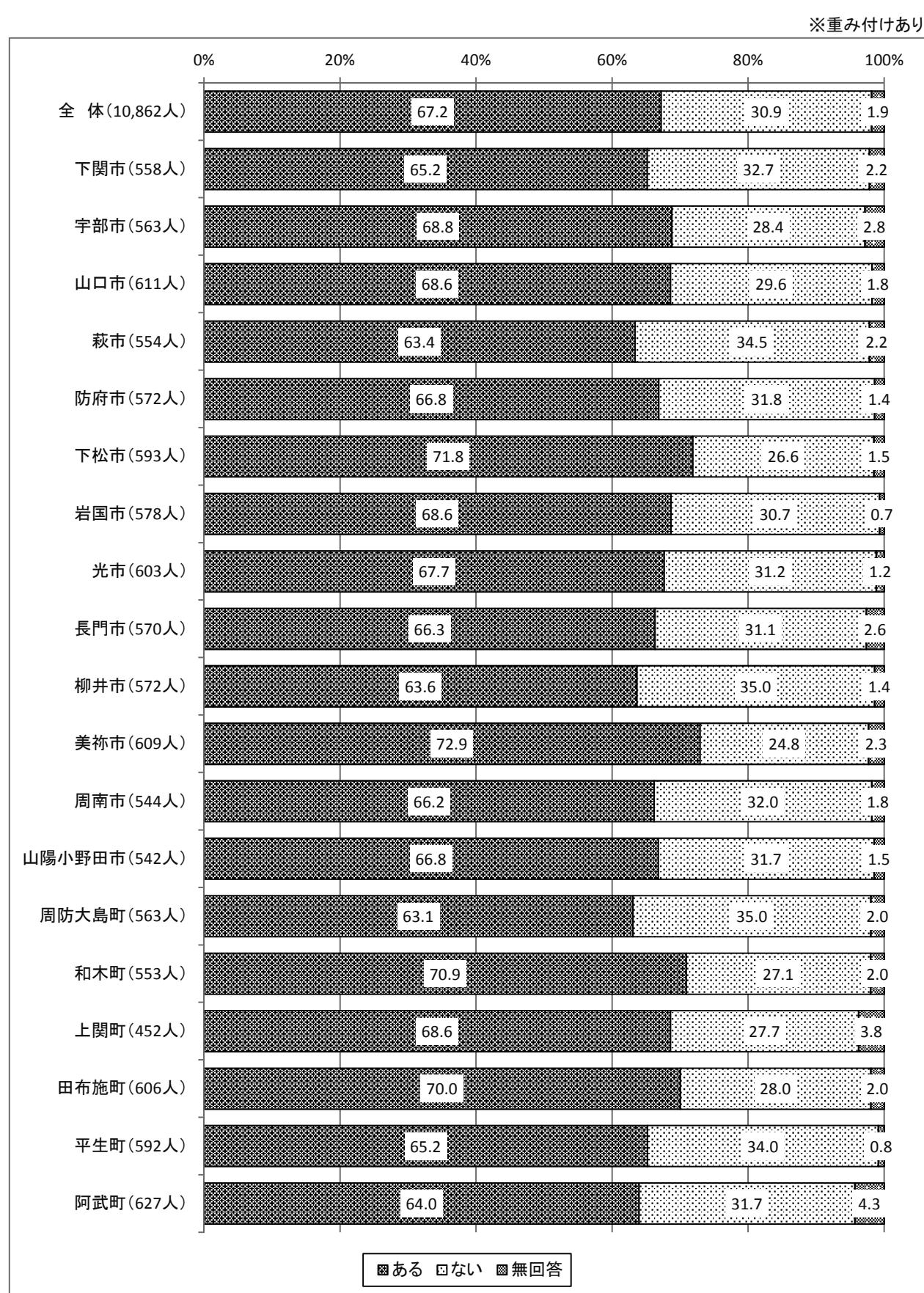
性別の集計では、男性で73.5%、女性で61.3%が「ある」と回答し、男性のほうが健診等を受けた割合が高かった。

年齢別の集計では、この一年間に健診等を受けたことが「ある」と回答した割合は、40歳代、50歳代で最も高く75%程度となるが、60歳代以降に大きく減少していた。

この健診に関するグラフは、問21の「働いている」ことに関するグラフに類似しており、職場の健康診断受診を反映した可能性がある。

市町別の集計においては、この一年間に健診等を受けたことが「ある」と回答した割合は、下松市、美祢市、和木町、田布施町で高く70%を超え、萩市、柳井市、周防大島町で低く63%台となつた。

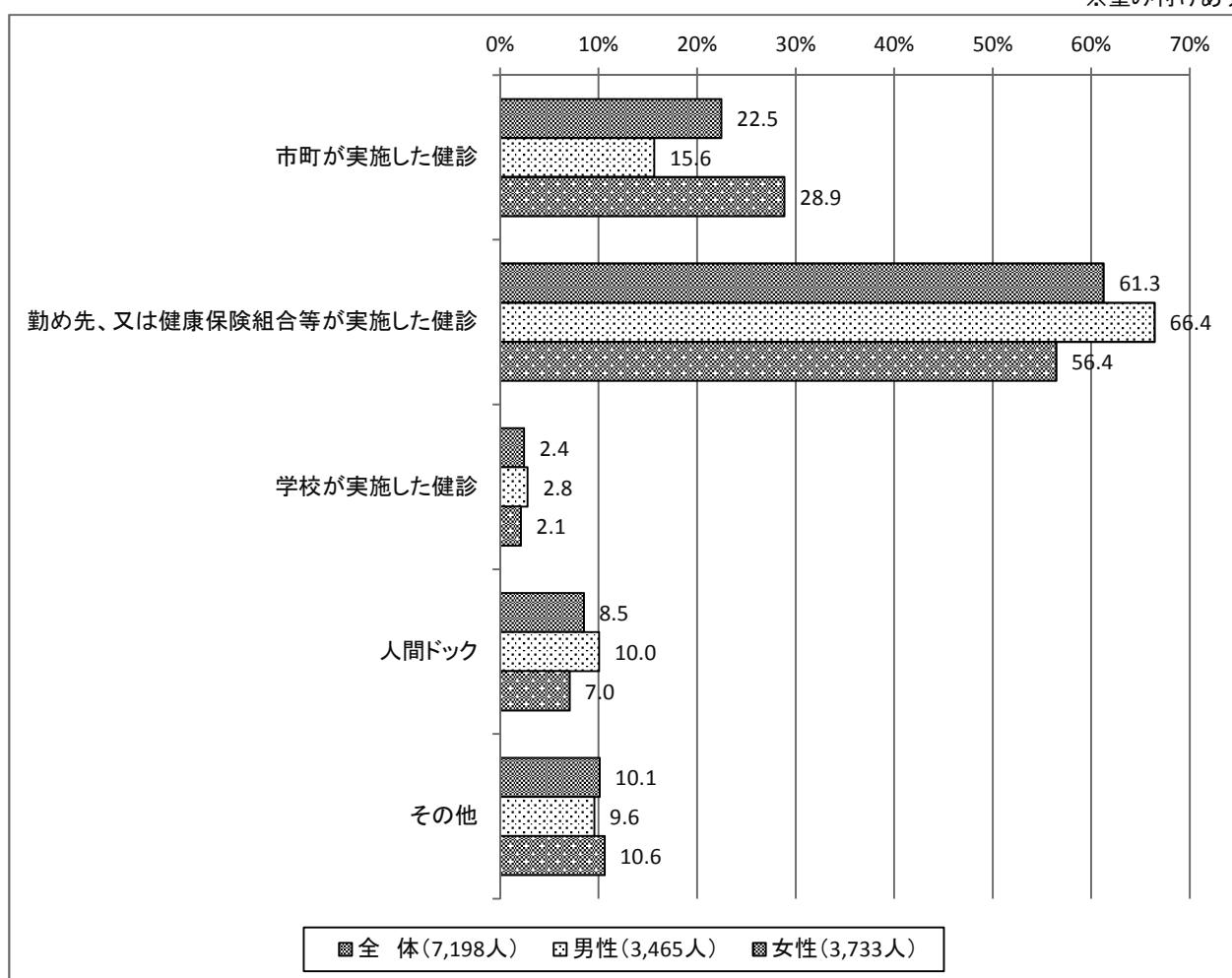
参考値 平成25年国民生活基礎調査 健診や人間ドックの受診状況 男：67.2% 女：57.9%



問24-1 どのような機会に健診等を受けましたか。(あてはまるものすべてに○)

※問24で健診を受けたことがあると回答した人のみ

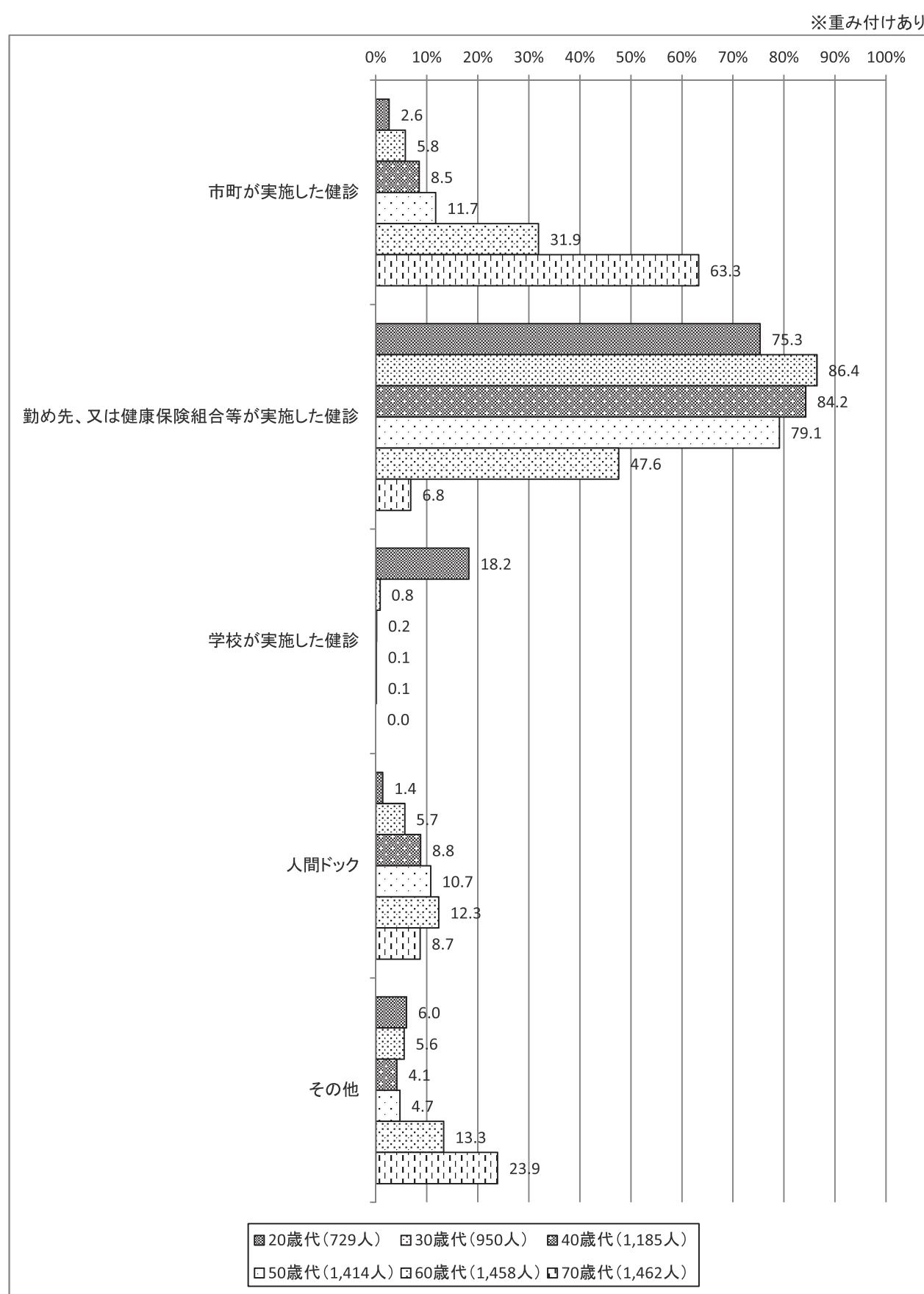
※重み付けあり



全体の集計において、「勤め先、又は健康保険組合等が実施した健診」を受けた割合が最も高く61.3%、次いで「市町が実施した健診」を受けた割合が22.5%であった。

性別の集計においても同様の傾向があったが、男性は「勤め先、又は健康保険組合等が実施した健診」を受けた割合がやや高く、女性は「市町が実施した健診」を受けた割合がやや高かった。

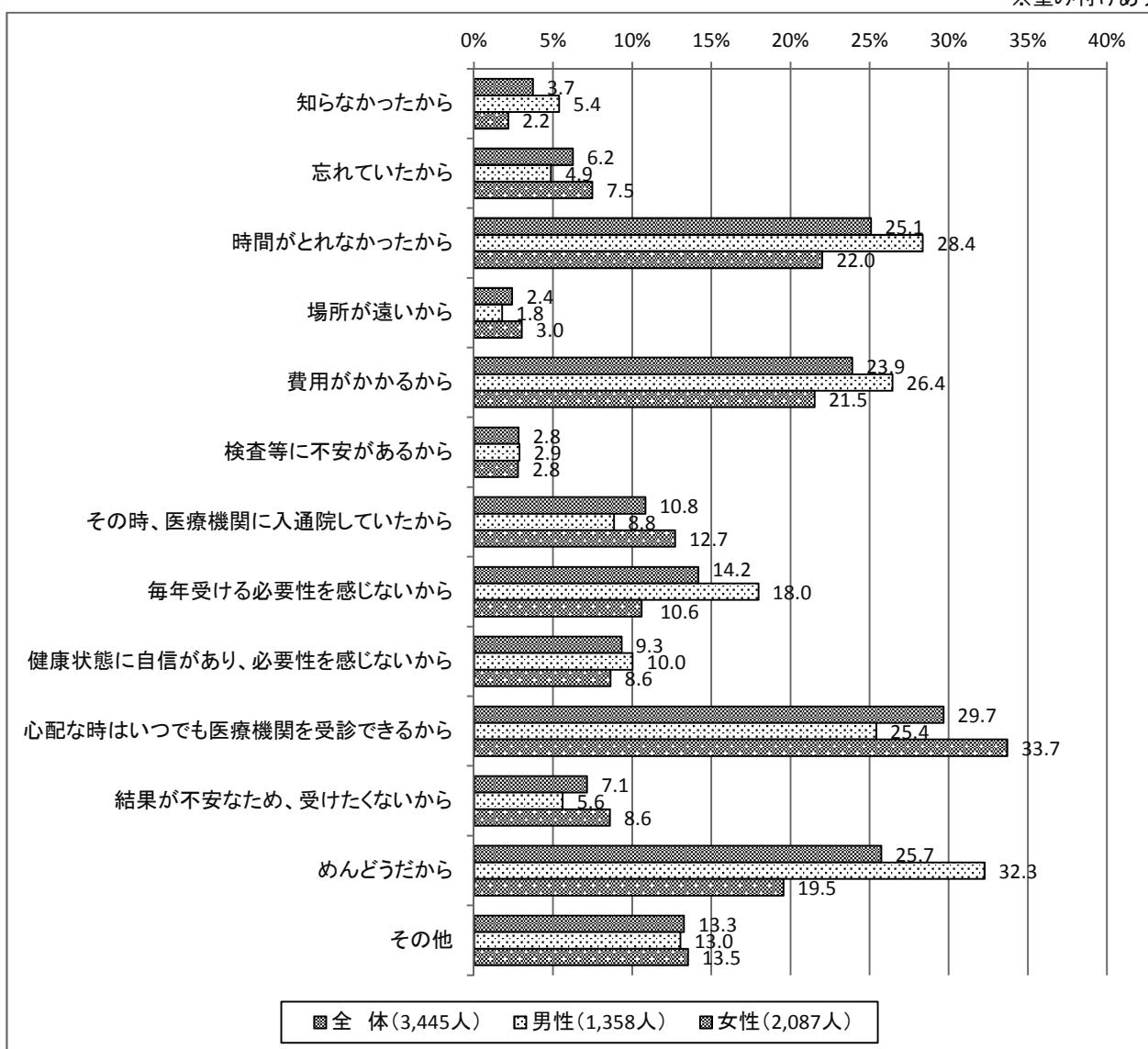
年代別の集計では、20歳代から50歳代にかけては「勤め先、又は健康保険組合等が実施した健診」を受けた割合が高く、60歳代から70歳代にかけては「市町が実施した健診」を受けた割合が高かった。20歳代においては、「学校が実施した健診」を受けた割合も高かった。それぞれの年代の社会的な活動状況(学校や会社等)を反映した結果と考えられる。



問24-2 それは、どのような理由で受けなかったのですか。(あてはまるものすべてに○)

※問24で健診を受けたことがないと回答した人のみ

※重み付けあり

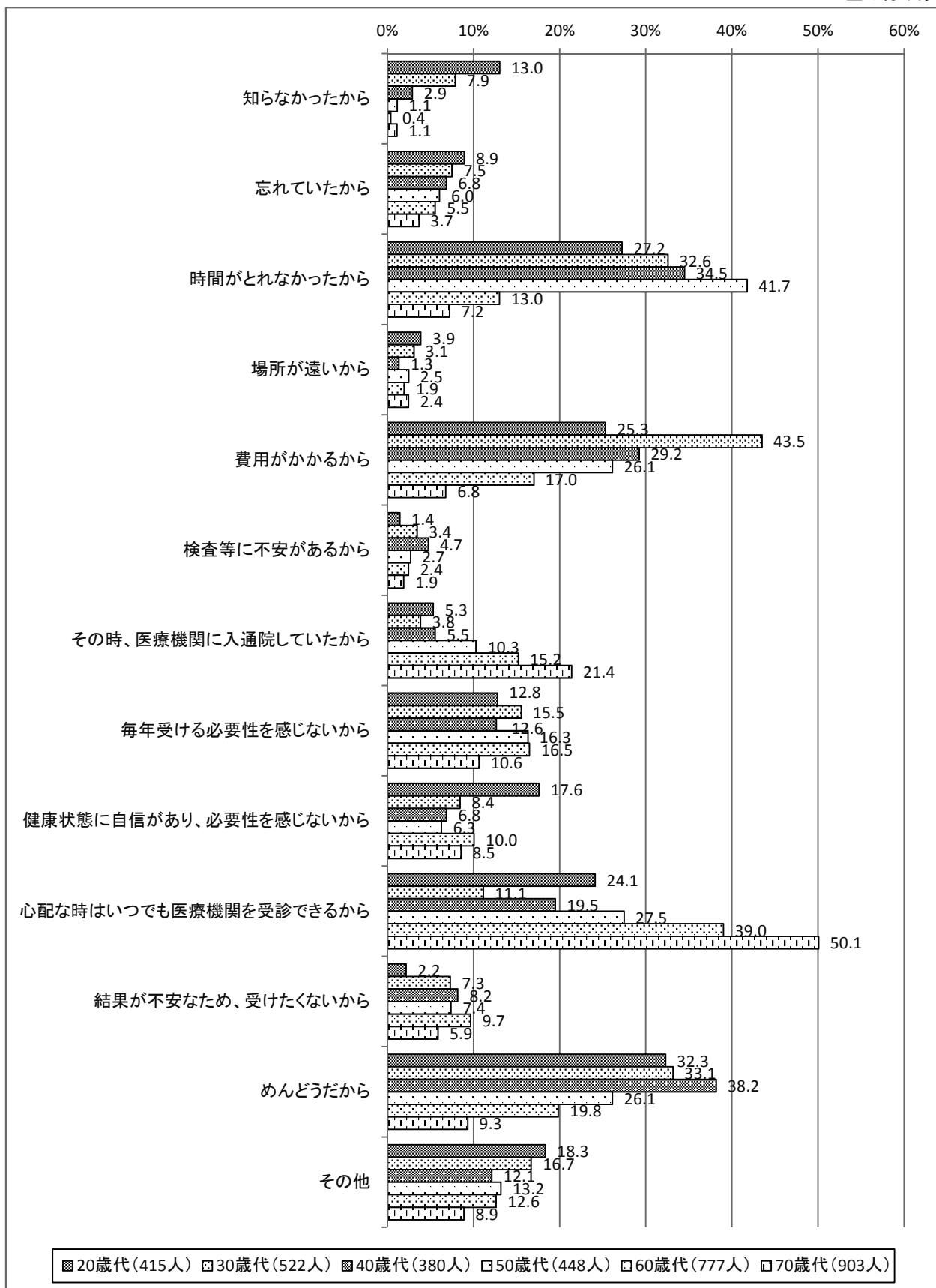


健診を受けなかつた理由としては、「時間がとれなかつたから」、「費用がかかるから」、「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」、「めんどうだから」という回答割合が高く、全体の集計では、それぞれ25%程度となつた。これらの項目は、性別別の集計においても回答割合が高くなつてゐた。

年代別の集計では、「時間がとれなかつたから」、「費用がかかるから」、「めんどうだから」と回答した割合は、20歳代から50歳代で高く、「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」と回答した割合は、60歳代、70歳代で高い。これは、年代毎のライフスタイルの影響が一因として考えられる。

参考値 平成25年国民生活基礎調査 「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」32.5%、「時間がとれなかつたから」20.6%、「めんどうだから」18.5%、「費用がかかるから」15.4%

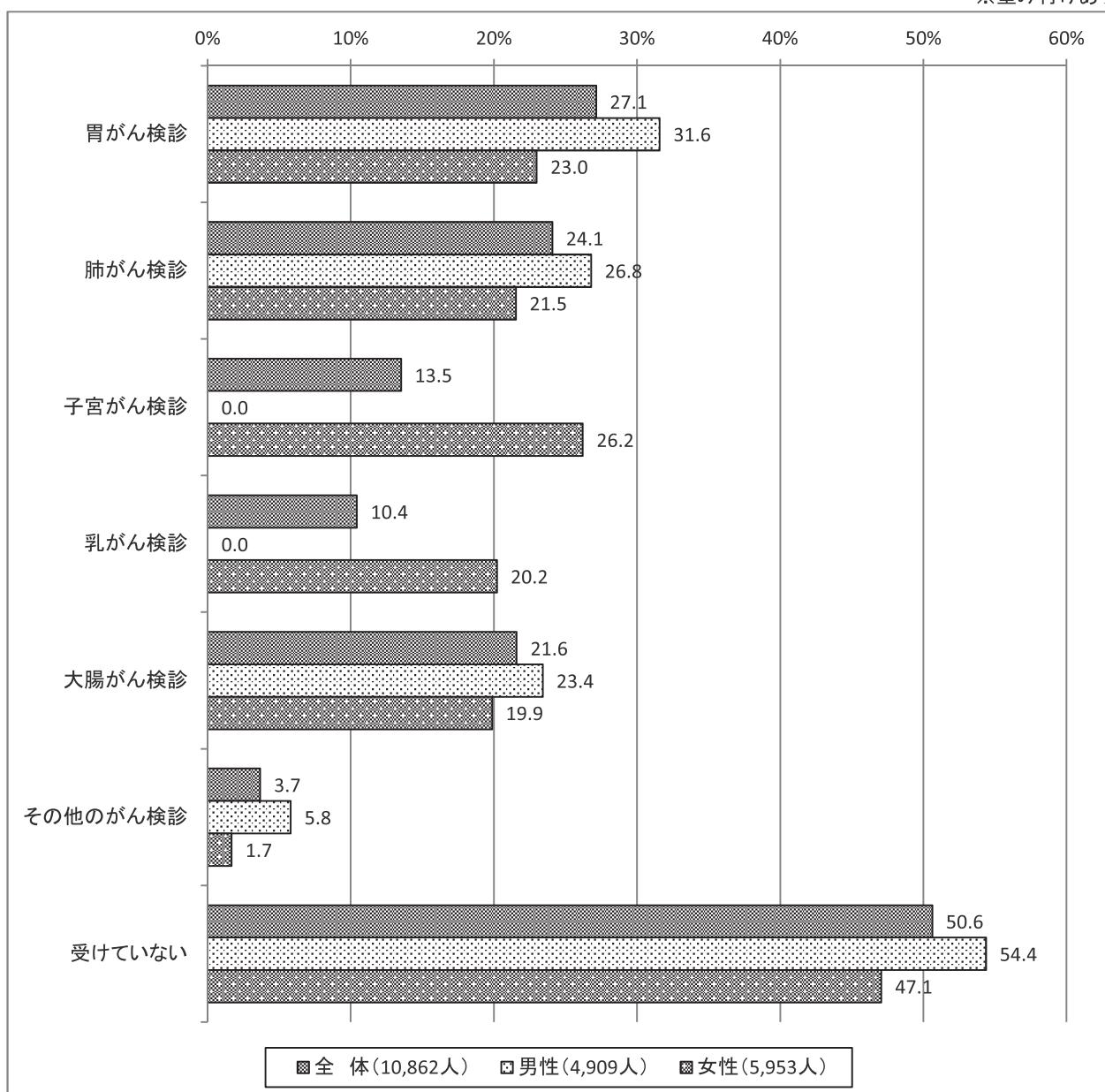
※重み付けあり



■20歳代(415人) □30歳代(522人) ■40歳代(380人) □50歳代(448人) □60歳代(777人) □70歳代(903人)

問25 あなたは、この1年間に、以下のがん検診を受けましたか。(あてはまるものすべてに○)

※重み付けあり



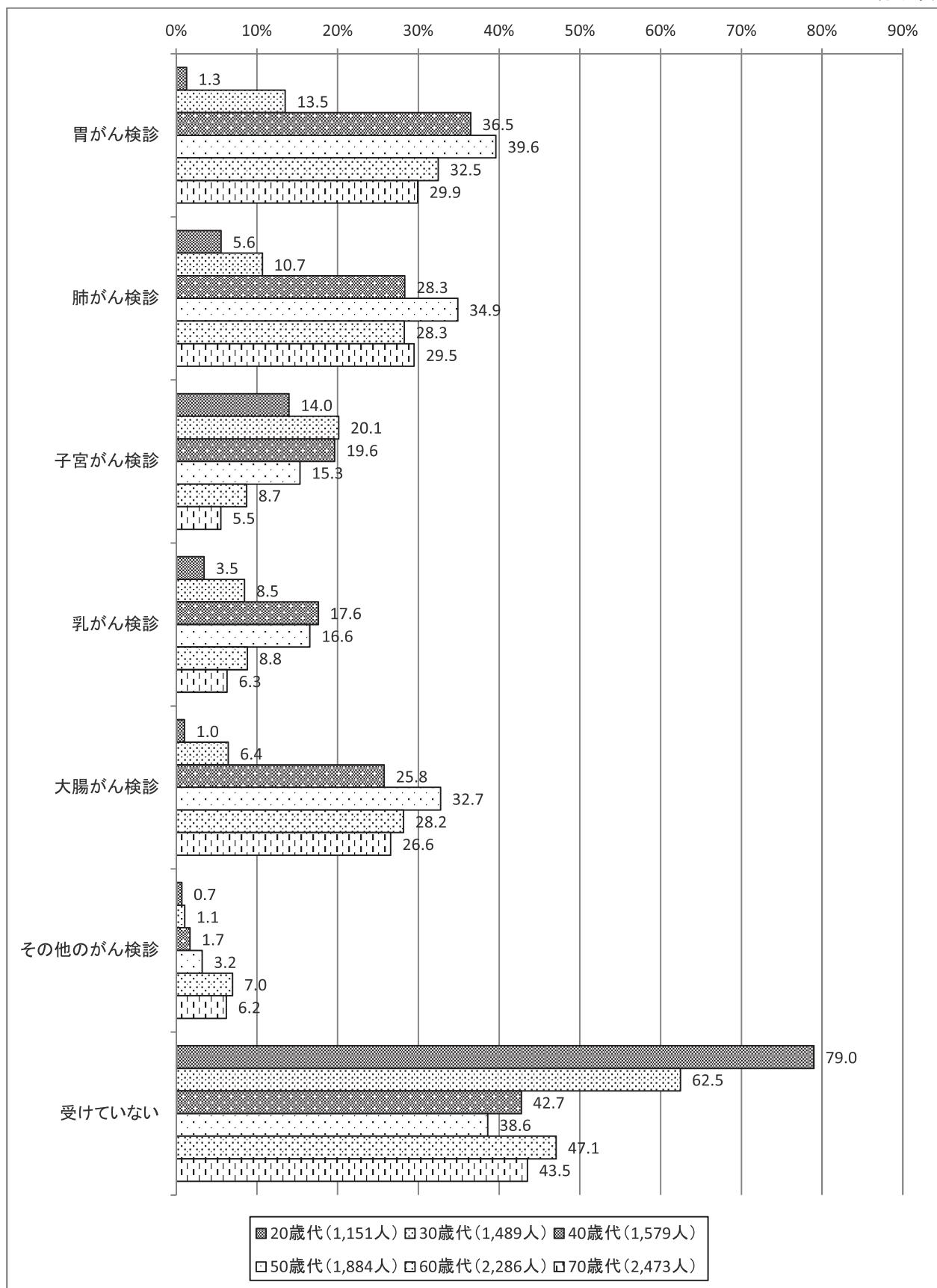
この1年間にがん検診を「受けていない」と回答した割合は、全体の50.6%であった。

性別別では、男性で54.4%、女性で47.1%が「受けていない」と回答し、女性の方がよりがん検診を受けている傾向があった。女性には「子宮がん検診」、「乳がん検診」を受けた人を含んでいる。

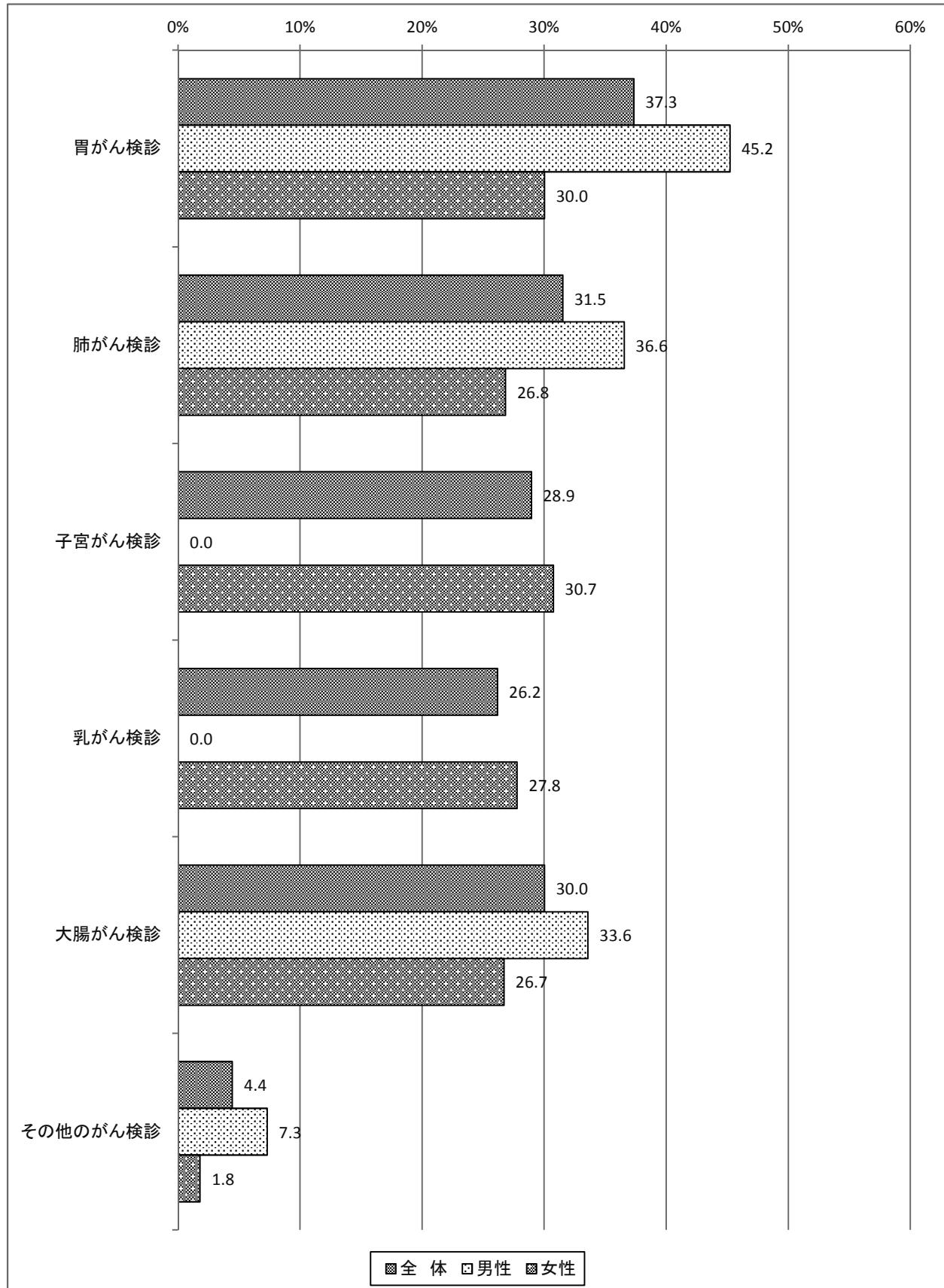
年代別の調査では、「受けていない」と回答した割合は、20歳代で79.0%、30歳代で62.5%、40歳代以降は横ばいで40%程度となっていた。

参考値 平成25年国民生活基礎調査 胃がん検診 男：45.8%、女：33.8%、肺がん検診 男：47.5%、女：37.4%、大腸がん検診 男：41.4%、女：34.5%、子宮がん検診 32.7%、乳がん検診 女：34.2%

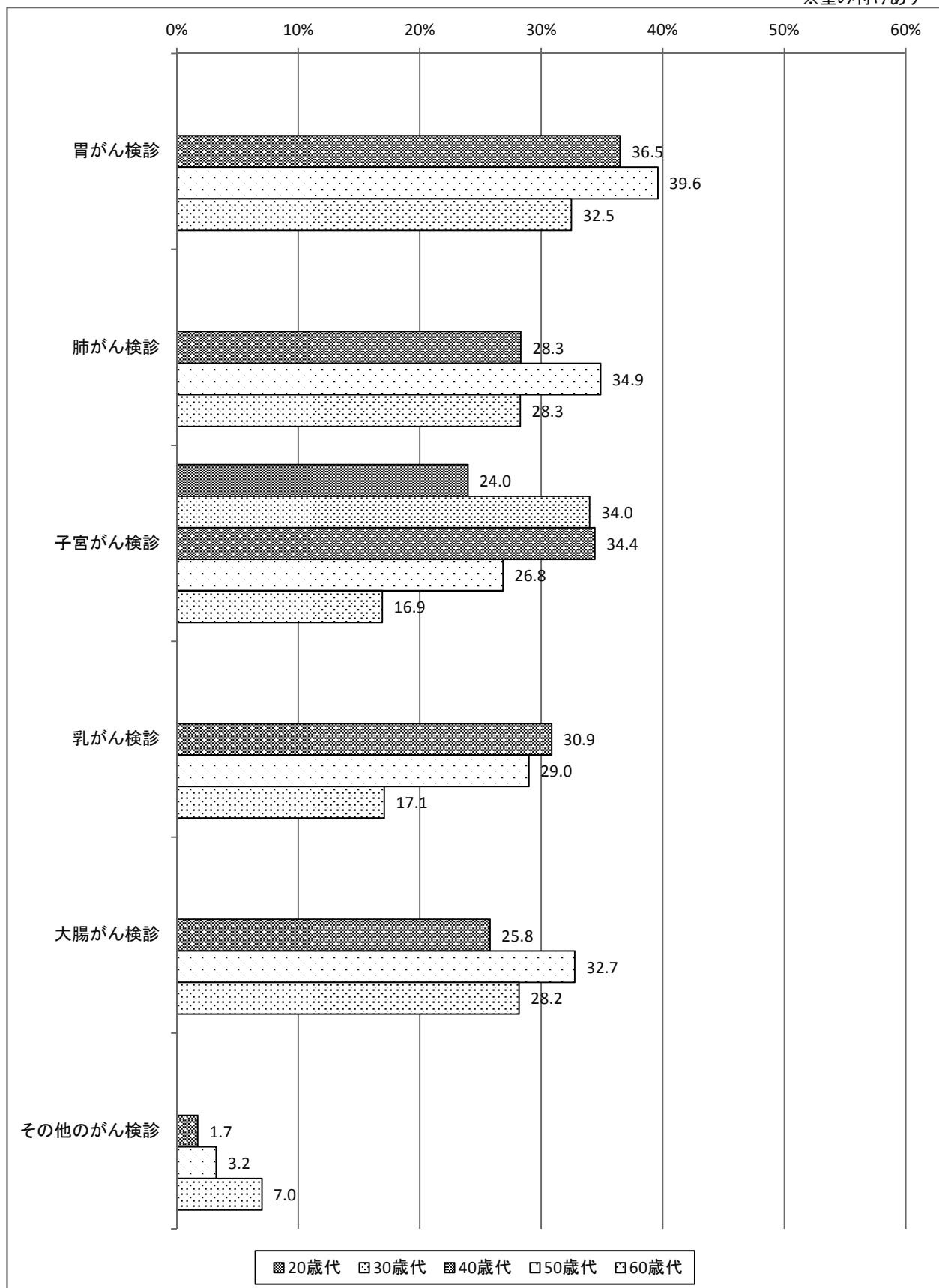
※重み付けあり



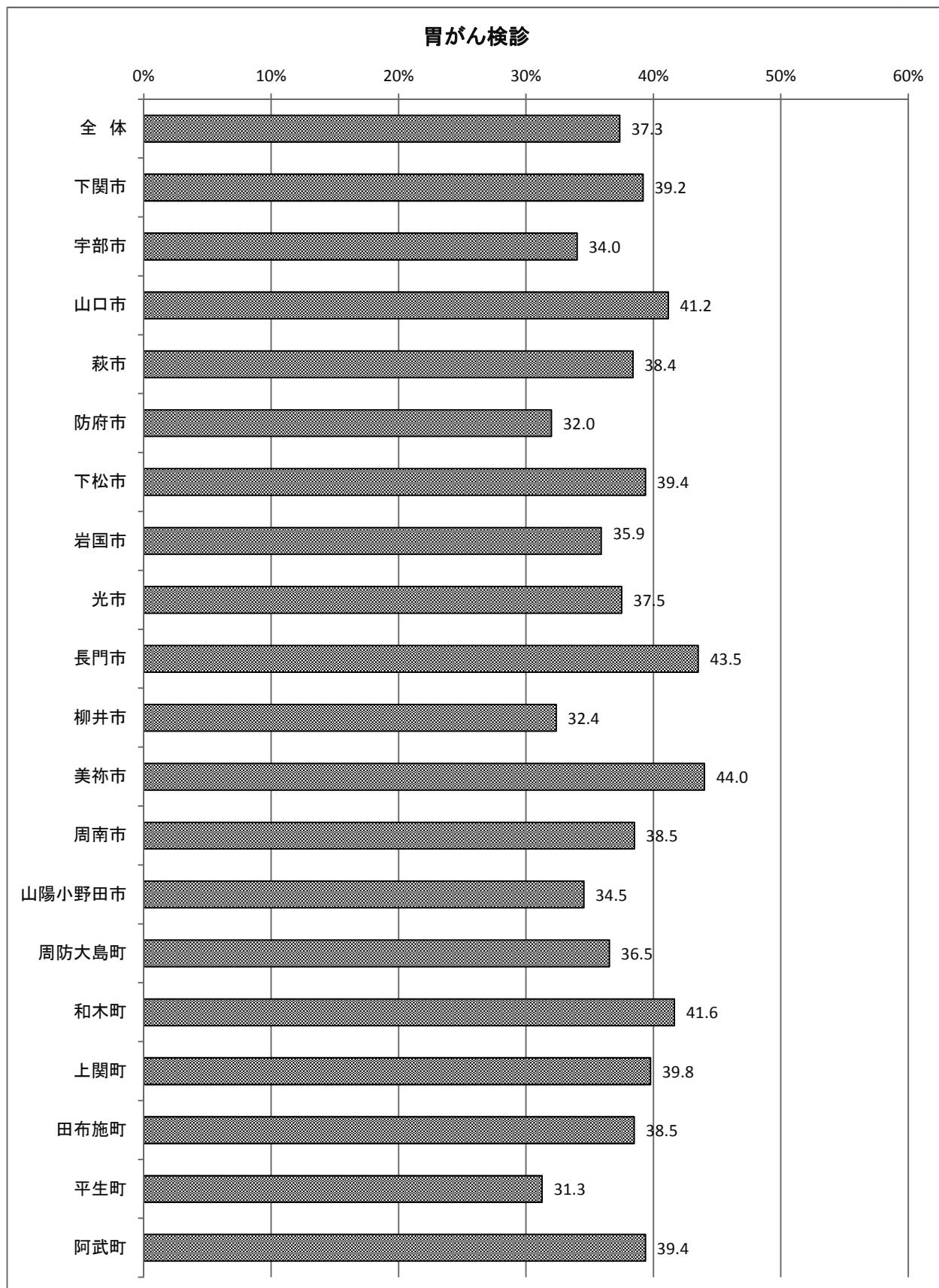
※40代～60代のみ(子宮がんは20代～60代)
※重み付けあり



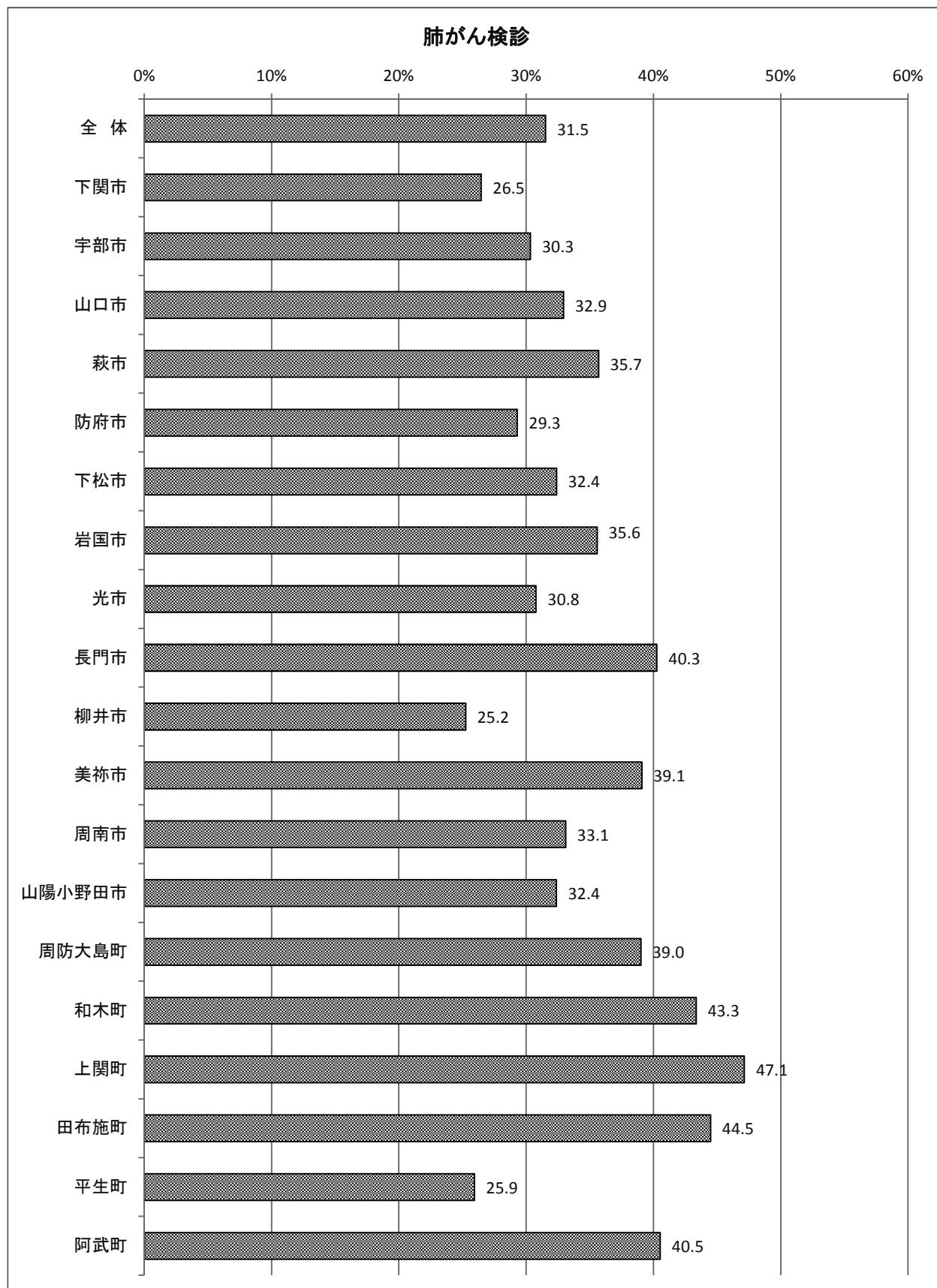
※40代～60代のみ(子宮がんは20代～60代)
※重み付けあり



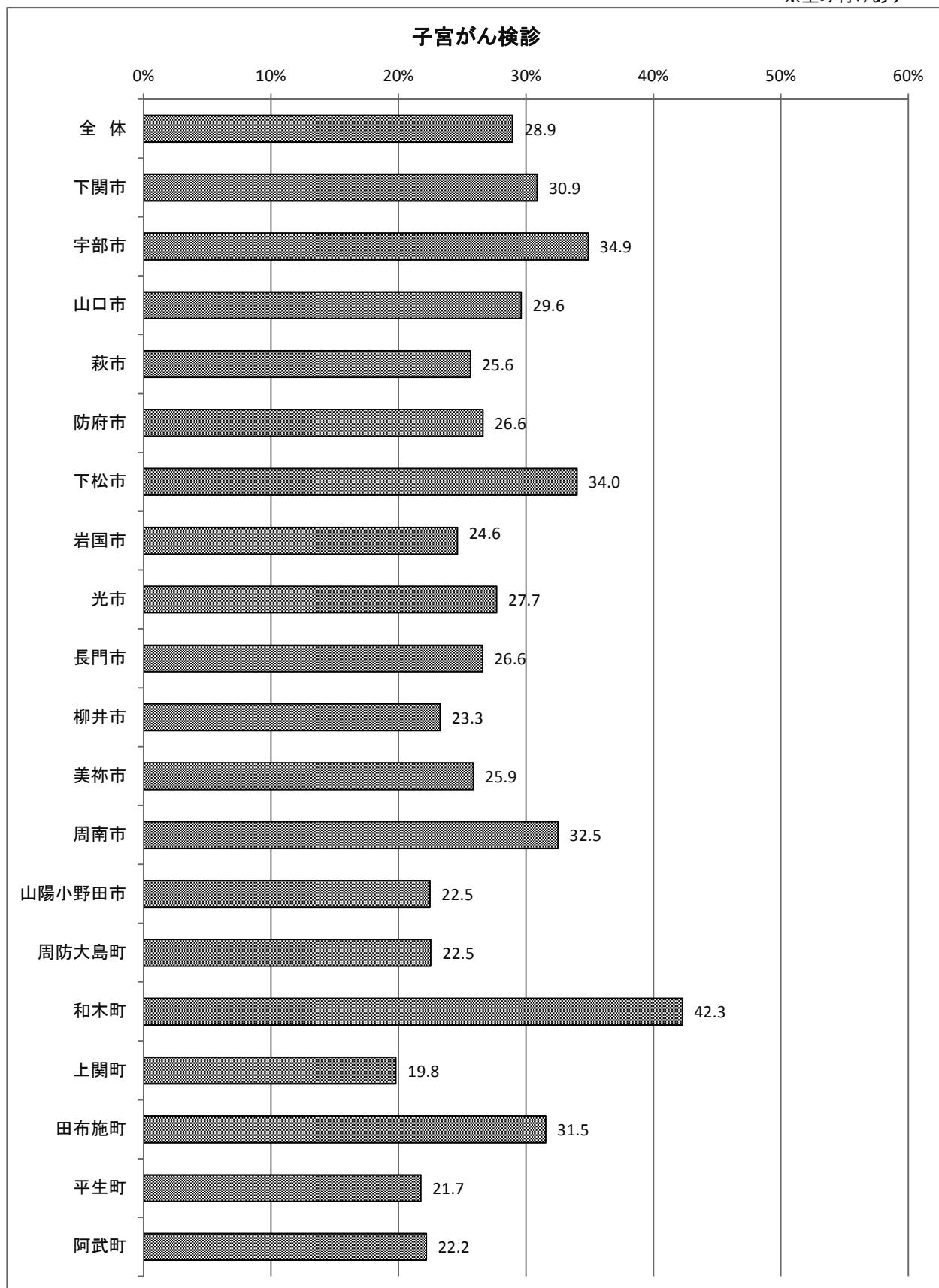
※40代～60代のみ
※重み付けあり



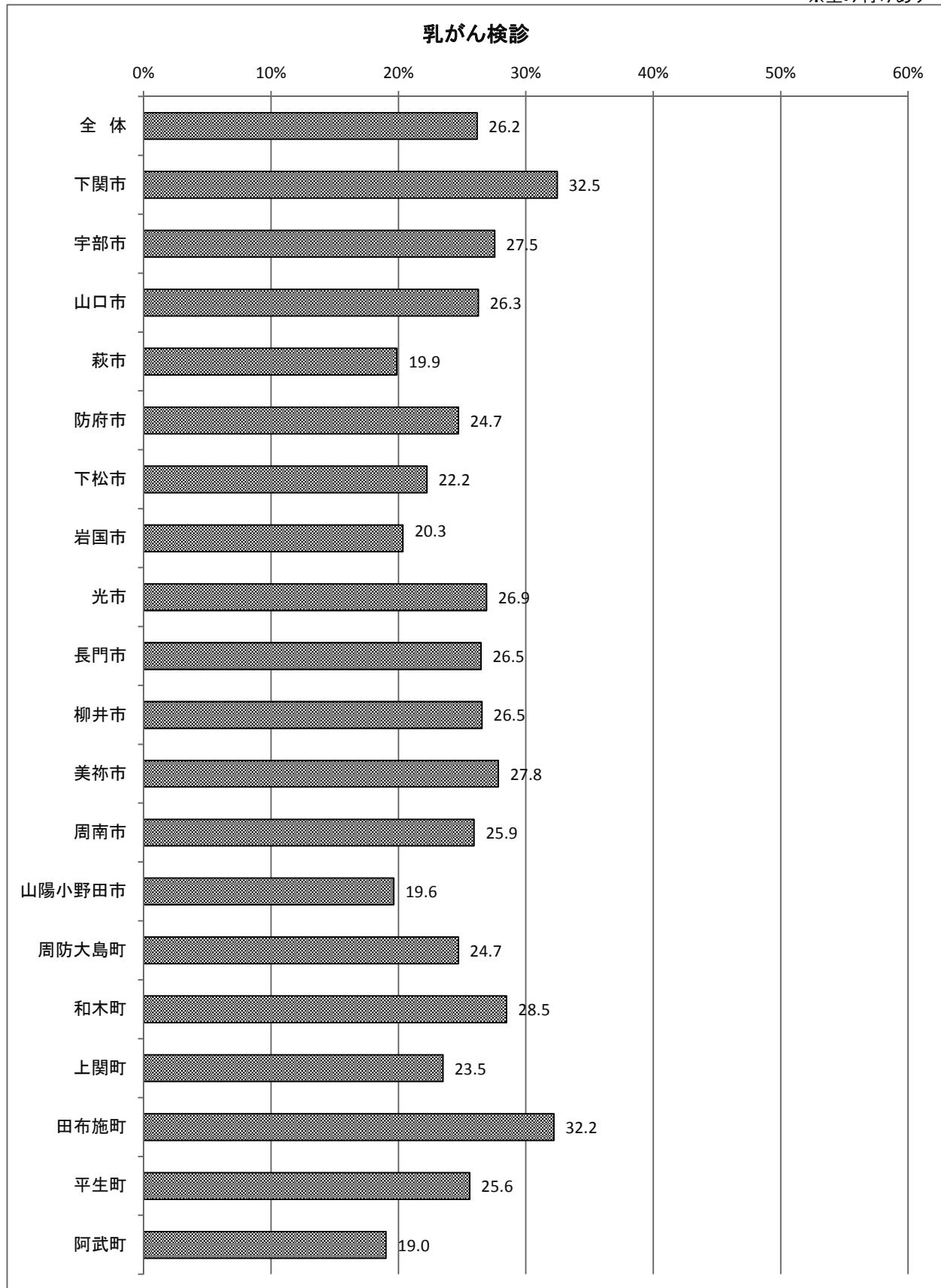
※40代～60代のみ
※重み付けあり



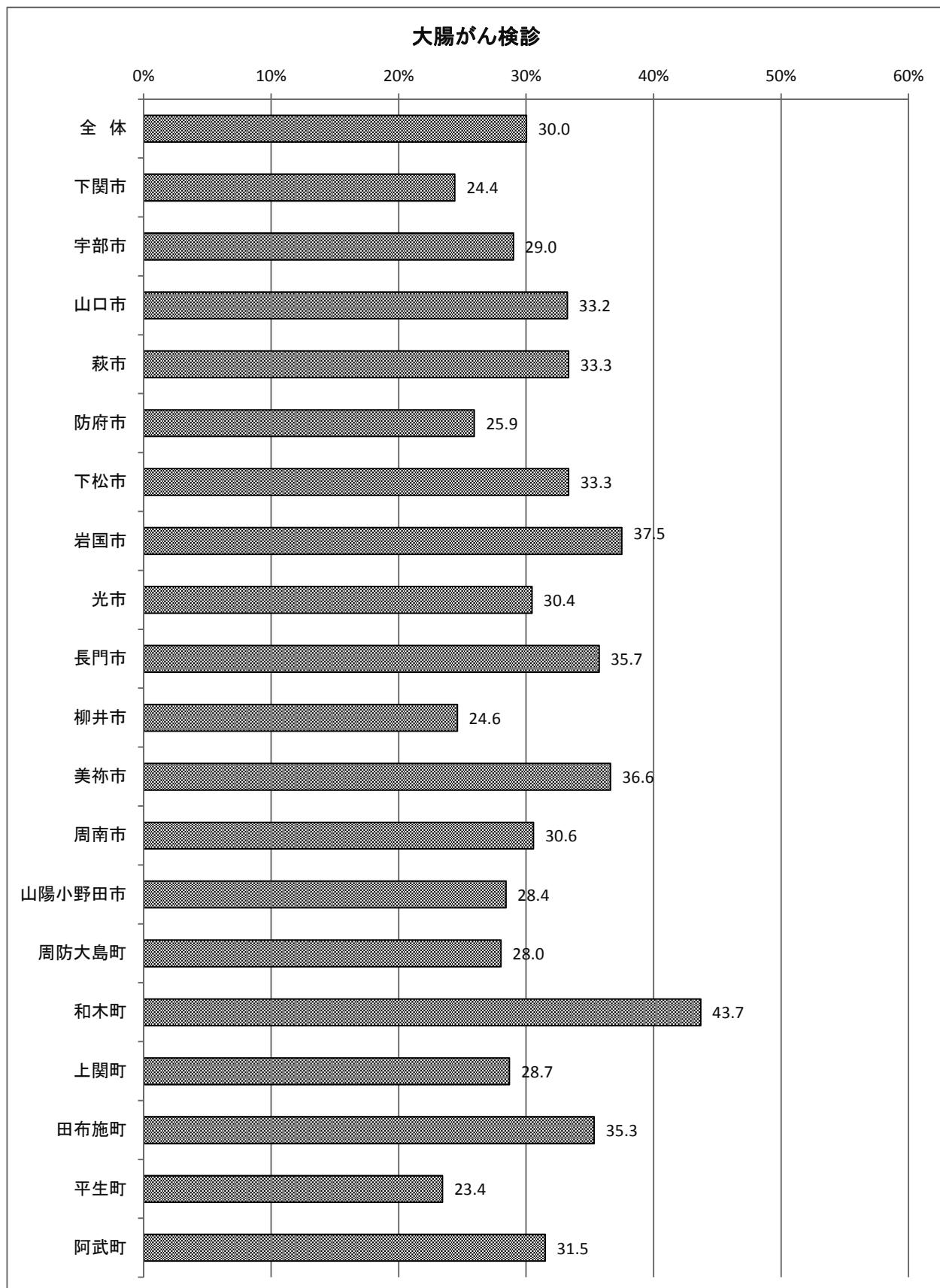
※20代～60代のみ
※重み付けあり



※40代～60代のみ
※重み付けあり

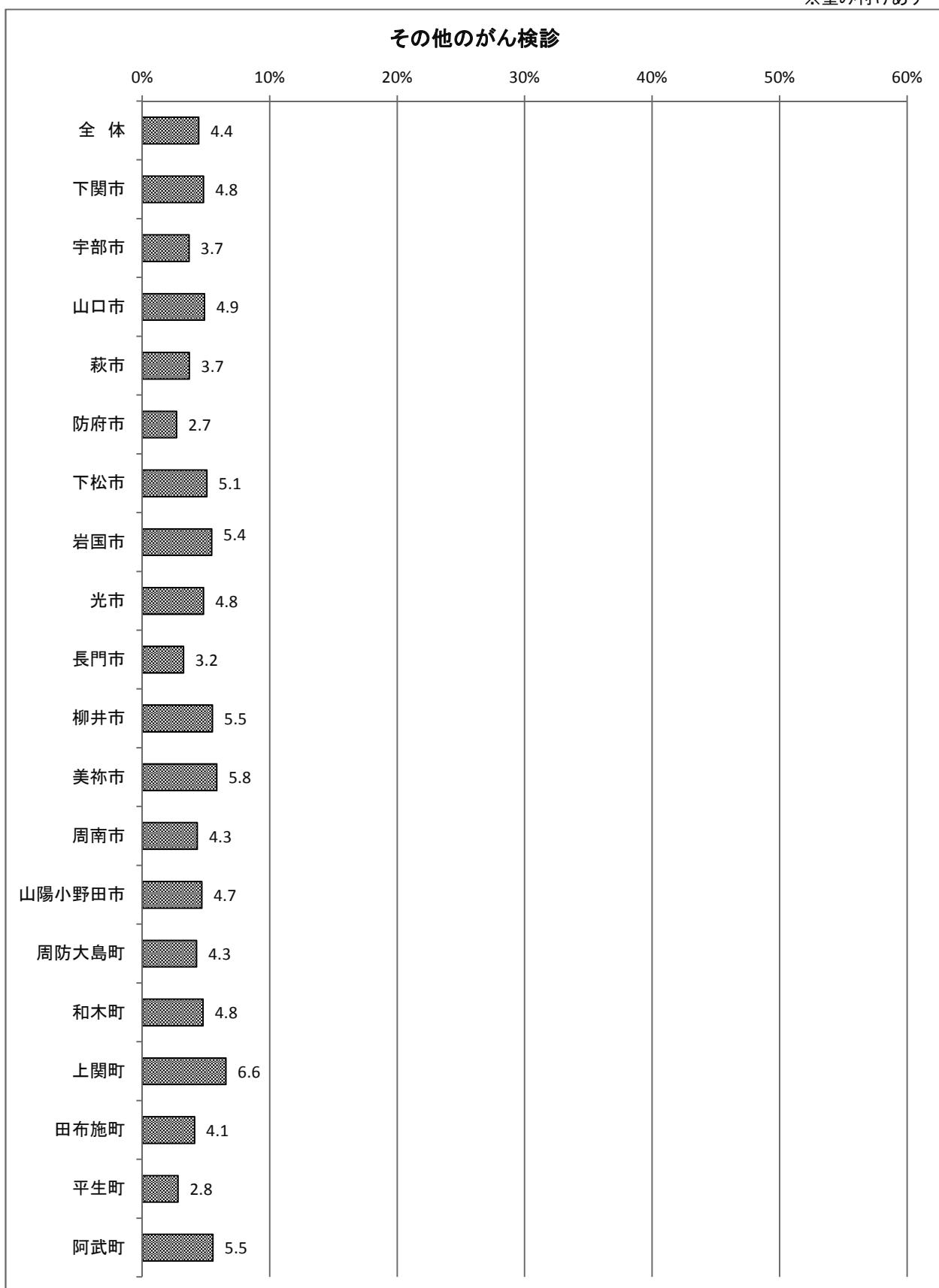


※40代～60代のみ
※重み付けあり



※40代～60代のみ
※重み付けあり

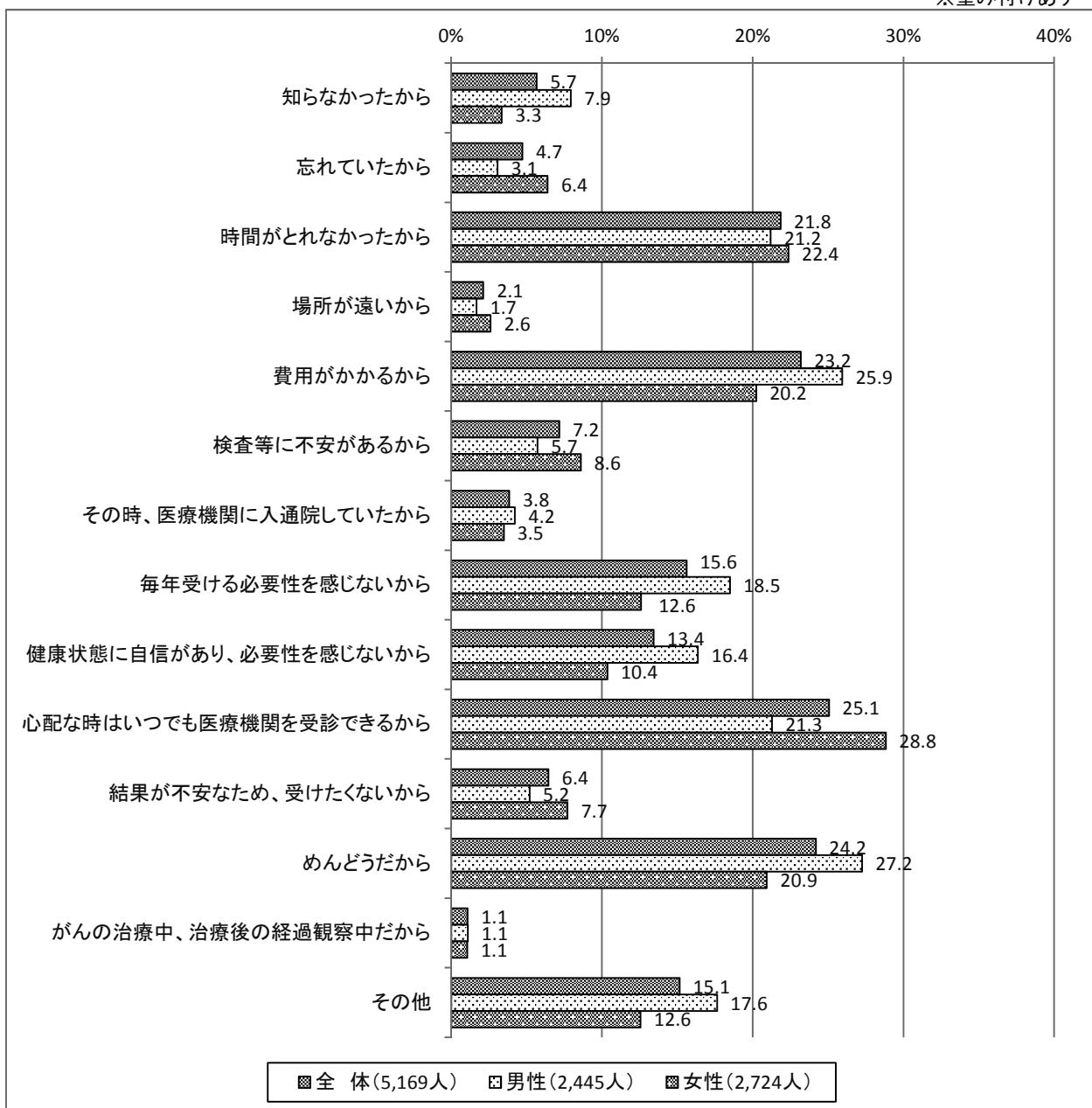
その他のがん検診



問25-1 それは、どのような理由で受けなかったのですか。(あてはまるものすべてに○)

※問25でがん検診を受けていないと回答した人のみ

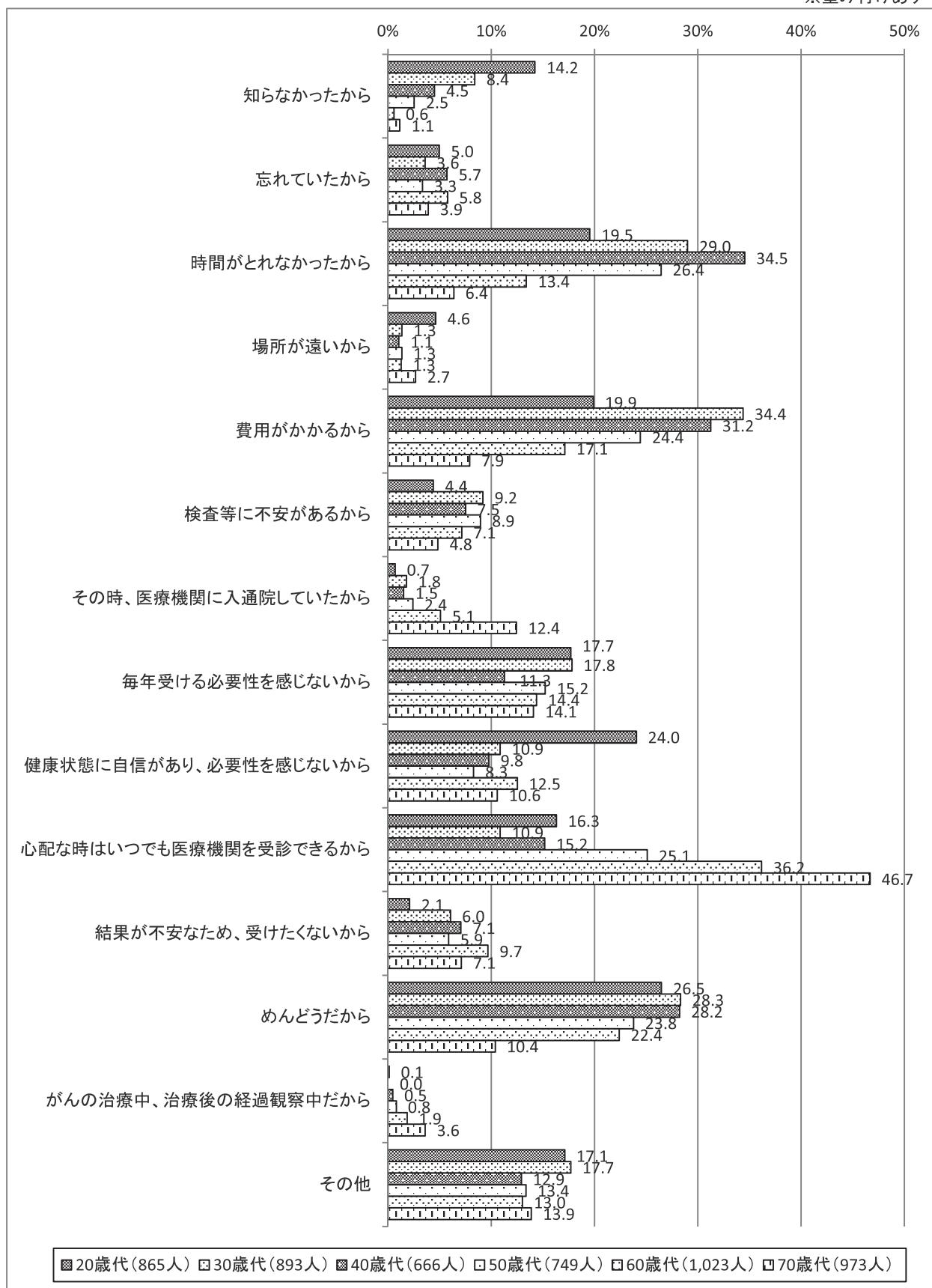
※重み付けあり



検診を受けなかつた理由としては、「時間がとれなかつたから」、「費用がかかるから」、「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」、「めんどうだから」という回答割合が高く、全体の集計では、それぞれ20%から25%程度となつた。これらの項目は、性別の集計においても割合が高かつた。

年代別の集計では、「時間がとれなかつたから」、「費用がかかるから」、「めんどうだから」と回答した割合は、20歳代から50歳代で高く、「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」と回答した割合は、60歳代、70歳代で高かつた。これは、年代毎のライフスタイルの影響が一因として考えられる。

※重み付けあり

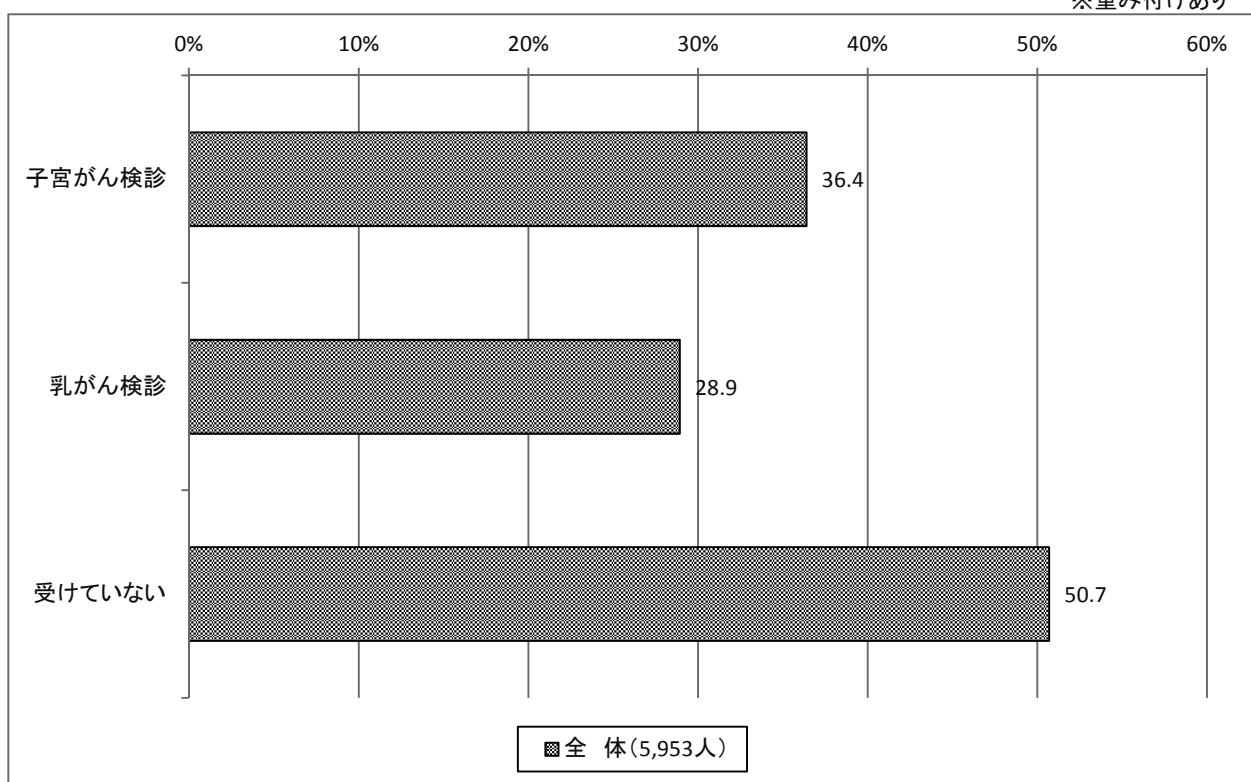


■20歳代(865人) □30歳代(893人) ■40歳代(666人) □50歳代(749人) □60歳代(1,023人) □70歳代(973人)

問26 あなたは、この2年間に、以下のがん検診を受けましたか。(あてはまるものすべてに○)

※女性のみ回答

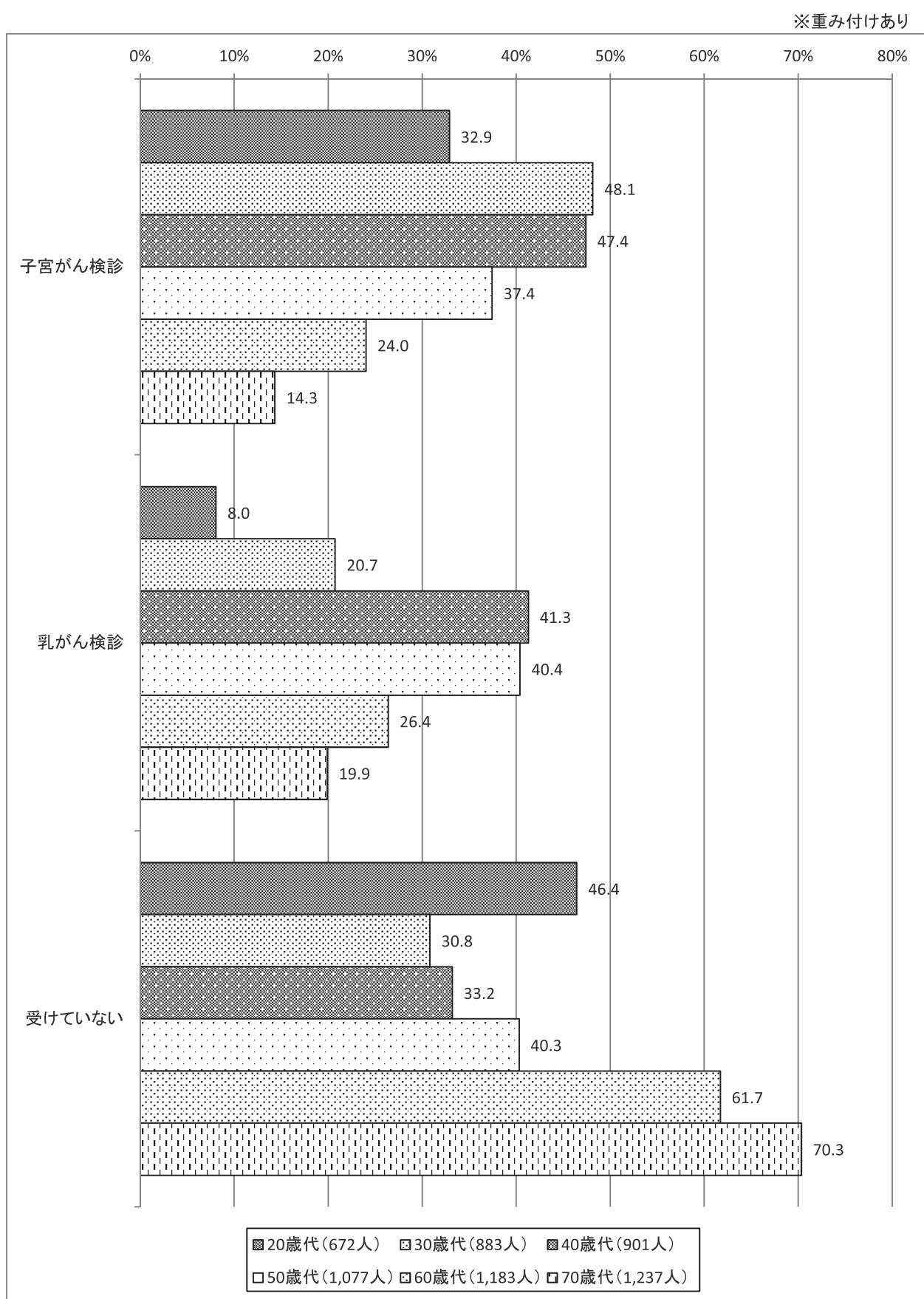
※重み付けあり



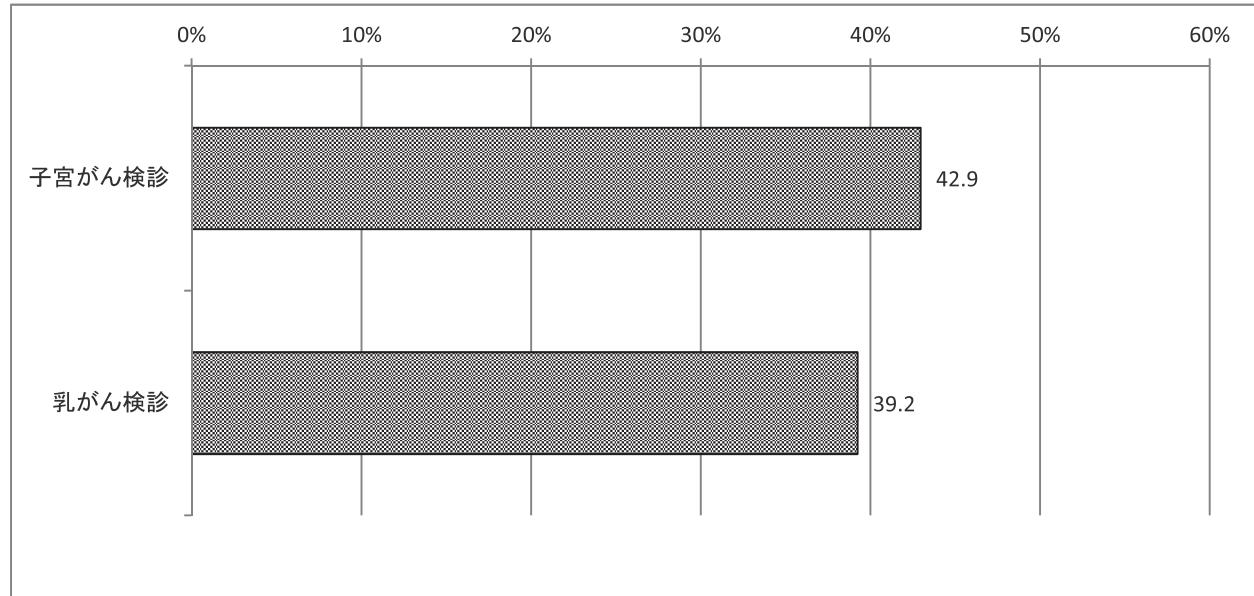
「子宮がん検診」を受けた女性は36.4%、「乳がん検診」を受けた女性は28.9%、いずれも「受けていない」女性は50.7%となった。

年代別の集計では、30歳代、40歳代において、「受けていない」と回答する割合が低く30%程度であり、この年代では70%程度が「子宮がん検診」、「乳がん検診」のいずれかを受けていた。

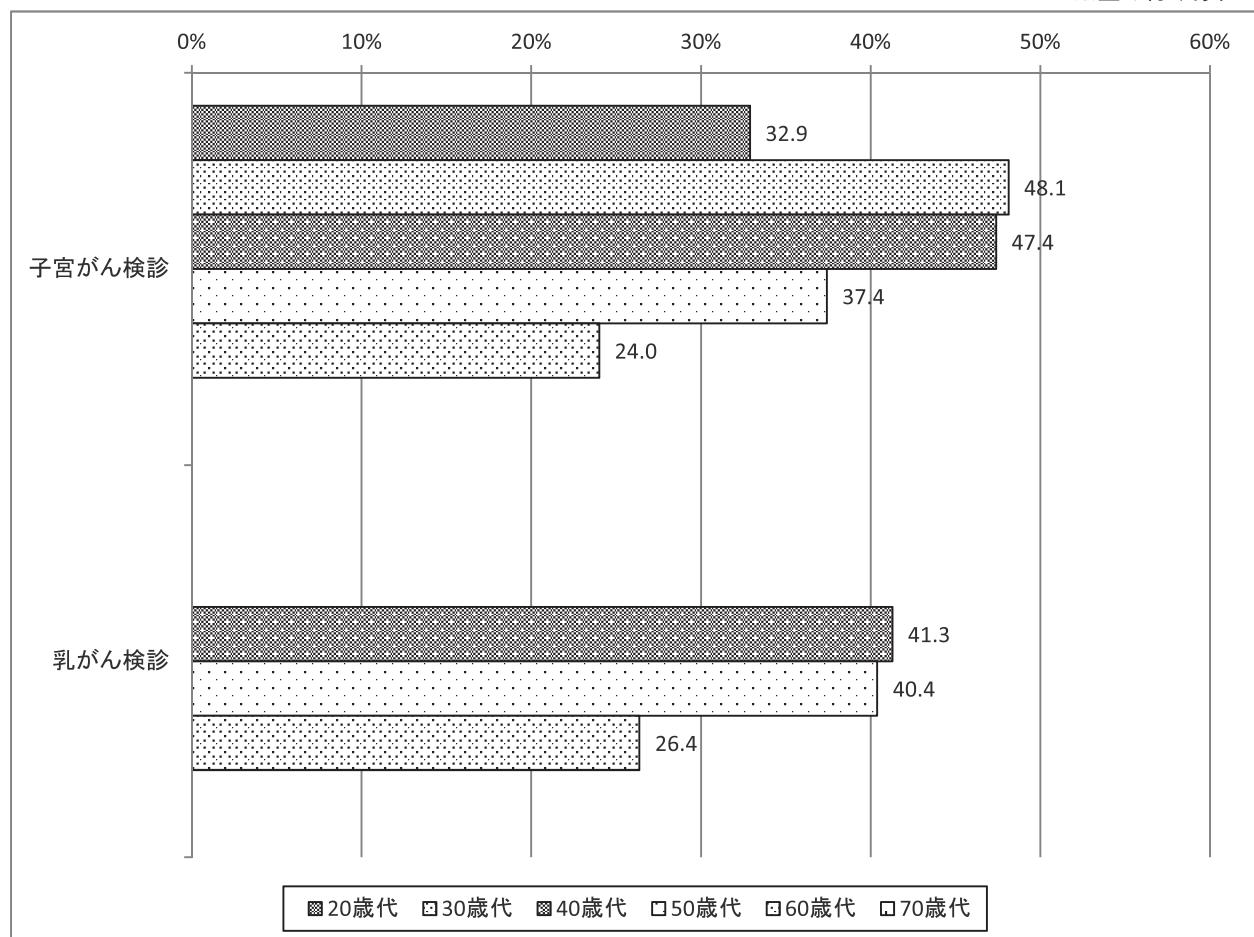
参考値 平成25年国民生活基礎調査 子宮がん検診 42.1%、乳がん検診 女：43.4%



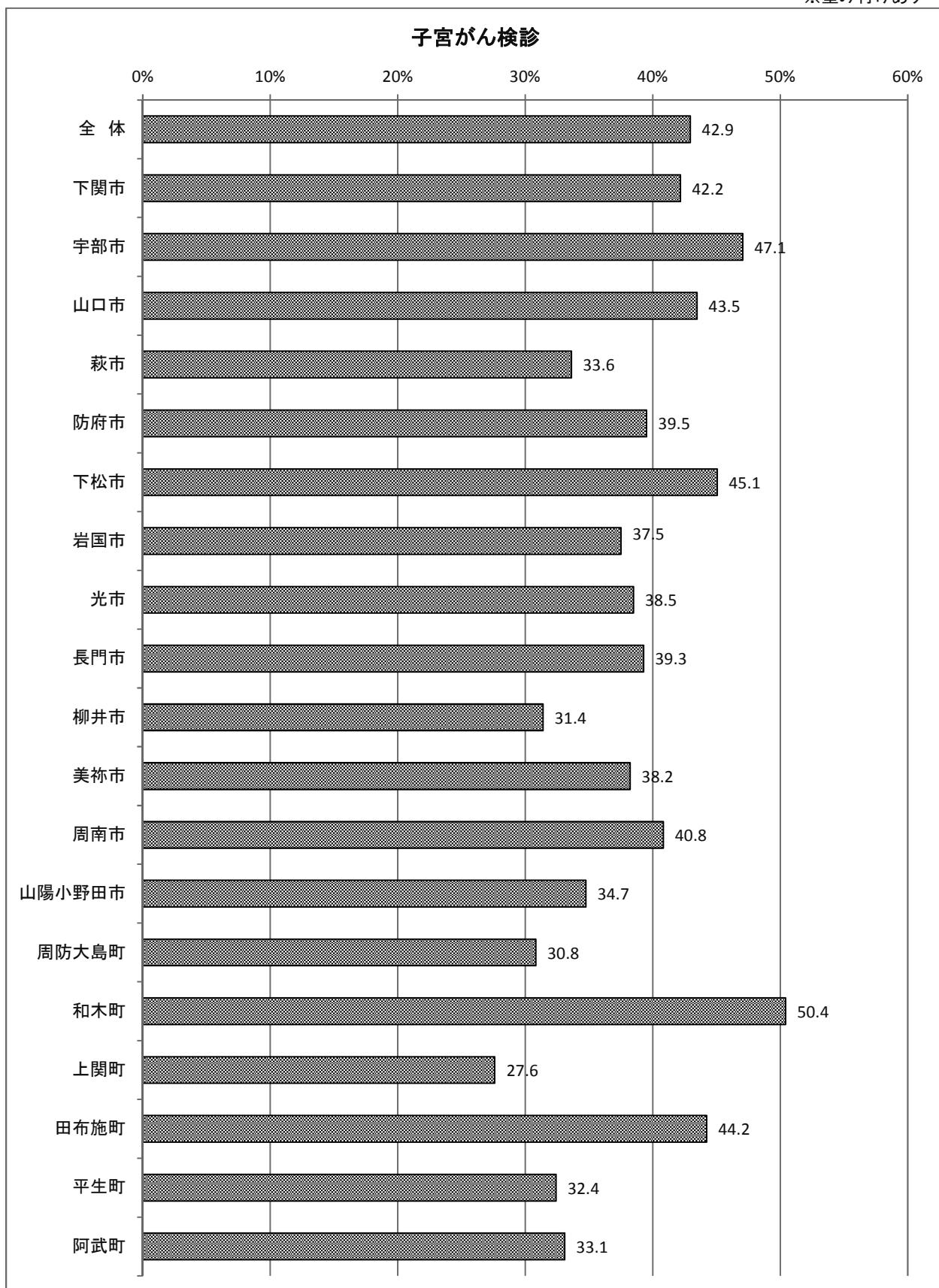
※40代～60代のみ(子宮がんは20代～60代)
※重み付けあり



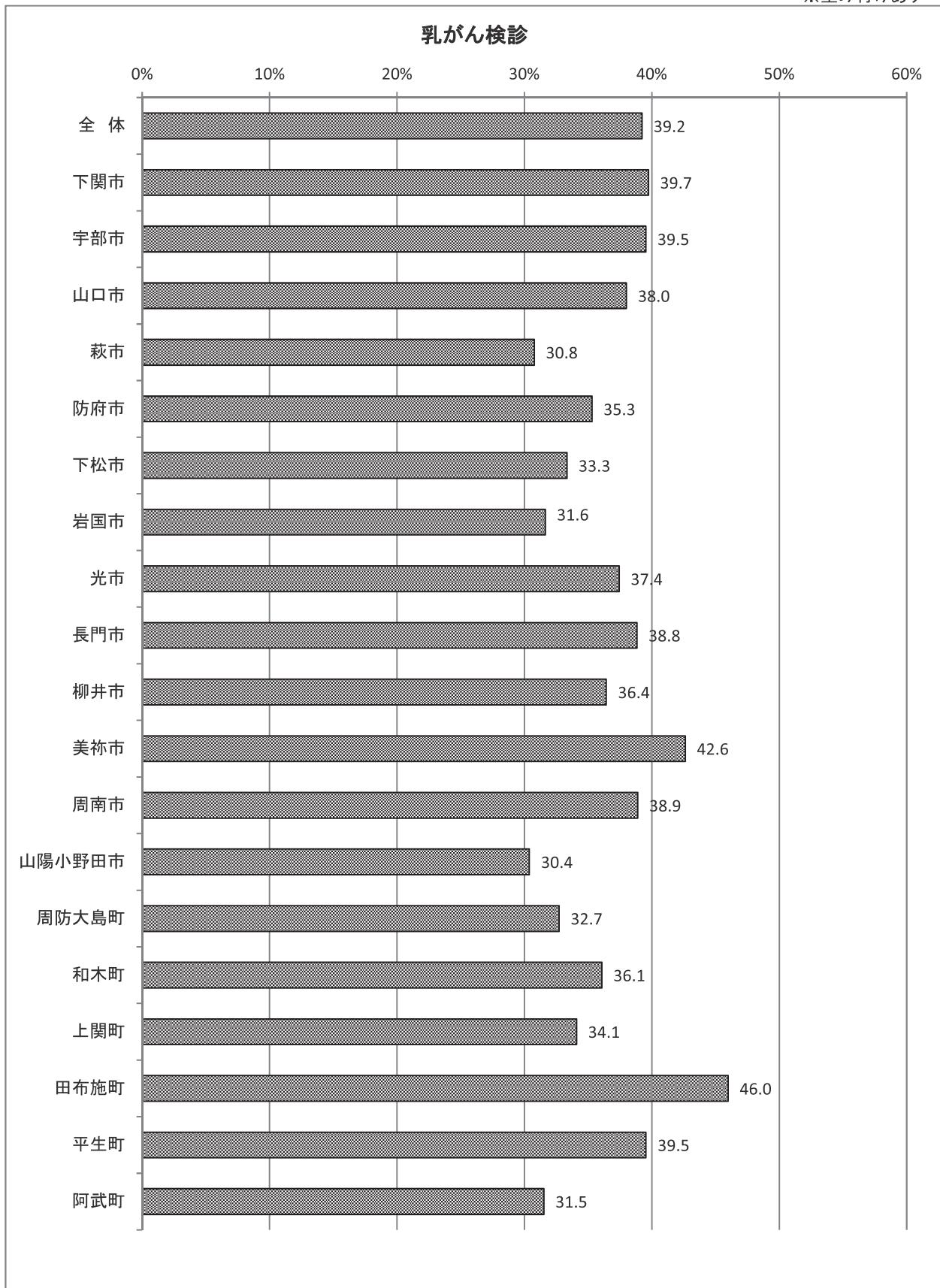
※40代～60代のみ(子宮がんは20代～60代)
※重み付けあり



※20代～60代のみ
※重み付けあり

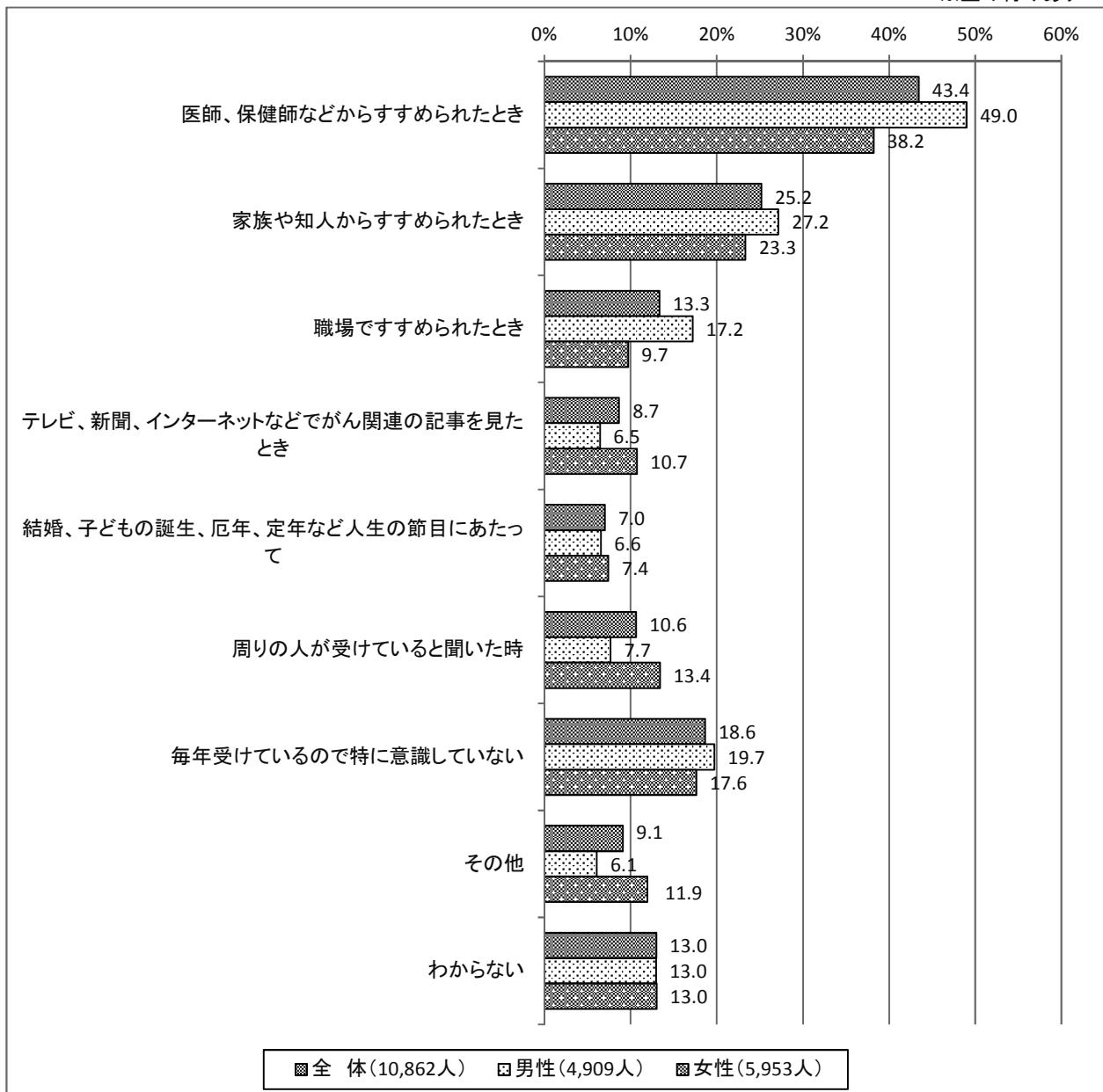


※40代～60代のみ
※重み付けあり



問27 あなたは、どういう状況の時、がん検診を受けようと考えますか。(○は3つまで)

※重み付けあり

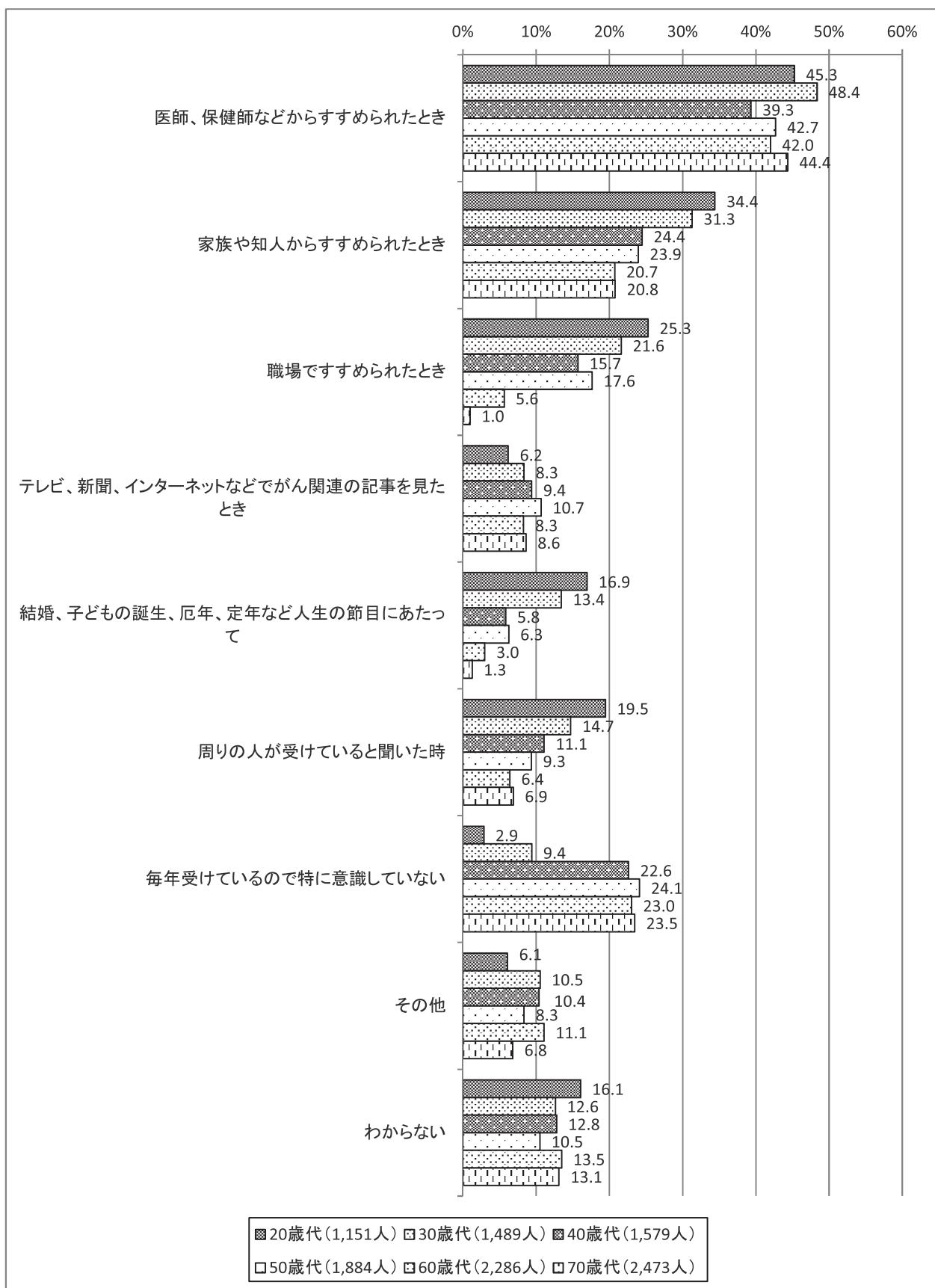


全体の集計において、がん検診を受けよう考える状況が「医師、保健師などからすすめられたとき」と回答した割合が43.4%と最大となった。次点で「家族や知人からすすめられたとき」が25.2%となった。また、18.6%が「毎年受けているので特に意識していない」と回答した。

性別の集計においても、男女間の回答割合に差は認められるものの同様の傾向があった。

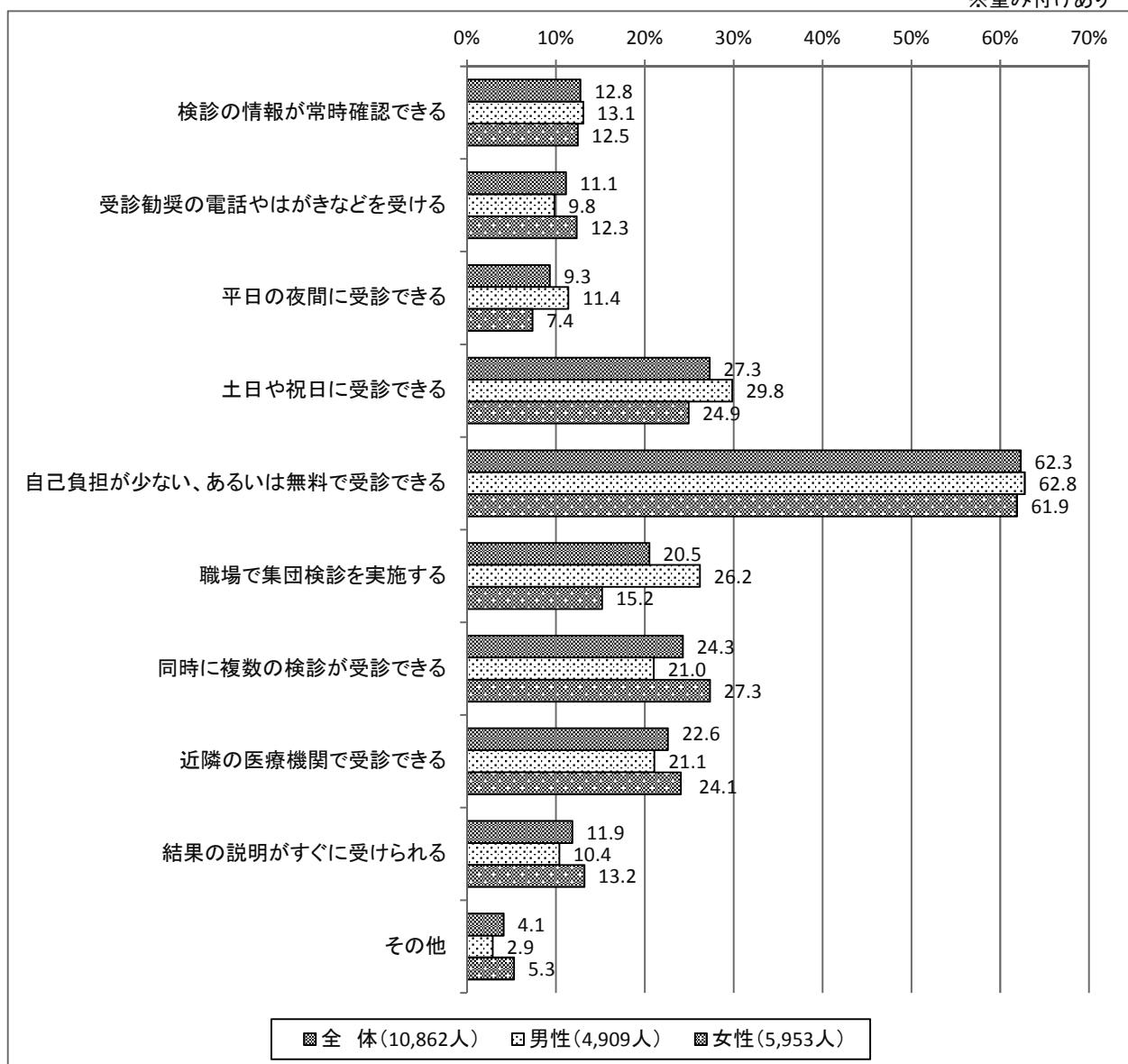
年代別の集計でも、「医師、保健師などからすすめられたとき」と回答した割合は、各年代で高く、「毎年受けているので特に意識していない」と回答した割合は、40歳代以降横ばいで20%強となった。

※重み付けあり



問28 どうすれば、がん検診を受けやすくなると思いますか。(○は3つまで)

※重み付けあり



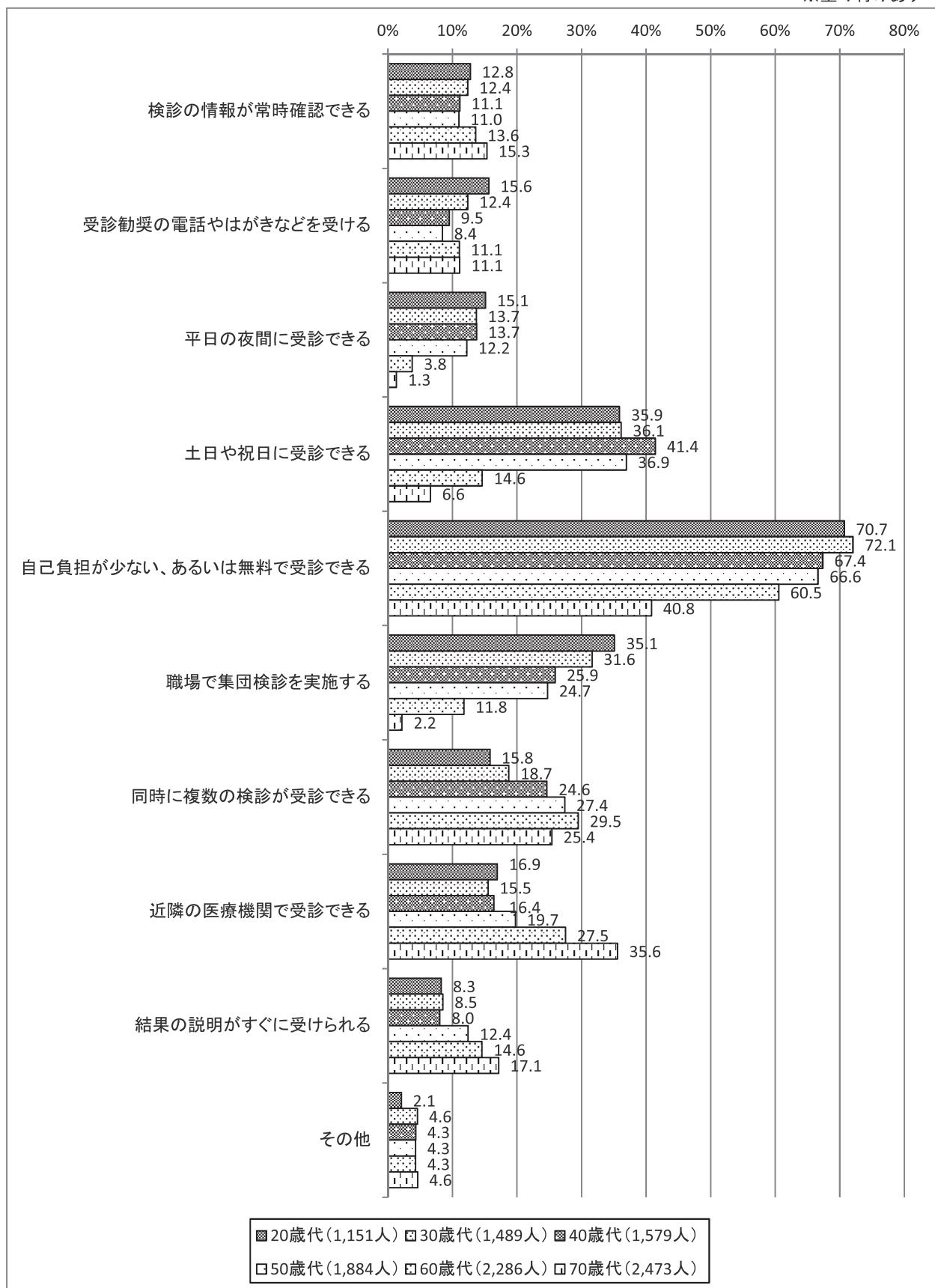
「どうすれば、がん検診を受けやすくなると思いますか。」という問い合わせに対し、全体の集計では「自己負担が少ない、あるいは無料で受診できる」と回答した割合が最も高く62.3%であった。

性別の集計においても、同様の結果が得られた。

年代別の集計において、20歳代から60歳代では「自己負担が少ない、あるいは無料で受診できる」と回答した割合が他の回答項目と比較しても高く6割を超えた。70歳代では「自己負担が少ない、あるいは無料で受診できる」に次ぎ「近隣の医療機関で受診できる」と回答した割合も多かった。

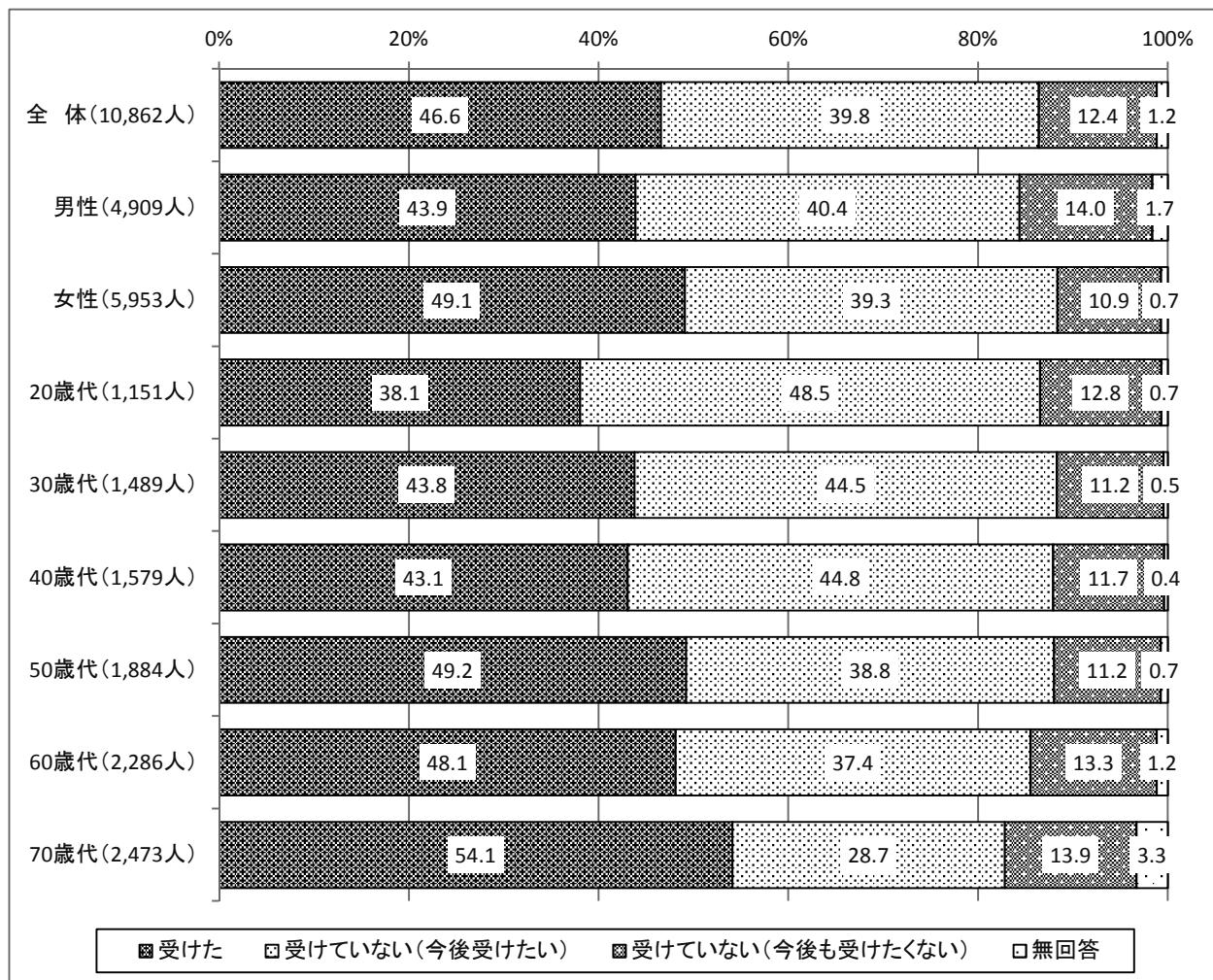
参考値 平成25年県民意識調査 「自己負担が少ない、あるいは無料で受診できる」 65.9%、
「同時に複数の検診（健診）が受診できる」 26.8%、「土日や祝日に受診できる」 26.4%

※重み付けあり



問29 あなたは、この1年間に、歯科検診を受けましたか。(○は1つ)

※重み付けあり



「あなたは、この1年間に、歯科検診を受けましたか。」という問い合わせに対し、全体の集計で46.6%が「受けた」と回答、また、39.8%が「受けていない(今後受けたい)」と回答した。全体の8割以上が歯科検診を受ける必要性を感じていた。

性別別の集計においても、「受けた」または「受けていない(今後受けたい)」と回答した割合は、男女共に8割を超えており、多くが歯科検診を受ける必要性を感じていた。実際に「受けた」と回答した割合は、男性の方がやや低く43.9%、女性で49.1%であった。

年代別の集計においても、「受けた」または「受けていない(今後受けたい)」と回答した割合は、各年代で8割を超えており、多くが歯科検診を受ける必要性を感じていた。実際に「受けた」と回答した割合は、20歳代で低く38.1%、それ以降の年代では、年を重ねるにつれて「受けた」と回答する割合が増加する傾向にあった。

参考値 平成25年山口県健康づくりに関する意識調査 「受けた」 47.7%

※重み付けあり

